

●国際連合大学 2011-2012 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・埼玉県さいたま市・京都府与謝野町・宮城県気仙沼市・岡山県岡山市・福岡県・大阪府

2012年1月11日(水) — 1月22日(日)

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

はじめに

国際連合大学(United Nations University)は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けてユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施を担当し、昨年まで11回にわたり、1,250名以上の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2012年1月11日(水)から1月22日(日)までの12日間にわたり、韓国の小・中・高等学校の教職員等148名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育科学技術部、および埼玉県さいたま市・京都府与謝野町・宮城県気仙沼市・岡山県岡山市・福岡県の各教育委員会、訪問先の学校、その他の教育・文化施設等、多数の方々のご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2012年3月
国際連合大学
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

第I章 実施内容

1. 全体プログラム(東京)3
2. グループ・プログラム(各県・市) 10
3. 全体プログラム(京都・大阪) 35

第II章 コメントと提案

1. 韓国教職員43
2. 受入れ教育委員会 64
3. 主な受入れ学校および機関 69

付録

1. 実施要項 87
2. プログラム日程 89
3. 参加者リスト 96
4. 関係機関リスト 106
5. 文部科学省講義資料 109
6. 報告会発表資料115
7. 過去のプログラム実績119

第1章 実施内容

1. 全体プログラム(東京)
2. グループ・プログラム(各県・市・町)
3. 全体プログラム(大阪)

1.全体プログラム（東京）

1-1.来日、オリエンテーション（第1日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者 148 名は、2012 年 1 月 11 日（水）に来日した。

同日、滞在先のホテルメトロポリタンエドモント 2 階「悠久」にて、オリエンテーションが行われた。はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）島津正数事務局長から参加者に歓迎のあいさつが述べられたあと、それぞれのグループに随行する ACCU 担当スタッフが紹介され、最後に ACCU 職員よりプログラム日程の説明や滞在ガイダンス等が行われた。

1-2.開会式（第2日）



国際連合大学 加藤敬大学院事務局長あいさつ



文部科学省池原充洋課長



ACCU 山根隆理事

理解の促進を目的として実施されてきている、短い期間ではあるが、今回の訪問が日



金甫燁参事官



朴銀瓊団長

本の学校教育の制度およびその現状、持続可能な開発のための教育（ESD）の状況、日本の文化に触れるよい機会になることを希望する、と述べた。続いて ACCU より山根隆理事、文部科学省より大臣官房国際課の池原充洋課長、駐日本国大韓民国大使館の金甫燁（キム・ボヨップ）参事官からあいさつがあった。

最後に、訪問団を代表して朴銀瓊（パク・ウンギョン）団長が、ESD は日本がヨハネスブルクサミットで発表して以来、定着してきているものと聞いている。日本が ESD に力を尽くしている状況を観察していきたい、と述べた。また今回の C グループは昨年 3 月の震災・津波で大きな被害をうけた宮城県気仙沼市を訪問する予定であり、復興の過程にある現在の実情をしっかりと見てきてほしい、とあいさつした。

1-3.講義 I（第2日）

「日本の初等中等教育制度について」
文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 南野 圭史



南野圭史課長補佐

開会式に続き、同会場にて、日本の初等中等教育制度について、文部科学省の講義が行われた。講義内容は、以下の通りであった。

- 1) 学校教育制度
- 2) 初等中等教育段階の学校数、在籍者数、本務教員数
- 3) 在籍者数、就園率・就学率の経年変化
- 4) 義務教育制度の概要
- 5) 教育行政制度の概要（国・都道府県・市町村の役割）
- 6) 教育委員会制度の概要
- 7) 新しい教育基本法の概要（平成 18 年 12 月成立）
- 8) 教育の目標
- 9) 新しい学習指導要領

- 10) 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動の例
- 11) 小学校の標準授業時数
- 12) 中学校の標準授業時数
- 13) 高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数
- 14) 教科書制度の概要
- 15) 教員養成・免許制度の概要
- 16) 特別支援教育
- 17) 公立高等学校の授業料無償化制度の概要

その後の質疑応答では、主に以下の内容について積極的に質問があった。

- ・特別支援教育が必要な生徒が増えている理由
- ・高等学校の中退率
- ・特別支援の必要な生徒と一般の生徒と共同で教育を行う機会
- ・日本の学習指導要領の変更頻度
- ・教員評価

1-4.講義Ⅱ（第2日）

「日本のESDの現状について」

文部科学省 国際統括官補佐 井村 隆



井村隆国際統括官補佐

講義Ⅰの後、昼食を挟み、「日本のESDの現状」について文部科学省の講義が行われた。講義内容は、以下の通りであった。

- 1) 持続発展教育（ESD）について
 - 2) ESDに関する我が国の取組
 - 3) ESDに関する文部科学省の取組
 - 4) 国立教育政策研究所について
 - 5) ユネスコスクールについて
 - 6) ユネスコスクールとESD
 - 7) ユネスコスクールの加盟状況
 - 8) ユネスコスクールへの支援
 - 9) 企業におけるユネスコスクールへの支援
 - 10) 各教育機関・地域に期待される役割
- その後の質疑応答では、主に以下の内容について積極的に質問があった。
- ・ESDの団体・個人による事例

- ・東北地方のESD
- ・ESDをテーマとした日本の学校との交流
- ・ESD活動へのモチベーション向上の方法

1-5.ACCU事業紹介（第2日）

「ACCUのESD教材について」
ACCU 事業部次長 柴尾 智子



ACCU 柴尾智子事業部次長

続いて、ACCUよりACCUのESD教材が紹介された。

身近な正月の注連飾りを例示し、注連飾りをはじめ、どの

ようなものであっても、環境、社会、経済、文化的背景等「持続可能性」を考えるための教材になり得る、と説明した。その上でACCUの以下の教材を紹介した。

- 1) 「ESD教材活用ガイドー持続可能な未来への希望」（2008年制作）
- 2) 「ひろがりつながるESD実践事例48」（2011年制作）
- 3) 識字アニメ「ミナ笑顔」（1993年制作）
- 4) 環境教材「PLANET」シリーズ（1997年制作）

1-6. 歓迎交流会（第2日）

同日 18 時より、同ホテル 2 階の「万里」において国際連合大学主催・文部科学省協力・ACCU 運営による歓迎交流会が開催された。

はじめに、D グループが訪問する、自由学園男子部高等科の生徒と同校の武田若菜教諭による木管楽器と歌の演奏が披露された。



山中伸一文部科学審議官

式では国際連合大学 武内和彦副学長をはじめ、文部科学省の山中伸一文部科学審議官、駐日本国大韓民国大使館より金甫燁参事官、

ACCU の老川 祥一理事があいさつした。山中文部科学審議官は、通訳を介せず自身が日本語と韓国語であいさつをし、会場を盛り上げた。また、それぞれの来賓からは、訪問団を歓迎し、本プログラムにおいて日本の教職員や児童生徒と交流し大いに学び、帰国後に活かしてほしい、とのあいさつがあった。その後、ACCU より訪問団の朴団長と、韓国ユネスコ国内委員会の金承潤（キム・スンユン）協力事業部長、韓国教育科学技術部の權熙品（クオン・ヒジョン）氏に記念品の贈呈が行われ、訪問団からも記念品が贈られた。



自由学園男子部高等科の演奏

日本側出席者の中には、同年 8 月に日本教職員団として韓国を訪問した日本教職員もおり韓国人参加者と再会を喜ぶ場面も見られた。また東京近郊訪問先の教職員もおり、参加者と早くも話が盛り上がっていた。例年同様、財団法人辻アジア国際奨学財団、および今年度プログラムでは日本サムスン株式会社より通訳協力をいただき、韓国教

職員は終始、他グループの参加者や日本側出席者と、会が延長する程、和やかに懇談を楽しんでいた。



歓迎交流会来賓（左より、田村哲夫 ACCU 理事長、金韓国大使館参事官、朴団長、山中文部科学省文部科学審議官、老川 ACCU 理事、武内国際連合大学副学長）

1-6. 学校、教育文化施設訪問（第3日）

(1)A グループ 横浜市立永田台小学校

ソウル新龍山小学校の金鐘徳（キム・チョンドク）校長をグループ長とし、30 名で構成された A グループは、1 月 13 日（金）終日、横浜市立永田台小学校を訪問した。

同校は、2010 年に横浜市で初めてユネスコスクールに加盟した学校である。全学年を挙げて「命の授業」を実施し、命を基盤とした ESD の推進を行っている。また、エコプロダクツ展 2011 に全校で出展する等、地域との連携を図り、子供たちの輝く場を設定し、自信を持って発信し、その成果を実感する教育に力を入れている。

学校へ到着すると、韓国教職員は全校児童による歓迎会に招待された。はじめに住田昌治校長から歓迎のあいさつがあり、金グループ長よりお礼の言葉が述べられ、記念品の贈呈が行われた。次に、同校の児童による伝統遊びの披露や演奏があり、韓国教職員も「扇の舞」や「浜辺の歌」等を披露した。続いて、同校の PTA 会長、および韓国語のできる保護者が加わり、3 グループに分かれて授業見学が行われた。韓国教職員は、同校で「命の授業」を教えている、特定非営利活動法人環境経営学会の若尾久理事（カシオ計算機株式会社 秘書渉外部 CSR 推進室 担当課長兼務）による 1

年生の授業を見学した他、音楽（琴）や算数、国語等の授業を視察した。その後、韓国教職員は2人ずつ15クラスに分かれ、児童と交流しながら給食をとった。韓国教職員は、自分の学校の事を紹介したり、児童と写真を撮ったりして、和やかな交流ができた。昼食後は、若尾氏への質疑応答の時間となり、企業と学校との連携等について韓国教職員は熱心に質問をしていた。その後、若尾氏から「命の授業」の受講者として、記念品が韓国教職員一人ひとりに渡された。また、3年生の児童代表から、同校3年生のESDテーマである「命のアサガオ」の種が手渡された。その後、教員との意見交換の時間があった。まず、同校のESDの全体概要説明があり、その後各学年の指導教員から、各学年でのESDの取組みについての説明があった。次に質疑応答の時間があり、韓国教職員からは、ESDの小学校・中学校の一貫性、給食の指導等についての質問があった。2011年8月の訪韓プログラムで韓国を訪れた同校の教員からも質問があり、活発な意見交換を行った。最後に記念撮影をして、温かいお見送りを受けながら、一行は学校を後にした。



永田台小学校にて、若尾氏による「命の授業」を見学

(2)B グループ 市川市立稲越小学校

B グループは浦項製鉄東（ポハンジェチヨルドン）小学校の権鍾元（クオン・ジョンウォン）校長をグループ長とした30人で構成される。

1月13日（金）、一行は学校訪問第1校目である市川市立稲越小学校を訪問した。稲越小学校はBグループの訪問校の中で唯一のユネスコスクールであり、2011年11月に開催された第3回ユネスコスクール全国大会で審査員特別賞を受賞している。同校では、給食残存率0%を目標に掲げた食育や異年齢縦割り集団「ぼかぼかグループ」など、人間性を育むESD活動を中心とした教育活動が行われている。本多成人校長は、2011年8月の韓国政府日本招へいプログラムの訪韓団の一員であった。

当日は市川市教育委員会から田中庸恵教育長も駆けつけられ、「限られた時間ではあるが、プログラムの中で日本の教育制度と現状を理解し、両国の相互理解と友好の促進をして欲しい」と挨拶が述べられた。

稲越小学校の児童に一番人気があるキムチチャーハンを給食で味わったあと、一行は生徒による「そうじ」を見学した。韓国の学校には無い「給食の配膳」や「そうじの時間」に韓国教職員たちは驚いた。特に「そうじの時間」についてはたくさんの質問が集中したが、稲越小学校の教員の説明により日韓の教育の違いを理解した。また、当日のPTAの協力を見て、学校とPTAの連携も垣間見られた。

一行は午後、5年生の英語の授業と6年生の書写の授業に参加した。英語の授業では、児童が韓国教職員と二人一組になり、英語で質問をしあって児童とともに楽しく授業を受けた。

その後の教職員同士の質疑応答は、日韓両職員ともに活発な意見交換が行われ、時を忘れるほどであった。

また当日、韓国教職員から出た希望により、同校に併設する市川市立須和田の丘支援学校（別法人）の視察を行った。同校の了解を得て、韓国の支援学校と支援学級で教鞭をとる教職員数名が、稲越小学校の職員と共に支援学校を視察した。

韓国教職員団は学校訪問を終えたあと、同校の1室を借りて第1回情報共有会を行い、東京の宿泊ホテルへ戻った。



稲越小学校にて、英語の授業に参加し児童と交流する韓国教職員

(3)C グループ 荒川区立原中学校

水フォーラム総裁朴銀瓊（パク・ウンギョン）総団長とソンポ高等学校校長景惠永（キョン・ヘヨン）グループ長率いるCグループ30名は、1月13日（金）、荒川区立原中学校を訪問した。

同校は、2年前までは生活指導困難校であったが、生活指導・教育相談・道徳授業の充実を図り、落ち着いた学校になってきており、生活指導では、あいさつの励行や自律心を育てる指導、さらに生徒が生き生きと活動できる部活動の活性化を課題とし、教職員一丸となって取り組んでいるという。

学校に到着すると、まず刑部之康校長より、原中学校の生徒たちは素直なので、先生方からどんどん話しかけてほしい、とあいさつがあり、続いて、2年前に韓国から来たユン・ヨンス君から、日本での学校生活について、明るく楽しい友人と楽しく過ごしているとの話があった。

3、4校時には2グループに分かれ、韓国教職員は授業交流に参加し、1年生のクラスにて、忠清南道教育委員会の李吳求（イ・テグ）学校政策課長より、「韓国の強さのひみつ」についての授業と、民族史観高等学校の黄亨柱（ファン・ヒョンジュ）教頭と、朴惠善（パク・ヘソン）教諭による韓服の着付け体験が行われた。また、訪問団は、区内で最も充実しているという、体育館、図書館、プールなどの学校施設と、

2年生、3年生の授業風景を見学した。

給食は、韓国教職員が教室に招かれ、生徒たちに一番人気のあるキムチチャーハンを生徒たちと共にいただいた。また、韓国教職員からは、キムチが生徒たちに差し入れされ、生徒たちも本場の辛いキムチに挑戦しながら、英会話や身振り手振りで韓国教職員と積極的に交流を楽しんでいた。

昼食後は、教職員との意見交換会となり、韓国教職員からは、給食について、韓国では食堂で食べるが、日本では教室で担任、副担任と共に食事をするということがわかった。温かい家族的な雰囲気がとても良いと感じたが、しかし、先生たちは食事の間も休むことができないのではないかと、といった意見が挙がり、職務時間について、日韓の教職員同士、互いに授業数を確認したり、授業以外に生活指導や事務、会計など、どのような業務を行うかといった情報交換をするなど、日韓の教員がどちらも同じように忙しいと、互いに共感していた。

最後に、訪問団から記念品のソツテ（韓国の村を守る鳥をモチーフとした柱）が刑部校長に贈られ、景惠永（キョン・ヘヨン）グループ長から訪問の御礼のあいさつが述べられた。一行は校門の前で集合写真を撮影した後、原中学校を後にした。

同日夕方、一行は、東京江戸博物館を訪れ、江戸文化の一端に触れ、江戸東京の歴史的背景を学んだ。



原中学校にて百人一首の授業を見学

(4)D グループ

自由学園 男子部中等科高等科・女子部中等科高等科

保聖（ボソン）女子中学校の洪慈純（ホン・ジャスン）校長をグループ長に、中学校・高等学校教職員を中心とした D グループ 28 名は、1 月 13 日（金）終日、自由学園 男子部中等科高等科・女子部中等科高等科を訪問した。

同校は 1921 年創立、10 万㎡に及ぶ自然豊かなキャンパスを生徒が自治運営し学びの場としているキリスト教の学校である。

「生活即教育」が基本理念で、自ら考え行動し人生の土台を築く、幼稚園から大学までの一貫教育を行っている。

学校へ到着すると前日の交流会からの再会を互いに喜んだ。まず矢野恭弘学園長による教育概要説明が行われた。「入学すると使う机を自分で作る」「ご飯を釜で炊いて食事の用意をする」といった場面では韓国側から感心する声が上がリ「真の自由とは責任が伴う」という言葉にうなずいていた。次に生徒代表による学校紹介があり、女子部から「130 人分の食事を 6 人で、約 30 分で作る。薪で炊くのでおいしい」、男子部から「キャンパス内で野菜のほか豚や蜂も育てそれを食す」という説明では笑い声もあがった。志望動機、礼拝、調理上の安全確保、坊主頭などの韓国側からの質問には「自然が好きなのでこのキャンパスが好き」「不満もあったが高校生になれば質素な生活のよさが理解できる」と生徒が答えた。「寮生活も含め自治は大変ではないか」という質問には、更科幸一男子部副部長が生徒の心を落ち着かせる非言語での方法「タッピングタッチ」を説明した。学園内ではもちろん地元や東日本大震災の被災地での実績を聞いた後、実際に高校 2 年生と韓国側がペアになりやってみたところ「祈りのよう」「大切にされていると思えた」「男の子にとってゆっくりした動きは難しいはずなのに真剣に優しくしてくれた」といった感想があがった。昼食は 2 班に分かれ女子部、男子部それぞれの食堂で生徒と共に金管楽器演奏や震災支援の発表を聞きながらいただいた。その後小川の流れる農園などキャンパス内を見学した。土や動植物の臭い、木

洩れ日、風でそよぐ音を満喫できるという声が聞けた。教員同士の意見交換ではこれまでの見学を経て「素晴らしい自然環境のなか創意工夫ある生活をしており自然に ESD が行われている」という感想があがった。学園側からは平和教育について質問があがり「教科はないが安保教育があり、安全保障がなければ平和はない」との答えがあつた。2 班に分かれて話したが約 30 分も延長となり、最後は校門前で記念写真を撮り、別れを惜しみながら学園を後にした。



自由学園にて「タッピングタッチ」で生徒と交流

(5)E グループ

筑波大学附属坂戸中学校・高等学校

済州中央高等学校の夫在浩（プ・ジェホ）校長をグループ長とする高等学校の教職員を中心とする E グループの 30 名は、1 月 13 日（金）、埼玉県にある筑波大学附属坂戸高等学校を訪問した。同校は、高大連携による、先導的教育、国際教育、教師教育の研究増進を図っている高等学校で、インドネシア、タイ、台湾などの高校との交流や共同研究なども行っている。1994 年には日本初の総合学科高校として改編し、キャリア教育の先進校として評価されている。

2011 年にはユネスコスクールとしての認定を受け、総合学科の特色を生かした多角的アプローチによる ESD（持続発展教育）の実践を図っている。

到着すると、訪問団は、桐蒼会館にて中村徹校長から歓迎のあいさつを受け、その後、石井克佳主幹教諭より学校の概要について説明を受けた。

その後 2 グループに分かれて、校内見学

が行われ、生物、数学、英語の授業参観のほか、校内にある農場、工場を見学した。訪問団は、特別教室や生徒指導室、進路相談室などさまざまに興味を示し、特に進学に関しては関心が高く、部活と受験勉強のバランス、日本の AO 入試について、偏差値、進学状況など熱心な質問があいついだ。そのほか、農場や工場見学時には、教師の異動について、教員の宿舎について、収穫した野菜の販売などについて、質問があった。

全員が集合しての昼食が終わると、午後はふたたび2グループに分かれ、2箇所の会場にて3年生が卒業研究として行った研究3点ずつの発表を聞いた。パワーポイントで準備された内容は多岐に渡るもので、ゆとり教育を受けた世代から見たゆとり教育の意義、スロージョギングの効果、桜の葉の蛍光物質、変化アサガオ、布絵本、パソコンでの音楽ゲームの開発など、生徒の興味を最大限に引き出してまとめさせたもので、訪問団の高い関心呼んだ。生徒との交流後は桐蒼会館にもどり韓国側が準備した韓国のユネスコスクールについて、2校の教員から事例発表があった。一方坂戸高校側からは、礼儀や作法などについての韓国側からの質問に対し、ひとつの事例として、同校が行っているコミュニケーション・キャンプについて発表があった。

発表などに時間がかかったため教員同士の質疑応答の時間はほとんど取れなかったが、来日後初めて訪問する日本の学校に対する興味は尽きなかった。



筑波大学附属坂戸高等学校にて生徒の研究発表を聞く

2. グループ・プログラム (各県・市・町)

2-1. Aグループ: 埼玉県さいたま市

ソウル新龍山（シンヨンサン）小学校の金鐘徳（キム・チョンドク）校長をグループ長に、主に小学校教職員を中心とした Aグループ 30名は、1月15日（日）から20日（金）までの6日間、埼玉県さいたま市を訪問し、同市教育委員会の協力により、小学校4校と、特別支援学校1校、教育文化施設としてさいたま市立防災センターを訪問した。

❖ホームビジット

プログラム第5日の1月15日（日）、一行は東京からバスでさいたま市へ赴いた。宿泊先に到着し、昼食をとり、情報共有会を行った。情報共有会後、一行はホームビジットへ参加した。ホストファミリー16家庭との対面式を終えた後、各受入れ家庭を訪問した。韓国教職員は和やかな雰囲気でのその後の学校訪問に臨むことができた。各ホストファミリーの方々から手厚いもてなしを受け、ボランティア通訳の方々のご協力もあり、韓国教職員はホストファミリーと心の通う交流をすることができた。

❖教育長表敬訪問・オリエンテーション

プログラム第6日の1月16日（月）午前、さいたま市立教育研究所においてさいたま市副教育長表敬訪問が行われた。稲葉康久副教育長は、韓国教職員がさいたま市の教育や文化について理解し、さいたま市の教職員や児童生徒が韓国の教育や文化を学び相互理解を深めて欲しいと挨拶された。続いて、金グループ長はさいたま市を訪問できることへの感謝と訪問の学びへの期待を述べた。その後、訪問団を代表して金グループ長と稲葉副教育長が記念品の交換を行った。



稲葉副教育長表敬訪問

表敬訪問に引き続き、教育概要オリエンテーションが行なわれた。初めに、さいたま市教育委員会指導1課の金子強課長補佐からさいたま市およびさいたま市の学校教育について説明があった。さいたま市では、「ゆめをもち、未来を切り拓く、さいたま市子ども」を目指す子ども像として、学校・家庭・地域・行政が連携・協力して、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむことを基本理念としている。具体的な施策として、「読み・書き・そろばんプログラム」「小・中一貫英会話」「人間関係プログラム」等が紹介された。質疑応答では、「人間関係プログラム」の具体的な進め方、外国語教育、教育行政等について多くの質問があった。

続いて、さいたま市立教育研究所の常見昌弘所長から挨拶があった後、大森恵美子主任指導主事兼研修係長から、さいたま市における教職員研修についての説明があった。さいたま市では初任者研修のほか、年次研修、「授業の達人大公開」、平日夜間の「教師力パワーアップ講座」等が紹介された。その後の質疑応答では、どのように「授業の達人」と評価されるのか等について活発な意見交換が行われた。



さいたま市立教育研究所にて教職員研修の説明

❖さいたま市立養護学校

昼食後、さいたま市教育委員会学校教育一部指導1課日比瑞輝指導主事の同行のもと、一行はさいたま市立養護学校を訪問した。同校は、医療・福祉・教育の一体化を目指す「さいたま市総合療育センターひまわり学園」内の教育部門として設立された肢体不自由養護学校である。小学部・中学部・高等部を設置し、訪問教育も行われている。まず永妻恒男校長から歓迎のあいさつがあった。金グループ長のあいさつの後に記念品贈呈が行われた。その後、永妻校長から、日本の特別支援教育の概要および学校概要の説明があった。日本では、障害の重度や種別により、特別支援学校、特別支援学級、通級という3つの仕組みがあり、通級に訪問教育として特別支援学校が支援することや、特別支援教育の需要にこたえるため、近年特別支援教室をつくる動きも見られていること等が紹介された。

その後、施設見学および授業見学があり、小学部・中学部・高等部の授業を見学した。韓国教職員が教室に入り、児童・生徒とコミュニケーションを図る場面も見られた。

質疑応答では、教育と医療の関係、一般の学校との交流機会等について質問があった。永妻校長からも、韓国のインクルーシブ教育等について質問があり、和やかな雰囲気で見学が進んだ。最後に全員で集合写真を撮影し、同校の職員に見送られ、一行は学校を後にした。



養護学校にて施設見学

❖歓迎交流会

同日午後6時より、ACCU、さいたま市教育委員会共催の歓迎交流会が催された。遠藤浩之国際教育係長の司会進行の下、ACCUの渡辺一雄参加が、さいたま市教育委員会へ受け入れへの感謝を述べた。続いて、さいたま市教育委員会桐淵博教育長より歓迎のあいさつがあった。Aグループを

代表し、金グループ長のあいさつが終わると、司会より韓国教職員の紹介があった。さいたま市立上里小学校中山時次校長により乾杯のあいさつがあると、和やかな懇談が始まった。各テーブルでは、前日のホストファミリーとの再会を喜ぶ姿や訪問先の学校教員との会話を楽しむ姿が見られた。終盤に入ると、構嚙子連より「お神楽」の披露があった。その後、韓国教職員も舞台に勢ぞろいし、「浜辺の歌」の歌とリコーダーによる合奏、独唱、およびチマチョゴリを着て踊る「扇の舞」が披露された。最後に、さいたま市立桜木小学校の宮田正己校長による三本締めにより、歓迎交流会は終了した。韓国教職員は、他の出席者と再会を誓いながら会場を後にした。



歓迎交流会にて扇の舞を披露する韓国教職員

❖さいたま市立上里小学校

プログラム第7日の1月17日(火)終日、さいたま市教育委員会学校教育一部指導1課小林正美主任指導主事の随行のもと、一行はさいたま市立上里小学校を訪問した。

同校は平成21年度からさいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、「学校・地域の特色を生かした環境学習」をテーマに環境教育の研究に取り組んでいる。まず、中山時次校長から歓迎のあいさつがあった。次に訪問団を代表して金グループ長が、受入れへのお礼を述べた。その後、中山校長による学校の概要説明があった。概要説明では、学校教育目標、学校経営方針、研修テーマ等について説明があった。続いて、中山校長、町田隆則教頭、学校独自の環境ボランティア2名の案内のもと、2グループに分かれて校内にあるビオトープを見学した。このビオトープは全長およそ100メートル

にもなり、地域の方々と共同で作ったものである。韓国教職員は、ビオトープに生息する生物、地域と学校との連携、児童への安全性等について環境ボランティアに積極的に質問していた。その後、2グループに分かれて校舎見学および授業参観を行い、児童が作成したエコカルタを使ってカルタ大会を行う様子や、書初めをしている様子を視察した。昼食をとった後、児童の清掃の様子を見学した。トイレを自分たちで清掃する姿に韓国教職員は驚いている様子であった。その後、児童による歓迎集会へ参加した。児童からは、伝承遊び、ソーラン節等が披露され、韓国教職員からは、「扇の舞」や「浜辺の歌」の歌とリコーダーによる合奏が披露された。また、韓国教職員が、韓国の伝統遊びを実際に披露し、韓国の小学生の様子を映像で紹介し、両国の文化や生活について互いに関心を深めた。その後、2グループに分かれて教職員同士の意見交換会が行われた。和気藹々とした雰囲気のもとで、韓国教職員からは、土日出勤があるか、主幹教諭の位置づけ、管理職への昇進制度等についての質問が多く挙がった。最後は、同校の職員に見送られながら、一行は学校を後にした。



上里小学校にてビオトープの紹介

上里小学校訪問後、プログラムには予定していなかったが、韓国教職員の希望により、さいたま市の伝統産業である人形を見学しに、人形の東玉を訪問した。そこで、五月人形や雛人形を見学した。

❖さいたま市立桜木小学校

プログラム第8日の1月18日(水)、学校教育部指導1課田村浩司主任指導主事の随行のもと、一行はさいたま市立桜木小学校を訪問した。

同校は、創立109年目を迎え、平成23年度にさいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、小・中一貫「英会話」の研究に取り組んでいる。宮田正己校長の歓迎のあいさつの後、金グループ長から受入れお礼のあいさつがあり、記念品が贈呈された。その後、グラウンドに出て同校独自の「スポーツタイム」を見学した。水曜日から金曜日の毎朝8時15分を朝の運動の時間としており、訪問当日全校児童はグラウンドの外周を走っていた。スポーツタイムの後、全校児童に韓国教職員が紹介され、代表して進礼(ジルレ)初等学校の張賢順(チャン・ヒョンスン)教頭があいさつをした。

その後、2グループに分かれて特別支援学級および小・中一貫「英会話」の授業を見学した。特別支援学級では、ひらがなの習得を兼ねたカルタ読みや紙芝居の読み聞かせ等を行った。小・中一貫「英会話」では、買い物のシチュエーションに見立てた実践的な会話の授業が行われていた。また、ALTと日本人教員とのチーム・ティーチングの授業や、NPO職員、聖学院大学の教授と学生がボランティアで指導にあたっており、学校と地域との連携についても韓国教職員は熱心に見学していた。

その後、2名ずつ15教室に分かれて交流給食を行った。言葉は通じなくても、自分の子どもの写真を見せる等、韓国教職員は積極的に児童とコミュニケーションをとっていた。給食後、児童が歯磨きや掃除をする様子を見学した。その後、韓国教職員は音楽室に案内され、6年生の歌と合奏の歓迎を受けた。



桜木小学校6年生と記念撮影

続いて、4年生から6年生の児童との懇談会の時間となった。まず、韓国教職員から「浜辺の歌」の歌とリコーダーによる合奏、「扇の舞」が披露された。そして、同校の職員から尺八の演奏があった。その後、李善景（イ・ソンギョン）教諭、康玟（カン・ミン）教諭により韓国の小学生の一日が映像により紹介された。その後、児童からの質問タイムとなり、桜木小学校の児童は、好きな韓国料理や、韓国で最近問題になっていること等、積極的に質問を韓国教職員に投げかけており、韓国教職員も満面の笑みで答えていた。続いて、屋上の太陽光発電システムやパソコン室、図書室を見学した。その後、2グループに分かれて教職員との意見交換の時間となった。意見交換では、太陽光発電システム、建て替えられた近代的な設備、特別支援学級と一般学級との交流の有無、地域の専門家との連携等について、多くの質問が寄せられた。最後に、宮田校長が、6年生と一緒に撮った写真を印刷したものを韓国教職員全員にプレゼントをした。時間が過ぎるのを惜しみながら、温かいお見送りを受け、一行は学校を後にした。

❖さいたま市立防災センター

プログラム第9日の1月19日(木)午前、学校教育部指導1課遠藤浩之主任指導主事兼国際教育係長の随行のもと、一行はさいたま市立防災センターへ出発した。同センターは防災意識の向上を目的に設置された、消防署と併設している施設である。到着すると、まず一行は防災シアターに案内され、阪神淡路大震災に関するビデオを観た。韓国教職員は震災時の様子を理解するとともに、家具の転倒防止の工夫に感銘を受けた様子であった。続いて、2グループに分かれてそれぞれ消火体験と地震体験を行った。その後、隣接する大宮消防署へと移動した。消防士の方がはしご車や、東日本大震災への支援でも使用した、大規模災害発生時に特別高度救助隊が使用する車両等を案内した。消防署では職場体験をしている中学生もおり、韓国教職員は教育と地域の繋がりについても学ぶ機会となった。



消防士から特別災害時に出動する車両について、説明を受ける

❖さいたま市立尾間木小学校

同日午後、一行はさいたま市立尾間木小学校を訪問した。同校は、開校140年を迎え、平成22・23年度に理数教育（算数科）研究指定を受けている。

学校へ到着すると、児童がお花のアーチを作り「アンニョンハセヨ」と言いながら韓国教職員を迎えた。その後、電気自動車の体験学習をしている様子を見学した。続いて、2年、4年、6年の算数の授業をそれぞれ自由に見学した。4年生の授業はチーム・ティーチング形式で行われていた。掛け算の文章題では児童が自ら解決する力を育むと同時に、コミュニケーション能力を高めるため、互いの意見を発表しあうことを多く取り入れていた。

見学が終わると、松田泰成校長の歓迎のあいさつがあり、意見交換会に出席する教職員の紹介があった。そして、理数教育の研究概要が紹介され、研究授業のVTRを視聴した。尾間木小学校では、「自ら考え表現し、学びあう力を育てる算数科の学習指導」に取り組むため、学校独自の「尾間木小スタンダード」を作成している、と説明があった。具体的には、「算数の道具」の段階的指導、ノート指導、学びあいの場の設定、チーム・ティーチング等の特色が紹介された。



尾間木小学校にて教職員同士の意見交換会

その後の質疑応答では、チーム・ティーチング、児童の自己評価等について活発な意見交換がされた。韓国の国旗を持った尾間木小学校教職員のお見送りを受けながら、一行は情報共有会の会場へと向かった。

プログラム第10日の1月20日（金）午前、一行はホテルをチェックアウトした後、さいたま市からバスで羽田空港へ向けて出発し、空路で大阪へ向かった。

2-2. Bグループ: 京都府与謝野町

第5日目の1月15日、Bグループ一行は伊丹空港からバスで京都府与謝郡与謝野町へ向かった。与謝野町は日本海に面した京都府の町で、日本三景天橋立が「横一文字」に望める。韓国教職員を乗せたバスが日本海に向かって一山越えるたびに、車窓に見える雪景色の量は増していった。途中からは曇もふりはじめ、日本海側特有の天候となる。昼食をとったあと、訪問団一行は天橋立を歩き、その美しさを鑑賞しながら移動の疲れを癒した。

❖ホームビジット

宿泊先の橋立ベイホテルには、ほぼ予定どおりに到着した。韓国教職員団の多くはチマチョゴリやジチョゴリ等の正装に着替えてホームビジットに臨んだ。宿泊ホテルのスペースの関係上、ホームビジット対面式は行わず、ホストファミリーがホテルに到着した順に一組ずつ対面して出発していく形をとった。Bグループの韓国教職員は2、3名ずつ、14組に分かれてホームビジットを体験し、5、6時間を日本の家庭で自由に過ごした。直接ホストファミリーと交流をもつため、出発前にはお互いに緊張した面持ちであったが、ホテルに戻った韓国教職員たちは、みんな笑顔で息を弾ませてその様子を語ってくれた。ホテルのロビーでは、送り届けてくれたホストファミリーとの別れを惜しみ、再会の約束をしている光景もみられた。韓国教職員団は口々に「各家庭で食べ切れないほど沢山ご馳走になった」、「日本の伝統的な建物を見せてもらった」、「日本の着物を着た」、「日本刀を見せてもらった」、「一緒に買い物をした」など、心温まる交流を楽しんだ様子で語っていた。



ホストファミリーと一緒に

❖教育長表敬訪問・オリエンテーション

第6日目の1月16日は、与謝野町役場加悦庁舎に併設される農事研修室・通称「元気館」にて垣中均教育長を表敬訪問した。与謝野町教育委員会は過去2回の訪日団受け入れ（「2008-2009 中国教職員招へいプログラム」「2010-2011 韓国教職員招へいプログラム」）に続き、今回で3回目の受け入れとなる。垣中教育長から「韓国教職員団を歓迎致します。与謝野町の各学校で日本の教育の教育制度と現状を実際に見て、自国の教育現場へ持ち帰って活かして欲しい」とのあいさつが述べられたあと、韓国教職員団の権鍾元（クオン・ジョンウオン）Bグループ長からのあいさつが述べられた。教育委員会からは与謝野町の詳細が書かれたパンフレットと特産品の丹後ちりめんの風呂敷が記念として韓国教職員団に一式ずつ贈られた。与謝野町教育委員会教育推進課の土田清司課長からは与謝野町の歴史や教育概要説明がなされ、その後の学校訪問において有益な知識となった。

❖与謝野町立与謝小学校

一行は昼食後、バスで与謝野町立与謝小学校へ向かった。与謝小学校では生徒たちの大合唱による歓迎セレモニーから始まった。



与謝小学校にて韓国語で自己紹介

与謝野町は多くの歌人や俳人ゆかりの土地であり、和歌や俳句の心が随所にみられる。与謝小学校では「俳句」の伝統文化の継承と発展に力を入れ、授業や遊びの中にもそれらを取り入れている。生徒たち自らが「俳句」を作り、学校の至る場所に生徒の句や歌人や俳人たちの名句が常時美しく装飾されて貼られている。大江信校長の説明のとおり、「俳句」や「句」が子供たちに浸透しているだけあって、生徒たちが休み時

間に廊下で楽しそうに「いろはかるた」の句の当てっこ遊びをしていた。小長谷教頭より、与謝小学校では生徒が伊藤園の「お〜い お茶 新俳句大賞」で第21回大賞を受賞した、と説明を受けた。その話に韓国教職員が感嘆している最中、パッケージに与謝小学校の生徒の受賞作品が載ったお茶を各自1本ずつ記念品として韓国教職員に贈られた。また与謝小学校では訪問当日、「近い国・韓国」を課題にした授業があり、韓国の暮らしについて韓国教職員たちに直接質問する場面があった。暖房設備についての質問に対しては、韓国の床暖房「オンドル」の技術と普及率の高さについて説明がなされ、児童たちは日韓の違いに驚いていた。

❖歓迎交流会

同日午後6時からACCUと与謝野町教育委員会主催による歓迎交流会がホテル北野屋のハーモニーホールで行われた。太田貴美町長、堀口卓也副町長、垣中教育長をはじめ、今回と過去2回の受入れ校の教職員等の多数の参加があった。また、ほとんどのホストファミリーが出席しており、韓国教職員たちと一緒に互いの再会に喜びの声をあげていた。交流会では食事をしながら、与謝野町の琴修会京都真琴会の演奏で日韓両国の代表曲の音色を楽しんだ。会の最後には韓国側と日本側の歌と演奏のプレゼントの大合戦となり、宴たけなわのうちに閉会となった。



歓迎交流会にて、訪問団の合唱

❖与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校

第7日目の1月17日、一行は与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校を訪問した。吹奏楽と運動が強い橋立中学校では、韓国教職員は吹奏楽部の歓迎レセプションを受けた。生徒たちは管楽器と琴で「サクラサ

クラ」などを演奏。韓国教職員も同曲を日本語と韓国語で合唱し、お返しをした。また、韓国教職員からは韓国の伝統楽器の説明がされ、伝統楽器のひとつである「テピョンソ」の音色が披露された。歓迎の演奏と歌の後、大槻徹校長より歓迎の挨拶が述べられ、続いて権グループ長から答辞が述べられた。その後、同教室で生徒代表と韓国教職員団の質疑応答がなされた。体験授業では韓国教職員団は習字体験を行い、橋立中学校の生徒と一緒に「和」、「絆」など友好を深める漢字とハングルが書かれた。体験授業の後、橋立中学校の教職員がたてた抹茶と茶菓子を頂き、その後、大槻校長から学校概要の説明が述べられた。そして、韓国でも問題になっている生徒の喫煙の問題などを中心に意見交換が行われた。



橋立中学校にて習字体験で生徒と交流

❖給食センター

昼食後、一行は給食センターを訪問した。隣接する与謝野町勤労者総合福祉センター「のだがわわーくばる」を会場として、センターについて VTR を利用し詳細な説明があった。センター職員の後藤公一氏より、日本の給食のしくみ、給食と地場農業とのつながり、環境への取組、日本の食事情等の詳細を知ることができた。一行は質疑応答の後、建物横の給食センターへ移動した。給食センターでは衛生面の観点上、外観からの視察のみにとどまったが、最後に訪問する市場小学校で、実際に給食センターから配送された給食を食べる機会を得た。韓国教職員団は給食センターの説明や意見交換と、自らの給食体験を併せて、日韓両国の給食事情の相違について理解を深めることができた。

❖丹後ちりめん歴史館

第7日目最後の訪問施設は織物工場の跡地に立つ丹後ちりめん歴史館であった。建物は昭和10年に建設されたノコギリ屋根のある工場群跡地をそのまま利用している。今井英之代表取締役から歴史館の説明を受けた。丹後ちりめんの織り機は現在も稼働可能で、見学者は簡単な柵の外から見学できるようになっていた。シルク等の売店が併設されているため、韓国教職員は各自のお土産などを購入していた。

❖与謝野町立岩屋小学校

第8日目の1月18日は与謝野町立岩屋小学校を訪問した。岩屋小学校は生徒数55名で、Bグループの訪問校の中で、最も少人数の学校である。岩屋小学校では少人数の特性を生かし、一人ひとりに目を向けた教育が行われている。一行は全校生徒から「ふるさと」、「あんたがたどこさ」、「かごめかごめ」などの合唱をプレゼントされたあと、韓国側から韓国教職員の提案で、代表生徒がチマチョゴリの着方を教わる体験と文化交流をした。パーカーとパンツスタイルだった生徒がみるみる間に美しいチマチョゴリを着た女性に変身していく様に、岩屋小学校の生徒も日韓両国の教職員も目が釘付けになり、最後は会場全体から拍手があがった。訪問中、行待郁代教頭は、小規模校のため、生徒たちは少し恥ずかしがり屋だったが、プログラムが進むにつれてだんだん韓国教職員に話しかけるようになり、学校外の集団にふれる貴重な経験をした、もっと時間があればさらに良かった、と述べた。



岩屋小学校にて権グループ長とチマチョゴリを着た生徒

❖旧尾藤家・古墳公園・江山文庫

昼食後、一行は明治23年創業の井筒屋の建物の中を興味深く自由散策したあと、ちりめん街道沿いに旧尾藤家まで徒歩で移動した。旧尾藤家の建物は、江戸時代から昭和初期にかけて、ちりめん産業により町を近代化させたちりめん街道筋の中心に位置している。京都府指定文化財である旧尾藤家の建物は1863年に再建された生糸ちりめん商家であった。韓国教職員は地場産業と日本の歴史的な建築物を見学する有意義な機会を得て、熱心に説明を聞き、写真を撮影していた。旧尾藤家の建物はほぼ建築当時のままのため、中は非常に寒いが、教育委員会から使い捨てカイロの差し入れを頂き、暖をとりながら見てまわることができた。

次に訪問した古墳公園は1600年前の国史跡を復元整備した古代歴史公園である。古墳公園の敷地内には、町内で出土した埴輪などの実物が展示されており、近隣の小・中学校の課外研修授業にも利用されている。訪問当日は天気もよかったため、実際にこの日本海地域屈指の大型古墳に登り、その大きさを実感した。教育委員会文化財保護係の加藤晴彦係長から古墳や出土品についての詳細説明があり、韓国教職員団は朝鮮半島にもある古墳との歴史的なつながりや相違点を知ることができた。

第8日目最後の訪問施設である江山文庫は地域文化の振興を図ることを目的とした建物であり、与謝野町ゆかりの歌人や俳人たちが掛け軸や短冊などを展示している。古墳公園同様、この施設も近隣の小・中学校の課外研修授業に利用されており、児童生徒が作った短歌の展示もある。俳句については、与謝小学校で伝統文化を取り入れた実践教育の事前説明がされていたため、韓国教職員は児童たちが作った俳句の説明を特に興味深く聞いていた。江山文庫では、学校と教育施設が連携して伝統文化を保護する試みが再認識された。

❖与謝野町立市場小学校

第9日目の1月19日に訪問した与謝野町立市場小学校では、訪問団を乗せたバスは、校舎の前の広い校庭の端に駐車した。直線距離で100メートルほどもある校庭の先の校舎前に立つ生徒たちの大きな歓迎の声、バスから降り立った韓国教職員団の耳にも届いた。児童たちの大歓迎と元気に、教職員たちは思わず顔をほころばせた。校舎の玄関先では生徒と先生がつくる人間アーチで韓国教職員が迎え入れられた。杉本淳校長は「市場小学校の生徒は、与謝野町元気な子供たちです」と語る。杉本校長からの学校概要の説明のあと、韓国教職員は教室で生徒たちと握手やハグで一人ひとりとあいさつと笑顔を交わした。また、リズム音楽を生かした授業では、韓国教職員が生徒たちの円の中に入って音楽を作る体験をした。生徒と韓国教職員が一緒に作ったリズム音楽が楽しい音楽を作り出していた。

給食体験では、5グループに分かれ、各クラスの生徒と一緒に給食センターで作られた給食を味わった。生徒との言葉の壁に不安を持っていた韓国教職員も、後の感想で「言葉の壁は問題ではなかった、とても楽しい時間をすごした」と息を弾ませて語っていた。



市場小学校にて訪問団と一緒にリズム音楽体験

❖京都府立与謝の海支援学校

プログラム最後の訪問校である京都府立与謝の海支援学校は創立42年の特別支援学校である。知的障害、肢体障害、重複障害、自閉症障害の児童生徒が通っている。遠隔地の児童生徒や、障害状況により通学が困難な児童生徒のための寄宿舎を併設している。今回は午後の訪問であり、寄宿舎生活をしている以外の児童・生徒たちは15時にスクールバスで帰宅するため、最初に授業・施設見学を行った後に学校概要説明

を受けた。韓国教職員団の中には支援学校や支援学級の教職員も含まれており、日本の支援学校の説明を特に熱心に聞き、随時質問していた。児童生徒の送迎の時間には、与謝の海支援学校の職員と保護者、まわりの支援者の協力によって送迎されている様子を見学した。質疑応答の時間は、韓国でも同様の問題に悩む「児童生徒の卒業後の自立活動とそのサポート」について質問が集中し、日韓共通の課題を再認識していた様子であった。



京都府立与謝の海支援学校にて熱心に説明を聞く訪問団

グループプログラム最終日である第 10 日目の 1 月 20 日は、第 2 回情報共有会と大阪への移動日であった。橋立ベイホテルでチェックアウトを済ませた後、ホテルの前にて全員で記念写真をとった。向かった元気館では、東京・与謝野町のプログラムを終えて、団員のみで意見交換と全体の総括を行なった。情報共有会を終えて、与謝野町を出発する前に垣中教育長と与謝野町教育委員会から挨拶が述べられた。韓国教職員団からは権グループ長が代表として「与謝野町の方々の心温かいもてなしに大変感謝する。今回の訪問を機に、今後も深い交流を続けて行きたい」とお礼が述べられた。

元気館には垣中教育長をはじめ、同教育委員会の土田教育推進課長、同課の坪倉由貴係長、小西勝歩氏、給食センターの後藤公一氏、江山文庫の竹下浩二氏のほか、ホストファミリーが見送りに来て下さり、一行は別れを惜しみながら大阪へ向かった。

2-3. C グループ: 宮城県気仙沼市

ソンプ高等学校の景恵永（キョン・ヘヨン）校長をグループ長に、主に中学校・高等学校の教職員を中心とした C グループ 29 名は、1 月 15 日から 20 日までの 6 日間、宮城県気仙沼市を訪問し、同市教育委員会の協力により、中学校 2 校と高等学校 1 校、特別支援学校 1 校を訪問した。

❖ ホームビジット

プログラム第 5 日の 1 月 15 日（日）、一行は東京から東北新幹線とバスで宮城県気仙沼市へと赴いた。宿泊先へ到着すると、ホームビジット対面式が行われ、気仙沼市教育委員会学校教育課の及川幸彦副参事兼指導主事、熊谷聖副参事、小野寺正司課長、伊東毅浩課長補佐兼指導係長（指導主事）とホストファミリー 14 家庭、地域の通訳協力者に迎えられ、それぞれの家庭を訪問した。韓国教職員は、訪問先の家族に被災地を案内されたり、震災当時の話を聞いた。また、着物の着付け体験や、地域の住民が大勢集まる宴会に招かれるなど、親戚のようにもてなされ、この日だけでなく、同市訪問期間中を通して、温かいもてなしを受けた。

❖ 被災地視察

プログラム第 6 日の 1 月 16 日（月）午前、一行は及川副参事の案内にて、東日本大震災で被災した気仙沼市街を訪れた。開港したばかりの気仙沼港では水揚げもされており、漁師の方の作業の様子を見学することができた。気仙沼中央公民館の前では、かつてこの会場で ESD の会議も行われたことが紹介された。津波のスピードや避難方法、打ち上げられた船の解体や撤去などについて説明を聞きながら、鹿折唐桑駅の前に打ち上げられた第十八共徳丸を視察した。



陸地に打ち上げられた船を視察

❖市長・教育長表敬訪問、オリエンテーション

その後、一行は気仙沼市庁舎へ向い、気仙沼市長および教育長を表敬訪問した。菅原茂市長は、本市の35校の幼稚園、小学校、中学校および高等学校がユネスコスクールに加盟しており、地域に根ざした特色ある実践の一端をご紹介できればと思う。韓国教職員の訪問が復興の励みになる、とあいさつした。続いて景グループ長は、市を訪れ、被災の様子に胸がつぶれそうな思いである。過去にこのプログラムで参加者が気仙沼について発表したとき、いつか訪れたいと思っていたが、このように実現するとは思っていなかった。29名の教員とその学校や生徒たちは、みんな気仙沼を応援している。短い訪問期間ではあるが、気仙沼の人々と共に気仙沼の希望について共に語り合いたいと述べた。その後、菅原市長と白幡勝美教育長は韓国教職員一人ひとりと名刺交換を行い、記念品を贈呈した。訪問団からは、記念品と応援の寄せ書きが贈られた。



応援の寄せ書きを菅原気仙沼市長に渡す訪問団

昼食を挟み、午後は小野寺課長より、気仙沼市の小学校、中学校における教育の概要説明が行なわれた。3月11日の震災以降、被災した保護者が転居することにより、転出する児童・生徒が急増し、南気仙沼小学校では、315人のうち、2011年10月には150人が転校してしまったことなどが説明された。そのような中、教育復興のための教育方針として、①国際理解教育を積極的に推進すること、②ESD、特に環境教育を推進すること、③教職員の資質・能力の向上に力を入れること、の3点を掲げている。また、子どもたちだけでなく、教職員や保護者に対しても、心のケアが必要である。

今後はユネスコスクールのネットワークを通じて、これまで以上に交流の輪を広げて行きたいと説明された。この後の質疑応答では、心のケアとして、具体的にはどのようにカウンセラーを増やしたのか、また、教員も被災されていると思うが授業の確保はどのように行っているのか、といった質問が挙がった。

最後に、訪問団から教育長に宛てて、支援物資が送られた。



気仙沼市庁舎にてオリエンテーション（白幡教育長）

❖煙雲館

同日午後、訪問団は、気仙沼市の文化財である煙雲館を訪れた。明治時代の国文学者落合直文、鮎貝房之進兄弟の生家である煙雲館は、江戸初期（1640年代）に作庭された庭園を有し、往時の姿を伝えている。鮎貝房之進は今もソウルに残る私立小学校5校の創設にかかわり、日本における韓国文化研究の先駆けとして、韓国でもその業績が讃えられている。鮎貝文子夫人より、震災により近隣の500世帯もの家屋が津波によってさらわれ、太平洋を望む景色が震災後に大きく様変わりしたことなど、震災時の話を聞きながら、韓国教職員は庭園と海を望む景色を眺めた。お抹茶をいただいた後、第一回情報共有会を行った。



煙雲館にて茶道体験

❖ 歓迎交流会

同日午後6時より、気仙沼市教育委員会、ACCU 共催の歓迎交流会が催された。及川副参事による司会進行のもと、はじめに菅原市長より歓迎のあいさつがあり、続いて ACCU 事業部柴尾智子次長より、受入れへの感謝が述べられた。訪問団を代表して、景グループ長からは、次の日から始まる学校訪問が楽しみであり、気仙沼市の学校現場で ESD の実践を学ぶと同時に、復興の支援として自分たちに何ができるのかを見つけ、韓国に持ち帰りたいと述べた。その後、佐々木敬三気仙沼市教育委員長による乾杯の発声があり、会場は賑やかな歓談となった。韓国教職員達は、訪問受入れ校の教職員や、ホームビジットの受入れ家庭の家族をはじめとする気仙沼の人々との交流を深めることができた。アトラクションとしては、気仙沼市立月立小学校の児童たちによる早稲谷鹿踊りが披露された。訪問団からは、韓国教職員による自己紹介に続き、韓国の民謡「アリラン」、日本の唱歌「春が来た」の合唱が披露され、市長と副市長、教育長も舞台上上がり、共に「釜山港へ帰れ」を熱唱した。会の終盤には、訪問団より教育長へ記念品を贈呈され、加藤慶太副市長による締めの乾杯の発声がなされ、歓迎交流会は中締めとなった。



歓迎交流会にて「春が来た」とアリランの合唱を披露

❖ 宮城県立気仙沼支援学校

プログラム第7日の1月17日(火)午前、訪問団は、伊東課長補佐随行のもと、宮城県立気仙沼支援学校を訪問した。

同校は気仙沼・南三陸地区内の知的障害をもつ76名の児童・生徒が学んでいる。各学部において、将来の社会生活の自立に向けて一人ひとりの教育的ニーズに応じた授

業を実践している。また、支援部を中心に、地区内のすべての保育所・幼稚園、小・中・高等学校の特別支援学級担任等の要請に応じて教育相談を実施しており、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。

学校に到着した一行は、昇降口で全校生徒が登校する風景に立ち会った。「おはようございます」と声をかけ、手を振ると、児童・生徒たちは笑顔で応え、韓国教職員に近づいて触れ合う場面も見られた。その後、図書室にて行われた開会行事にて、訪問団を代表してあいさつした忠清南道教育委員会の李昊求(イ・テグ)学校政策課長は、朝の出迎えを体験したことで、すべての子どもが大事なのだということを実感し、特別支援学校の重要さを確認することができたと述べた。続いて西脇正彦校長より学校説明が行われた。震災が起きたのは下校の10分後であり、4台のスクールバスはすぐに学校に戻ってきたために、生徒たちは被害にあわずにすんだ。その日、児童・生徒と一部の父兄、教職員89名が学校に宿泊した。すべての児童・生徒を父兄に引き渡すことができたのは3月18日であった、と震災を振り返った。その後2グループに別れ、学校施設や授業の様子を見学した後、図書室へ戻り、同校の教職員と意見交換会を行った。韓国教職員からは、卒業後の進路について、入学に際しての就学相談について、普通学校から特別支援学校への編入、またその反対のケースはあるのか、などといった質問があった。最後に、訪問団より、学校へ記念品を贈呈し、受入れについての感謝の意を伝え、一行は気仙沼支援学校を後にした。



気仙沼支援学校にて紙すきの授業を見学

❖宮城県立気仙沼高等学校

同日午後、訪問団は宮城県立気仙沼高等学校を訪問した。同校は、平成 17 年宮城県立気仙沼高等学校(男子校)と宮城県立鼎が浦高等学校(女子校)が再編統合し、共学の新しい宮城県立気仙沼高等学校として開校し、今年が 7 年目となる。80%の生徒が進学する大規模校である。平成 20 年 10 月にユネスコスクールに認可された。はじめに庄子英利校長が歓迎のあいさつで、同校では、震災の影響により 3 割の生徒が家屋の被害を受け、1 割の生徒の父兄の収入は激減したが、生徒たちは復旧復興に直接的、間接的に関わっていきたくと考えている、と話した。続いて、訪問団を代表して、忠清南道教育委員会の李昊求(イ・テグ)学校政策課長が受入れに対するお礼のあいさつを述べた。その後、学校の学校概要説明が行われた。一行は 2 グループに分かれ、授業参観と学校施設を見学した。教職員との意見交換会では、まず、大田(テジョン)外国語高等学校の李東日勻(イ・トンギョン)教諭より、同校の生徒たちが制作したビデオメッセージが紹介された。その後、3 グループに分かれての意見交換では、男女共学になってから良くなったこと、悪くなったことは何か、進学率を高めるためにどのような努力をしているか、被災した生徒たちにどのように接しているのか、といった質問が韓国教職員から挙げられた。最後に、訪問団より、学校側へ記念品を贈呈し、受入れについての感謝の意を伝え、一行は気仙沼高等学校を後にした。



気仙沼高等学校にて教職員意見交換会

❖ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼

プログラム第 8 日の 1 月 18 日(水)午前、韓国教職員は、気仙沼ホテル観洋 4 階ベルサイユで開催された、ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼にオブザーバとして参加した。この地域交流会は平成 23 年日本/ユネスコパートナーシップ事業の一環として、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、気仙沼市教育委員会の主催により行われた。地域交流会では、気仙沼市教育委員会の熊谷聖副参事の進行のもと、文部科学省池原充洋大臣官房国際課長、サンギル小学校パク・スンヒョン教諭(韓国)、カリスパーク中学校ジェームス J. パーリンジャー校長(米国)による基調講演が行われ、その後、伊東課長補佐の進行で、パネルディスカッションが行われた。

❖気仙沼市立気仙沼中学校

同日午後、一行は気仙沼市立気仙沼中学校を訪問した。同校は、人間、社会、自然への愛と畏敬の念を深め、豊かな知性と創造性に満ちた教育によって、生徒の育成を目指すことを教育目標として掲げている。亀谷寿之教諭進行の下行われた開会行事では、はじめに齋藤一校長よりあいさつがあり、引き続き学校概要説明が行われた後、集合写真を撮影した。その後は 2 グループに分かれて、6 校時の授業を参観した。その後は多目的ルームにて、生徒たちによるブラスバンドの演奏が披露された。齋藤校長より、大震災後の同校の取り組みについての説明が行われ、震災直後の被害状況や避難所としての様子が紹介された。学校活動としては、通常通り 4 月 8 日に始業することができず、午前にステップアップタイムという自主学習を行っていたこと、4 月以降は校庭に仮設住宅が建ち、校庭の半分が使用できなくなったことなど、写真を用いて話された。それでも嘆くのではなく、こうした体験を活かしていこうという前向きな態度で、10 年後の気仙沼を考えるような取り組みを行っていることということであった。質疑応答では、韓国教職員から、校医はどのような役割をしているのか、授業数ではなぜ理科が多いのか、小学校と中学校が連携することは韓国では珍しいが、目

的は何であるかといった質問が挙がった。また、日本側の教員から、授業の感想を尋ねられ、社会で鲁迅の授業を行っていたが、生徒が積極的に答えられるよう、教師が誘導するのが巧みであった。数学では、韓国よりもゆっくり、丁寧に教えていた。また、答えを出す場面では生徒同士が完全に理解するまで互いに助け合い、教え合っている様子が印象的であった。という意見があった。閉会では、齋藤校長より、未だ復興とはいえないが、子どもを元気づけて前に進みたい。とあいさつされた。



気仙沼市立気仙沼中学校にて授業見学

❖気仙沼市立小原木中学校

プログラム第9日の1月19日(木)は終日、気仙沼市立小原木中学校を訪問した。

同校は生徒数39名職員数13名の小規模校であり、学区は東に広田湾を望み、西には霧立山がそびえ、風光明媚な大理石海岸など、自然豊かな学区である。学区は3地区からなるが、今回の震災で2地区が壊滅的な被害を受けたものの、生徒の人的な被害はなかった。現在は校庭に仮設住宅が建つなど、教育環境は大きく変わってしまったが、地域との連携を図り、学力の向上と心の成長を目指し、将来にわたって「小原木」を誇りと思える生徒の育成に努めている。はじめに横山秀敏校長があいさつされ、続いて小松克志教務主任より、学校紹介が行われた。その後、多目的ホールにて生徒会主催歓迎会が開かれ、生徒会から歓迎の言葉が贈られ、迫力あるソーランが披露された。訪問団からは、テドク高等学校の宋容根(ソン・ヨンゲン)校長よりあいさつがあり、力強いソーランの踊りに感動したことと、同校教諭の家庭をホームビジットで訪問し、心を込めたお茶を頂いたことが

特別な体験であったということが生徒たちに伝えられた。また、大田外国語高等学校の生徒たちが制作したビデオメッセージも紹介された。4校時目は交流授業となり、1年生の音楽では、はじめに日本側の教師が「さくらさくら」を箏で教え、その後に韓国の教員が「アリラン」を教えた。2年生の教室では書写の授業で、「私たちが伝えたい言葉」を蠟で書き、その上から色を塗る授業が行われた。韓国側の教員からは、聚秀という書体で韓国の書道とハングルが紹介された。3年生は家庭科で「日本の料理と韓国の料理」として、わかめやなめこなどの味噌汁を作り、韓国教職員に振舞った。生徒たちも、韓国教職員が持ってきたキムチを試食した。給食は全校生徒と共に地域の名産品である油ふ井を頂いた。教員と全校生徒が共に食事する家庭的な雰囲気感嘆する教員もいた。給食の後は自由交流を予定していたが、韓国教職員のリクエストにより、生徒から「栄光の架橋」の合唱が披露されることとなった。生徒たちの歌声に韓国教職員は聞き入っていた。最後に、訪問団から、記念品として、ソッテの置物や寄せ書き、韓国の生徒による日本語のメッセージなどが生徒たちに贈られた。生徒たちの作ったアーチをくぐり、一行は小原木中学校を後にした。



小原木中学校にて韓国教員による韓国の文字の授業

宿泊先である気仙沼ホテル観洋のベルサイユで、第2回情報共有会として、報告会の準備のための話し合いが行われた。

❖株式会社男山本店

当日 16 時半ころ、一行は地域を代表する企業として株式会社男山本店を訪問した。同社は、震災で、国の登録有形文化財でもあった築 80 年の本社と倉庫を失ったが、蔵の手前数メートルのところで津波が止まり、築 100 年の酒蔵とその中に貯蔵してあった日本酒はすべて無事であった。その酒蔵にて、菅原昭彦代表取締役と杜氏の方から酒造りについての説明を聞き、絞りたての日本酒も試飲することができた。

プログラム第 10 日の 1 月 20 日(金)朝、ホテルをチェックアウトした後、白幡教育長と伊東課長補佐に見送られ、一行は気仙沼市からバスで仙台空港へ向かい、空路で大阪へと移動した。

2-4. D グループ: 岡山県岡山市

保聖女子中学校の洪慈純（ホン・ジャソン）校長をグループ長に、中学・高校教職員を中心とした D グループ 28 名は、1 月 15 日から 20 日までの 6 日間、岡山県岡山市を訪問し、同市および同市教育委員会の協力により、小学校 3 校（うち 2 校は半数ずつ）、中学校と高等学校と特別支援学校を各 1 校、公民館 3 箇所、後楽園を訪問した。

❖高島公民館

プログラム第 5 日の 1 月 15 日(日)一行は空路赴き、岡山空港からバスで岡山市紹介 DVD を見ながら高島公民館へ向かった。岡山市環境局環境保全課 流尾正亮主事に迎えられ、原明子副主査の司会で高島公民館 岸仁館長の挨拶、中央図書館 大塚利昭館長の説明「岡山市の歴史文化的背景と今回の視察地域との関係」を受けた。昼食は JA 高島女性部による温かな手作りで岡山市側と一緒に地産地消を味わった。昼食後、吉田郁美社会教育主事により高島地区 ESD の説明を受け、その後地区の ESD 実践の一つである、国の天然記念物アユモドキ（淡水魚）の保護現場（農業用水路）をエコミュージアムの会 大橋弘司氏の案内で見学。「岡山市は RCE として学校だけでなく公民館、行政、メディア、企業などいろんな人がいろんなことをやっている」「大人も子供も一緒に地域の課題を考えている」「歴史を知らないと未来は語れないとまず学んだ」という声があった。



吉田社会教育主事による高島 ESD 活動の説明

❖ホームビジット

その後宿泊ホテルへチェックインしホームビジットへ出かけた。岡山市市民局国際課 佐藤宣之主任と朴景淑氏と共にホストファミリー15家庭は、それぞれ韓国教職員の名前を掲げて迎えてくれた。不安な顔はなくなり、和やかに出かけた。約5時間後ホテルに戻ってきた時には、顔を紅潮させどれだけ貴重な経験をしたかをそれぞれ自慢し合った。通訳協力者の方々のお陰で韓国教職員は日本の生活に触れホストファミリーと親しく過ごすことができた。

❖岡山市教育オリエンテーション

プログラム第6日の1月16日(月)午前、岡山市教育委員会事務局指導課 中島陽子課長補佐、廣田みゆき主導副主査に迎えられ平井秀尚課長補佐による市の教育オリエンテーションを受けた。一貫教育(中学校校区で視点を決め保育園・幼稚園～小中学校まで段差無く取組む)、岡山市地域協働学校(地域住民や保護者が学校運営に参画し家庭・社会の教育力や意識を向上させる)、ESDの取組(地域・家庭とのつながりを更に横に広げ公民館、美術館、事業者、大学などとのつながりを行政が推進)の説明を聞き「一貫教育を活性化する方法は?」「協働学校への保護者の考えは?」震災後の「エネルギー節約への学校の取組み」「市、国、企業との連携方法」「公民館のESD理解の高さ」「研修頻度」など矢継ぎ早に質問があった。



平井秀尚課長補佐による岡山市の教育概要説明

❖岡山県立興陽高等学校

昼食後、岡山県立興陽高等学校へ向かった。中杉光廣校長の挨拶、藤原孝二教頭の概要説明の後、庭園や農場、野菜や蘭の栽培、農具置き場など広大な校内を見学。授業見学は2班に分かれ、内1班はオナム高等学校の金榮俊(キム・ヨンジュン)教諭によるESD授業が行なわれた。冗談をおりませ如何に身近に考えさせるか工夫がされた授業で生徒の緊張も徐々に解けていた。続く大平聖教諭のESD説明では農業と食の実践的学習を地域連携で行なっている好例(資源循環を学ぶ「菜の花プロジェクト」「アイガモ農法」)を聞いた。最後の意見交換では教務課長 森本教諭、生徒課長 西原教諭、進路課長 松本教諭、造園デザイン課長 尾畑教諭、農場課長 藤本教諭と共に生徒6名(生徒会長、副会長、農業クラブ会長、副会長、家庭クラブ会長、副会長)が参加。韓国側から「バリアフリー庭園に感心した。心をこめた造園に感銘を受けた。長い時間かかる実践は学びが多い」と意見が上がった。生徒へは志望動機、満足度、将来の夢、通学などの質問があった。



興陽高等学校にてESDの授業を行うキム・ヨンジュン教諭

❖歓迎交流会

同日午後6時より、岡山市、岡山市教育委員会、ACCU共催の歓迎交流会が催された。ホストファミリー、訪問する学校・公民館、岡山ESD推進協議会、岡山県生涯学習課、岡山市教育委員会、岡山市役所から約50名と多くの参加があった。韓服の美しさに岡山側からは歓声があがり、名前を書いた紙を掲げての出迎えとホストファミリーとの再会に韓国教職員は満面の笑みだっ

た。岡山市教育委員会 山脇健教育長の挨拶、岡山 ESD 推進協議会 青山勳会長の挨拶に、韓国教職員を代表し洪慈純（ホン・ジャスン）グループ長が御礼の挨拶を述べ、岡山市環境局 松田隆之局長の乾杯で歓談が始まった。通訳協力者が各テーブルに 1 名いたが少しでも交流が進むよう日韓交互になる配席で紙とペンも用意され工夫されていた。今回の視察地域の藤田に伝わる伝三郎太鼓演奏の後、返礼をしたい韓国教職員の希望があり「アリラン」と「さくら」（日本語）の歌が披露された。お互いの積極的な交流で時間になっても歓談はなかなか終わらなかったが、その後の公式訪問や個人的な再会の約束を交わし会場を後にした。



歓迎交流会にて韓国教職員による歌の披露

❖藤田地域センター

プログラム第 7 日の 1 月 17 日（火）8 時半、藤田地域センターを訪問した。小野田輝久館長の挨拶、長谷川美枝社会教育主事の司会で、農業を通して地域の子供と関わっている 3 名のお話が聞けた。増田隆氏からは藤田の開拓の歴史（入植者の苦労、風水害の試練など）と現在の藤田の様子（地元野菜の展示即売など行う藤田ふれあい祭りなどで子供に語り継ぐ）、茅原彰氏からは毎年子供のたまねぎ収穫体験に協力し更に他の農家仲間へも働きかけ子供と接することで自分達も学ぶことを、大塚真弓氏からは「田んぼの学校」を企画し開拓の歴史を語ると同時にお米の種まき、苗作り、田植え、草刈、案山子作り、餅つきまで共に行い子供が楽しんでくれる、という話を聞いた。3 名以外にも地域の方の参加があり、質疑応答時には地域特産物として小宮山氏

から「はと麦入り味噌」を紹介され韓国教職員は購入を希望、結果的には贈られ韓国教職員は小宮山氏を「みそアジュマ（おばさん）」と愛称で呼ぶほど 10 時までの短時間で友好が進んだ。



藤田地域センターで地域の方々との意見交換

10 時から 28 名が 2 班に分かれ、第一藤田小学校と第二藤田小学校へ訪問した。

❖岡山市立第一藤田小学校

岡山市立第一藤田小学校では重歳基校長の挨拶、児童合唱、学校の歴史と ESD 紹介、授業見学、給食と進んだ。授業見学では韓国派遣プログラム参加者の松本和子教諭が付き添い、国語の授業「百人一首」では百人一首が何であるか、音楽の授業「お琴」では着物姿の地域の先生は年に何回授業行なうのか等の質問に対応した。何人かの韓国教職員はお琴を弾き、体育「縄跳び」では体育の先生が大縄跳びに参加した。



第一藤田小学校にて体育の授業で縄跳びを見せる韓国の体育教員

❖岡山市立第二藤田小学校

岡山市立第二藤田小学校には藤田地域センターでお話を伺った茅原氏も来校した。嘉原典彦校長の挨拶、つづく概要説明の中

では5年生の食・農業、大学生や高校生とのフィールドワークで茅原氏との関わりが紹介され地域の方と子どもとの関わりがうらやましいと話題になり「たまねぎアジョシ（おじさん）」の愛称で呼ばれた。授業見学では韓国派遣プログラム参加者の大谷清人教諭が派遣時の「牛捕（ウポ）湿原」訪問を活用し世界遺産を学ぶ国際理解の授業を行った。書道の授業では初めて筆を持ち漢字を書く韓国教員もいた。給食を児童と共にした後、児童手作りの折り紙などを記念品として手渡され、学校を後にした。



第二藤田小学校にて書道体験

❖岡山市立藤田中学校

同日午後、一行は岡山市立藤田中学校を訪問した。到着が遅れたが、寒空の下生徒達が校門で歓迎の横断幕を手に「オソオンブシオ（ようこそいらっしゃいました）！」と何度も言って出迎えてくれた。生徒会長の先導により体育館へ行くと「ESD 国際交流会」として準備万端整えられていた。生徒会代表と韓国側代表とで「くす玉」を割り大拍手の中、会は始まった。韓国語による生徒の司会、学校紹介、スピード感溢れる実演付の部活動紹介とどれも工夫されており、時間をかけて準備してくれたと感謝の声があがっていた。つづく韓国教員による授業では1年の3クラスに分かれ金榮俊（キム・ヨンジュン）教諭が韓国軍将校の経験を元に平和について、水原（スウォン）外国語高等学校の林美銀（イム・ミヨン）教諭が国際関係を元に平和について、ウンチョン中学校の朴明植（パク・ミョンシク）教諭が韓国の中学生の日常についてそれぞれ授業を行った。3クラスとも生徒達は元気に先生に質問をした。この授業は同校の

全生徒に聞かせたいほどの貴重な体験であったとの学校側の評価があった。その後、3班に分かれ教員同士の意見交換では校長以下21名もの参加があった。「十分準備したつもりだがもっとこうすればよかった、という向上心が子供達にも大人にもある」「今回の訪問の準備をすることで生徒の間でESDという言葉が浸透した」という声が学校側から聞けた。また生徒の感想も岡山を離れる前に届けてくれて韓国教職員は感動していた。



藤田中学校生徒会による「ESD 国際交流会」

❖岡山市立第三藤田小学校

プログラム第8日の1月18日（水）午前、岡山市立第三藤田小学校を訪問した。「開校50周年記念収穫祭」という地域の方を招待する機会に韓国教職員も一緒に招かれ、日ごろの地域連携を体験できる機会となった。地域の方に聞くと1学期に1回は学校から招かれるとのこと。2年生は地域の方約60名を、1年生は韓国教職員の手を引いてエスコートし、児童も先生も招待客もお揃いのハッピーを着て体育館での収穫祭が始まった。児童の司会とはじめの言葉、藤原美子校長の挨拶、3、4年生の韓国語「ドレミの歌」合唱、1、2年生のおみこし、三藤太鼓の演奏と続き、全員で三藤音頭を踊った。地域の方に教わりながらお餅をつき、上級生が配膳をしてお餅を食べながら5年生の発表「藤田の米作りへの提案」を聞いた。最後は「収穫祭ができるのはご両親に感謝、お天道様に感謝、自然に感謝しましょう」という老人会代表の方のお話で締めくくられた。学校で児童が先生以外の言葉を聞くのも効果があるものだろう、と韓国教職員の感想があった。教室で聞いた藤原

校長からの概要説明の際には「学年を超えて仲良し」「教育は学校だけでは無理ゆえ家庭にも依頼」という場面で韓国教職員は大きくうなずいていた。お弁当を食べながら小林巧教頭から ESD 取り組みの説明を聞き、感想メモをそれぞれ書いて残し次の訪問先へと急いだ。



第三藤田小学校「開校 50 周年記念収穫祭」

❖岡山県立岡山南支援学校

同日午後、岡山県立岡山南支援学校を児童生徒の下校タイミングにあわせて訪問した。藤沢達郎副校長の出迎えを受け、5年間で200人から300人に生徒数が増加した説明などを聞きながら、保護者の車、介護施設の車、スクールバス、ローカルバスで下校する様子を2班に分かれ見学した。農園芸班の畑も見学した後、木本陽一校長の挨拶、概要説明があった。学校施設の見学では、聴覚障害には視覚的に理解しやすいよう行動予定をマグネットで一つずつ表し終わったらはずすという工夫、小学3年で初めて電車に乗って買い物する学習、小学4年からの宿泊学習、中学部からの作業学習（農園芸、紙工、陶芸）、企業からの請負作業（箸作りで収益あげる）など各教室を回った。



岡山南支援学校にて教員同士の意見交換

最後の意見交換ではクラスに支援が必要な生徒がいる韓国教員から同じ苦労や喜びに触れ感極まって涙を流した場面もあった。生徒手作りの小皿を記念品に最後にいただくまで始終温かな雰囲気だった。

夜はオプション（プログラム外）でホテル近くの居酒屋で教育談義したい人々が集まった。環境保全課 原氏、流尾氏、教委指導課 内田氏、中央公民館 重森氏、藤田公民館 長谷川氏、その他訪問していない岡西公民館などから数名、通訳協力者数名、韓国教職員 11 名が参加した。

❖市長・教育長表敬訪問

プログラム第9日の1月19日（木）午前、市長・教育長を表敬訪問した。高谷茂男市長から、2014年にはこれまでの ESD の成果を話し合う場になろうこと、ホン・ジャングループ長からは小中高どこを訪れてもすべて連携していて ESD の成熟段階にあること、藤田の開拓者精神が子供達へ伝わっていることなどが述べられた。記念品交換の後、皆で椅子と机と看板を移動して記念撮影をした。飾らない雰囲気、高谷市長、山脇教育長、松田環境局長を真ん中に全員笑顔あふれる集合写真が撮れた。



市長・教育長表敬訪問にて記念撮影

続いて今回の受入の担当者6名（環境保全課 原氏・流尾氏、教委指導課 中島氏・廣田氏、国際課 佐藤氏・朴氏）への韓国側からのフィードバックの場となった。地域（公民館）と学校との連携をどう思ったかという岡山市からの質問に「公共機関になかなか協力してもらえない、保護者と学校間でうまくいっていない実情」「いろんな所

でいろいろな人が ESD を行っているのが岡山の特徴で韓国でも広めたい」「例えばお祭りを通して子供も大人も喜んで学んでいる ESD の精神に感動した」など岡山市の ESD をうらやむ声があがった。韓国側からは「教育委員会と現場、教育委員会と市の摩擦」や「教育長の任命」についてなど韓国で起こる問題点について質問があった。最後は大阪での報告会用に途中まで作成された動画を披露し「アリラン」が流れる場面では朴氏が涙するほどお互い学び合えたことを喜んでいて、この会をはじめとし、飾らずシンプルに本質的に行なう岡山市側の対応・アイデアは韓国教職員に好感を持たれた。

❖ 後楽園

昼食後、一行は後楽園を訪問した。唯一雨が降ったのがこのタイミングで靴は汚れ寒い思いもしたが全ての学校訪問を終えリラックスにちょうどよかった。文化施設訪問が1箇所しかなかったが、京山公民館の平島省三館長にも同行いただけ「庭園都市おかやま」を垣間見ることが出来た。



後楽園で治水の工夫について学ぶ

❖ 京山公民館

15時から一行は京山公民館を訪問した。三部構成でまず平島館長より公民館活動と館内の説明を受け、見学をした。子供達とのエコツアー、「ほっとスペース放課後」(小中学生の放課後の居場所)の最高齢スタッフが85歳であること、京山公民館に107講座もあること、ESDという言葉が日常的に使われている「公民館だより」などが、ESD先進地域という印象を与えた。次に岡山大学大学院教育学研究科 桑原敏典准教

授の指導のもと活動する2人の大学院生による小学生へのESD授業の発表を聞いた。小山大輔氏は「海ごみ問題学習」、杉田直樹氏は「意思決定学習」。質疑応答では財源や他の学習テーマ、行政と大学との連携などに質問があがった。環境保全課 原氏から「行政やNPOにもない答えを教育学の専門家に求めた背景」と共に「ここで培ったノウハウを学校現場へ実践されなければ意味が無い」という課題も話された。最後に京山地区の方との意見交換となった。司会の原氏も流尾氏も次の別件(ESD café)へ出かけるぎりぎりまで同席し「隣国同士仲良くしたいという思いが自然に強くなった」という言葉が残された。京山公民館 文屋美子氏、中央公民館 重森しおり氏、藤田公民館 長谷川美枝氏、京山地区 ESD 推進協議会 池田満之氏、平島館長、岡山市教育委員会指導課 内田光俊氏との意見交換では「ごみ処理の方法」「自然災害に対する訓練」「農業の悪臭対策」「京山の有名人」「平島館長の経歴」など硬軟おりませ和やかに話し合われ、18時過ぎ暗い中で別れを惜しむ最後となった。



京山公民館にて「ほっとスペース放課後」を見学

プログラム第10日の1月20日(金)午前、一行はホテルをチェックアウトした後、情報共有会を行った。プロジェクタで発表用動画を確認しながら十分に話し合いができた様子。その後昼食を経て岡山を離れ、牛窓に立ち寄り瀬戸内海の風景を楽しみながら大阪へ移動した。

2-5. E グループ: 福岡県

済州中央高等学校の夫在浩（プ・ジェホ）校長をグループ長とするEグループ 30名は、プログラム第5日 2012年1月15日（日）より福岡県を訪問した。

福岡空港に到着した一行は、昼食会場である福岡リーセントホテルに向かい、昼食後同じ会場にて福岡県教育庁教育振興部高校教育課の中野敏昭指導主事より翌日のスケジュール、および福岡県の概要について説明を受けた。その後日本側は会場を後にし、訪問団は、第1回目の情報共有会を実施した。

❖ホームビジット

会の終了後、ホテルにチェックインした一行は、ホームビジットの準備を整え、ホテルに待機していたホストファミリーと合流し、それぞれの家庭に向かった。当初は緊張の面持ちであった参加者たちであったが、今回のプログラムにおける訪問予定先の教職員や昨年8月の韓国政府の招へいにより韓国を訪問した日本教員の家庭などを含め教員の家庭を中心に訪問先が選ばれており、共通の話題も多く、教育委員会の手配による通訳の協力も得て、有意義な語らいの時間をすごせたようであった。

❖教育長表敬訪問・オリエンテーション



杉光福岡県教育長への表敬訪問

プログラム第6日、1月16日（月）午前、訪問団一同は、福岡県庁舎4階の教育委員会会議室において福岡県教育委員会 杉光誠教育長への表敬訪問を行った。杉光教育長からは昨年3月の大震災に際しての韓国

側からの支援に対するお礼とともに、韓国との交流窓口や留学生支援に手厚い福岡県を紹介するなど、歓迎のあいさつがあった。韓国側からは夫グループ長より受入れに対する感謝の言葉が述べられた。続いて、訪問団へ記念品の贈呈が行われ、訪問団からも夫グループ長から福岡県教育委員会へ記念品が贈られた。なおこの日は終日国際連合大学大学院 加藤敬事務局長が訪問団に同行した。

表敬訪問が終了し、教育長を囲んでの記念撮影が行われた後、会場を別室に移し、福岡県教育委員会による県の教育施策について教育庁教育企画部企画調整課 富松文夫企画主幹より概要説明を受けた。

福岡県教育委員会では、毎年「福岡県の教育施策」を定めており、今年の基本目標について、福岡県の目指す子どもとしての、学力や体力の向上、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子どもの育成のために目標を定め、その実現のために学校教育、社会教育、文化、スポーツ等の各分野において体系化されている「教育施策の6つの柱」について、さらに教育施策に関する指標について説明があった。韓国側からは福岡の施策がどのように国の方針と結びついているのか、違いはどこにあるのかなど、質問があった。

❖福岡県教育センター

福岡県の教育概要プレゼンテーションが終了すると、一行は福岡県教育センターへ向かった。同センターは、職員及び長期研修員128名を有し、現代の多様化する教育課題を解決し、福岡県内にいる約2万3千人の教職員の資質向上に向けて、「教育に関する調査と研究」、「教員研修の実施」、「訪問指導や、児童・生徒・保護者を対象とした教育相談などの学校支援」、の三つを柱とした事業を展開し、県の教育の充実・振興を図るための施設である。

センターに到着すると、一行はまず清田嘉治所長より韓国教員歓迎の挨拶を受けた。ついで、福岡県の概要を紹介する韓国語によるDVDを視聴し、福岡県の教育のみならず、文化、歴史について知ってもらうことができた。引き続き企画部の吉田茂部長より教育センターの概要説明が行われ、

組織についての説明、センターでの研修は無論のこと、ホームページから e-ラーニングが活用できることや、派遣コンサルタント、出前講座などで教育現場を支援していることが説明された。



小グループの意見交換

昼食後、休憩を済ませた一行は再び会場に集合し、5グループに分かれて日本側との少人数による意見交換をおこなった。韓国教員は、事前に教育センター側で①校長、副校長、②英語教諭、③日本語または韓国語教諭、④社会科教諭、⑤その他芸術科目や体育等の教諭、に分けられ、福岡県側で手配した3名の通訳の協力も得て、グループ毎に意見を交換した。韓国側は日本の制度について事前に学習しているため、具体的な質問が多く、少人数のおかげで詳細な話し合いが可能となった。それぞれのグループごとのテーマは設定されていなかったが、日本側参加者のリードによって各グループが関心のある話題で議論した。なお、Eグループのメンバーの中で教職員ではない韓国ユネスコ国内委員会職員、教育部職員、及び国会事務局職員は決められたグループに属さず、自由に見学、または議論に加わった。

各グループでの主な論点は以下の通りである。

1. 校長、副校長、教頭への昇格について
2. 教員の能力向上について
3. 新任教員への研修について
4. いじめ、校内暴力について、韓国では今大問題になっているが、日本はどのようにして沈静化することができたのか、など

5. 韓国の学校での放課後の補習授業
6. 主要教科以外の授業時間
7. 日本の部活の意義
8. 日本の学習指導要領の改訂について
9. 体罰について
10. 人権教育について

1時間近い討議が終わると全員が再集合し、それぞれのグループでの討議内容について韓国側が代表して骨子を発表し、情報を共有した。

研修センターを後にした参加者は福岡の「博多町屋」ふるさと館を訪問した。3グループに分かれて博多人形の制作実演や博多織の実演も見学し、伝統工芸に触れつつ明治・大正期の町屋を見学、あわせて隣接する櫛田神社を見学した。



「博多町屋」にて博多織を体験

❖ 歓迎交流会

夕刻より、福岡リーセントホテルレインボーホールにて歓迎交流会が開催された。会の開始前に、日本側から香椎工業高等学校生徒のロボットによる流鏝馬、香住丘高等学校の生徒によるなぎなた演武が披露された。会場には教育庁関係者、県内訪問校の校長や関係教職員、ホストファミリーなどがそろい、福岡県教育委員会高校教育課の竹下徹主任指導主事の司会の下、福岡県教育庁の友枝文也理事による歓迎挨拶、主催者側を代表しての国際連合大学大学院加藤事務局長の挨拶があり、ついで訪問団を代表して、夫在浩グループ長から受入れに対する感謝が述べられた。教育センターの清田所長による乾杯の発声後、会が始まり、主な列席者の紹介があった。宴もたけなわに差し掛かった頃、韓国の女性教員による扇の舞が披露された。



歓迎交流会にて韓国教職員が「扇の舞」を披露

❖福岡県立城南高等学校

プログラム第7日、1月17日（火）、訪問団は福岡県立城南高等学校を訪問した。同校は普通科高校として1学年約400名を有し、ほぼ全員が大学進学を果たす進学校である。学校全体でキャリア教育、コミュニケーション教育、サイエンス教育に力を入れており、特にサイエンス教育については文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）としての研究指定を受け、大学や企業との連携の下、さまざまな活動を行っている。また、2010年にはユネスコスクールへの加盟が認定され、国際理解教育、環境教育にも力を入れ、教職員によるユネスコスクール推進委員会、生徒によるユネスコ委員会により、活動が推進されている。

学校に到着すると訪問団はまず松谷敏樹学校長から歓迎の挨拶を受けた後、学校の概要を説明するDVDを視聴、引き続いてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の概要説明を聞いた。次いで訪問団は2グループに分かれ、授業参観及び施設見学を行った。授業では、数学、英語、体育館での柔道と剣道、書道、理科実験などを教室にはいって、教科書や配付物なども参考にしながら参観した。また、教室内や廊下の掲示物、その他校内のすみずみに目を向け、雨水の利用、制服、偏差値表、などについて質問があった。

昼食後はユネスコスクール推進委員会の二宮浩司教諭よりユネスコスクールの活動が紹介された。その後、ユネスコ委員会の生徒及び希望者が教室に集合し、まず初めに同校で人気のある韓国の食べ物、俳優、映画などを生徒たちが調べたアンケート結果が発表されると、会場は一気に堅苦しさがとれ、盛り上がりを見せた。続いて、訪

問団が6グループに分かれ、それぞれ生徒数人ずつがグループに参加、同行した通訳のほか、参加者で日本語のできる教員2名のほか、同校教員と生徒が通訳となって各グループに配置され、生徒と韓国教員は料理、人気グループ、服装についてなど活発に意見を交わし、短い時間であったが日本の生徒の生の声を直接聞ける機会となった。その後の日本の教員との意見交換では、休み時間に生徒が秩序だっていたことや、制服に乱れないこと等に韓国側が注目し、日本の生徒が皆そうなのか、あるいは城南高等学校の指導でそうなっているのか、また、問題行動にどう対処しているのか、先生に反抗することはないのか、など、生徒指導に関する質問があった。そのほか、SSHとしての活動は正規の時間数では不足するのではないか、発表のあったところ以外にどのような大学や企業と連携しているかなどの質問があった。

最後に韓国訪問団を代表して蜜陽（ミリャン）女子高等学校の金瑩煥（キム・ヨンファン）校長より謝礼の挨拶と記念品の贈呈があった。



城南高等学校にて生徒と交流

❖福岡市民防災センター

高校を後にした一行は、百道にある福岡市民防災センターに向かった。ここは、展示や体験などで楽しみながら防災を学べる施設として、小中学生のみならず、中国、韓国など海外からも多くの見学者が訪れている。整った設備の中で一行は震度7の地震体験、風速30mの強風体験、消火訓練、煙が充満した中から逃げ出す火災体験などを体験した。その後、近隣のロボスクエアにてロボットとふれあい、最後は福岡タワ

一からの眺望を楽しんだのちホテルにもどった。



防災センターにて消火訓練

❖輝翔館中等教育学校

プログラム第8日、1月18日(水)は、博多駅より新幹線にて筑後船小屋駅まで移動、そこからバスで輝翔館中等教育学校に向かった。

同校は、県内唯一の就学期間を6年間とする中等教育学校であり、開校8年目を迎える。学力の向上を中心に礼節・マナー教育、介護体験や大学訪問、また表現力の育成に力を入れ、生徒の個性を伸ばす教育を行い 21 世紀でエースとなる人間の育成を目指している。各学年約 120 名からなり、遠距離通学者のために通学バスと寮がある。

到着すると内野孝一郎学校長からのあいさつの後、学校の概要として、教育方針、学校生活、進路などにつき説明があった。そののち全員に校内案内図が手渡され、自由に校内を見学した。うち中学1年生に当たる1年時の科学実験、高校2年に当たる5年時の数学 B、中学3年生に当たる3年時の英語の授業については教室に入り、参観できたため、実験中の生徒に声をかけたり、教科書やノートに見入ったりした。韓国教員は自由に校内を回り、さまざまに関心を示し、掲示物は無論のこと、バイク通学、自転車通学、寄宿舎など質問をした。また、授業参観と平行して訪問団は礼節教育に位置づけられている茶道の体験をし、日本の文化に触れることができた。中高一貫教育がほとんどない韓国教員からは高い関心が集まった。

その後の同校の教員との質疑応答でも活発に意見交換が行われた。韓国側からの質

問内容は以下の通りである。

1. チーム・ティーチングと習熟度別クラスについて
2. 6年間の一貫教育の長所と課題
3. 学校のレベルについて
4. 選抜試験方法
6. 適性がない場合はどうなるのか、など。

日本側からは以下の質問があった。

1. 徴兵制が韓国の高校生の進路に与える影響
2. 韓国の若者の漢字能力

最後に訪問団を代表してソウル大学附属高等学校の李起成(イ・キソン)校長より受入れに対する感謝のことばと共に輝翔館側に記念品が手渡された。



輝翔館中等教育学校にて生徒から茶道のお手前を受ける

❖九州国立博物館

同校を後にした訪問団は昼食の後太宰府天満宮に向かった。参道にてバスを降り、天満宮を散策した後、アクセストンネルを抜けて九州国立博物館を訪問した。同博物館は 2005 年に開館した日本で4館目の国立博物館で、国(独立行政法人)と福岡県が連携協力して事業運営を行っている。到着すると福岡県アジア文化交流センター所長も兼ねる清水圭輔副館長が訪問団を迎えた。概要説明では、特に教育とのかかわりについて紹介され、学校よりも面白くわかりやすく知識を身につけ、体験できる場所であること、そのために大勢のボランティアやジュニア学芸員などが活躍していること、さらに貸し出し用の展示セット「きゅうぱっく」などが紹介された。その後、博物館の見所の一つである、バックヤードの見学が展示課の国際交流員による韓国語で

の説明で行われた。さらに、子どもを対象としたアジアの国々に触れるための「あじっば」での体験や、日本の文化の形成についての展示を見学するなど、訪問団は思い思いに時間をすごした。



九州国立博物館にて、展示セット「きゅうぱつく」の説明を受ける

❖古賀特別支援学校

プログラム第9日、1月19日（木）午前には古賀特別支援学校を訪問した。同校は知的障害教育を行う小学部・中学部・高等部及び、病弱教育を行う小学部・中学部を並置する特別支援学校として2010年に開校した。現在小学部、中学部それぞれ約100名、高等部には約70名が在学している。また同校は地域の特別支援教育のセンターとしても機能している。

小中学部に到着すると、高山真理子校長からのあいさつの後、概要説明があり、学校で指導している教科や学習の様子が紹介されたあと、小中学部の校舎にて施設と授業見学を行った。ついで高等部に移動し、授業見学では、実際に生徒たちが学ぶ教室に入り、さをり織りや木工などの作業を体験した。校内ではまた就労に向けて清掃活動に従事する生徒たちともふれあった。その後の教員との質疑応答では韓国側から以下のような質問があった。

1. 障害者を雇用しないと罰金などが科せられるのか。
2. 特別支援学級の設置義務
3. 特別支援学級の教師の免許について
4. 教師の異動について
5. 福岡県内の特別支援学校の数

最後に訪問団を代表しフンドク高等学校

のイ・キョンボク校長より受入れに対する感謝のことばと共に学校側に記念品が手渡され、学校側からは生徒が作ったさをり織りの小物と木工品が記念品として手渡された。



古賀特別支援学校にて、さをり織を体験

❖福岡工業大学・城東高等学校

同日午後は福岡工業大学を訪問した。同大学は市内の至便な場所に最先端の設備と自然を共存させたキャンパスがある。到着してまず一行は同大学のカフェテリアに案内され、自由にメニューを選び、昼食をとった。一休みの後、総務部の山本修一部長の案内により、広々としたキャンパス内の施設を見学し、情報処理センター、短期大学部でのデザインの授業、モノづくりセンター、音とモノづくり歴史資料館、附属図書館、音楽ホールなどをまわった。説明を受けながら、訪問団はロボコンに向けての学生の活動の様子や就職課の掲示物などに関心を寄せ、質問をはさんでいた。

見学後に会議室に集合した訪問団に対し、下村輝夫学長から歓迎の挨拶があり、訪問団からは訪問団を代表し漢陽（ハニャン）大学高等学校の劉成鍾（ユ・ソンジョン）副校長より受入れに対する感謝のことばと共に記念品が手渡された。

続いて同大学の附属高等学校である、城東高等学校の村岡雄治校長代理より、私学としての使命や同校の学校改革について概要説明があった。引き続き、福岡県内、九州地方での大学の位置づけや、留学生、就職状況などを含んだ大学の概要が説明され、その後短い時間であったが質疑応答が行われた。大学側へは、韓国からの留学生数、大学側の就職支援について、卒業後の

就職先、また城東高等学校へは生徒の進学率と就職率などについて質問が上った。

最後に大学側から記念品が手渡され、会場を後にした一行は正面入り口にて学長を囲んで記念撮影をし、大学を後にした。



福岡工業大学にて、下村学長を囲んで

プログラム第10日、1月20日（金）午前、Eグループ一行はチェックアウトを済ませた後、ホテル近くにある堅粕公民館にて、第2回情報共有会を行い、大阪にて開催予定の全体報告会での発表内容を整えた。福岡県でのすべての公式日程を終えたEグループは、福岡空港にて、県教育庁の竹下徹氏、中野敏昭氏に見送られ、福岡を後にした。

3.全体プログラム（大阪）

3-1. 報告会（第11日）

プログラム第11日の1月21日、リーガロイヤルNCB2階「松の間」にて、報告会が行われた。式には、訪問団の他、文部科学省の井村隆国際統括官補佐、大阪韓国教育院の宋鍾錫（ソン・ジョンソク）院長、ユネスコ・アジア文化センターの西村康理事、および2011年8月の韓国政府日本教職員招へいプログラムにおいて訪韓団団長を務めた加藤久雄奈良教育大学副学長をはじめ、過去に訪韓した日本教職員16名が日本側来賓として出席した。

報告会では、各グループ代表より15分ずつプログラムの感想、成果等についての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

—Aグループ—

はじめに、埼玉県さいたま市を訪問したAグループのムヌ初等学校の金鮮英（キム・ソニョン）教諭が報告を行った。

今回の訪問で「命」「繋がり」「学び」の3点を学んだ、と述べた。

まず「命」について、自然との絆という意味である、と述べ、以下の例を挙げた。

- 横浜市立永田台小学校では「命の授業」を通して、1、2年生は体験を通して気づきを得ること、3、4年生では気づいたことを行動にうつすこと、5、6年生では発信することを重視していた。
- 上里小学校ではホタルの飼育をして命の大切さを学んでいた。
- 桜木小学校では、朝の運動を通して、元気な児童の育成に取り組んでいた。

次に、「繋がり」は人間と人間との絆という意味であると述べ、以下の例を挙げた。

- さいたま市立養護学校は、医療機関・福祉施設と一体化しているので、特別支援教育を受けながら医療サービスも受けられる。また、一般の学校との交流もしている。
- さいたま市立桜木小学校では、小・中一貫の英会話教育を行っていた。ALTや地域の人材を活用し、英語教育に取り組

んでいた。

- ホームビジットでは、人間同士の絆を深めることができた。また、日本の習慣や（韓国とは異なる）日本の優しい父親の姿を知ることができた。

そして、「学び」について、人間と社会との絆という意味である、と述べ、以下の例を挙げた。

- さいたま市立防災センターでは、日本の子どもたちが日頃から災害について学んでいることを理解できた。また、消防署では中学生が職場体験をしており、職業体験、進路教育における社会との連携も見ることができた。
- さいたま市立尾間木小学校では、チームティーチングによる算数教育を行っていた。コミュニケーションを重視した教育により、児童の思考力の成長を図っていた。
- さいたま市立上里小学校では、カルタを作成して環境について学んでいた。また、地域の人々を積極的に巻き込んで学校のお祭りを行っていた。
- PTAの保護者が来ている訪問先もあった。上里小学校では環境ボランティアの方が校内のビオトープを案内してくれた。学校と地域がともに学んでいく姿を見ることができた。

最後に本プログラムを通じて、学校と家庭、地域社会の緊密な関係を通じたESDを見ることができたと述べ、発表を締めくくった。



報告会 A グループ

－B グループ－

京都府与謝野町を訪問した B グループを代表し、全羅北道（チョルラボクト）長水（チャンス）教育支援庁の金潤範（キム・ユンボム）奨学官が報告を行った。

まず、本プログラムの B グループの目的は、教育事情の理解、ESD の観点からの国際教育の理解、教育機関の交流と関係強化そして日本の文化体験であると述べた。

次に、各学校を訪問しての気づきを以下のように述べた。

- 市川市立稲越小学校では、ESD と関連した学習目標を設定している点、創意的な体験活動に異年齢集団である「ぼかぼかグループ」を活用している点、基礎学力が不足した児童に対しても、「ぼかぼかグループ」を利用している点が挙げられる。
- 与謝小学校では、俳句を作ることを通した思考力と表現力の向上、生活習慣の確立、強く正しい心を持った子供の育成を行っていた。ESD の実践事例としては、俳句と詩を活用した国際理解教育、児童の思考力と表現力の向上、感受性を通じた道徳教育が挙げられる。
- 橋立中学校では、津波の被害にあった住民にメールを送ったり、天橋立と連携した教育を行ったりしていた。
- 岩屋小学校では、地域社会の文化や伝統遊びが授業に活用できることを発見した。学校周辺の自然環境を活用した体力向上に取り組んでいた。
- 市場小学校では、考えを論理的にわかりやすく表現する能力の向上や児童の積極性や活発さを活かす教育に取り組んでいた。
- 与謝の海支援学校では、一般の学校との交流を通じた連携教育、および障害者の認識を改善する教育が可能である、ということ学んだ。

そして、本プログラムでの成果を、日本と韓国の教育の比較ができた点、与謝野町の文化を探訪する機会になった点、韓国の教育に適用が可能な示唆点を探る機会になった点であると述べた。

また、今後の提案として、先進的な学校への訪問、伝統文化公演の観覧や体験をす

る機会を拡大すること、出会いの時間や情報交流の時間を長くすること、今後の関係性・交流強化の構築する方法を検討するという点を挙げて発表を締めくくった。



報告会 B グループ

－C グループ－

続いて、C グループを代表し、大田（テジョン）外国語高等学校の金元明（キム・ウォンミョン）校長より報告があった。

はじめに、平成 23 年 3 月 11 日の大地震と大津波について動画を用いて言及した。

- C グループの滞在中も地震を何回も経験して怖かったが、そのうちに何も感じなくなった。まだあちこちに瓦礫が残っていた。
- 気仙沼市立階上中学校の卒業式の際に卒業生が読んだ「しかし私たちは海を恨まない」という式辞が示すように、いかなる自然災害が起こっても人間の意志は折れることはないことを気仙沼の人々から学んだ。

また、気仙沼に春が来るように祈りをこめて、訪問団が「春が来た」という歌を歌ったと述べた。学校訪問では、地域の農産物を使った給食の食育教育や、環境教育を行っていたことを学んだ、と発表した。



報告会 C グループ発表スライドの 1 枚

最後に、吹幸＝復興（ふっこう）の紙が教室に飾ってあったことについて述べ、気仙沼の早い復興を願うばかりである、と締めくくった。

－D グループ－

続いて、D グループを代表し、大田（テジョン）ボクス高等学校の金愛英（キム・エヨン）校長より報告があった。

様々な過程を経て、発表の主題に環境教育を選んだと述べた。そして、東京および岡山市での気づきを以下のように述べた。

- 自由学園は広い敷地を持ち、自分たちで作った農作物を食べている。児童生徒により学校が自治されており、学校自体がESDの現場であった。
- 岡山のESDは、学校と行政機関、公民館に代表される地域社会とがそれぞれ連携していることが大きな特徴であり、地域を愛する心、地域の発展を望む心を育てている。「一人ひとりがそれぞれの立場で自分たちの土地を愛する勉強をするべき」だと学んだ。玉ねぎ農家で、子供たちが農作業を学び手伝う話も聞き、地域と学校のむすびつきがわかった。
- 県立興陽学校では、工業高校と連携した「菜の花エコプロジェクト」、無農薬栽培、地域社会へのボランティア活動等、を積極的に行っていた。
- 藤田公民館では、持続可能な社会をつくるため、農業の未来は地域の未来であると考え、地域の住民や大学、学校と連携していた。
- 岡山市立第一藤田小学校は、1年生から6年生まで、地域の農家との交流や、地域用水に生息する生き物の観察等の地域に密着した環境教育を行っていた。
- 岡山市立第二藤田小学校では、総合的な学習の時間を使い、地域、環境、食・農業、国際理解をテーマにESDに取り組んでいた。
- 岡山市立第三藤田小学校でも、学校と児童、地域が連携し、郷土藤田の名人や特産物、環境、食と農業、国際協力等、地域の特徴を生かしたESDを進めていた。
- 岡山市立藤田中学校では、藤田地域の小

学校3校での取り組みを生かし、高校生と連携した「花いっぱい運動」、職場体験等に取り組んでいた。

- 高島公民館では、アユモドキの保護などに取り組み、自然を愛する心を育てていた。
- 京山公民館では、行政、大学、NPOが連携し、海水のゴミ研究、ゴミ不法投機解決プロジェクト、意志決定学習を導入したESD授業等に取り組んでいた。

最後に、本プログラムは充実した内容で感動的なプログラムであったと述べ、発表を締めくくった。



報告会 D グループ

－E グループ－

最後に、E グループを代表して、ムンサン女子高等学校の崔敬允（チェ・キョンフン）教諭が報告を行った。

E グループは、都市と自然が調和する福岡県に訪問をした、と述べ、各訪問地での気づきを以下のように言及した。

- 坂戸高校については、福祉実習・環境指導・進学率に重点を置いている。異なる環境を理解する授業を行う。多くの種類の家畜を飼っており、生物多様性と生命尊重を学んでいる。福祉では実物大の人形や器具を使って実習していた。また、意思決定・表現能力を育む教育を行っていた。
- 福岡県は学力と体力をあげるために独自の学力向上と体力向上をスローガンにしていた。

- 城南高等学校では、ESD で国際理解能力を高めるために、留学などのインセンティブをつけて生徒のモチベーションを上げている。また、環境教育の一環として干潟でゴミ拾い等を行っている。そして、カブトガニなどが産卵できるように人間が支援している。
 - 輝翔館中等教育学校は韓国にはあまりない中等教育学校である。中等教育（中高一貫教育）は小学校6年の修了後試験を受け、その後6年間継続して行うため、高校への試験がないことが特色である。そのため、進路教育体験があり、三年生では育児の授業もあった。
 - 古賀特別支援学校では、学習集団（チーム）による共同活動のなかで集団での生活を学んでいる。また、技術を習得して、社会で自立できるように支援している。
 - 家庭訪問では、おじいさんが23年間続けている伝統踊りを私たちに見せてくれた。また、韓流の話を切り口に文化の話ができたのは有意義であった。一番人気があるのはチャン・グンソクであった。
- 最後に、韓国という一つの点が、日本という二つ目の点と結べることになった。この紐を結んで、途切れないようにしていきたい、と締めくくった。



報告会 E グループ

また、各グループの発表後、日本の教職員を代表して、本プログラムで B グループを受入れた市川市立稲越小学校の岩橋郁郎教諭、および 2011 年 8 月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した、与謝野町立三河内小学校の稲垣成光校長、奈良登美ヶ丘小学校の辻倉史子教諭、奈良教育大学の加藤久雄副学長がそれぞれ感想を述べ

た。

その後、参加者は今回の訪問での学び、および今後の教育活動についてどのように生かすか、について個々に考えた後、互いに意見を共有する機会を持った。

3-3. 閉会式

報告会に続き同じ会場にて、閉会式が行われた。最初に、ACCUの西村康理事よりあいさつがあり、学校訪問や教員・児童生徒との交流を通じ、日本の学校教育の現状や課題、日本のESDの現状について理解を深めていただけたのではないかと述べた。そして、今回の体験、知見を帰国後皆様の教育現場で生かすとともに、今回の訪問で培われた人脈等を生かし、姉妹校、修学旅行など学校間交流等のネットワーク作りにも取り組んでいただければ有難い、と述べた。



閉会式 ACCU 西村康理事あいさつ

続いて文部科学省より、井村隆国際統括官補佐が、韓国は日本の重要な隣国であり、今日の世界情勢を考えると、日韓関係はより高い次元に発展させていく必要があり、政府間交流にとどまらず、様々な文化・人的交流を拡充することが大切であると考えていると述べた。そして、帰国後に、本プログラムでの体験を、児童生徒や同僚に伝えて欲しい、と述べた。



文部科学省 井村隆国際統括官補佐

次に、大阪韓国教育院の宋鍾錫（ソン・ジョンソク）院長よりあいさつがあり、24年前に自身もこのようなプログラムに参加

したが、当時両国は「近くて遠い国」と表現されていた。それが今では韓流ドラマやKポップなどで、お茶の間などでも近く感じられる国となった、と述べた。この経験が参加者にとって新しい刺激となったと信じている、と締めくくった。



大阪韓国教育院 宋鍾錫院長

最後に訪問団を代表して金承潤（キム・スンユン）副団長があいさつし、ユネスコ憲章にある「人間の心の垣根をとりのぞかねばならない」。この「垣根」を取り除くのは第一に教育、第二に文化の多様性を認め合うこと、第三は未来をみつめる視点であるとし、ESDは言い換えれば持続可能な未来を作る「活動」である、と述べた。また、今年8月に日本教職員が韓国を訪問する際は心より歓迎したい、と閉会式最後のあいさつを締めくくった。



金承潤副団長

閉会のあいさつの後、日本側からグループ長5名に記念品の贈呈が行われ、また、ACCUからは『Animals in Asian Tradition -Intangible Cultural Heritage (ICH) around Us -』が参加者全員に進呈され、閉会式は幕を閉じた。

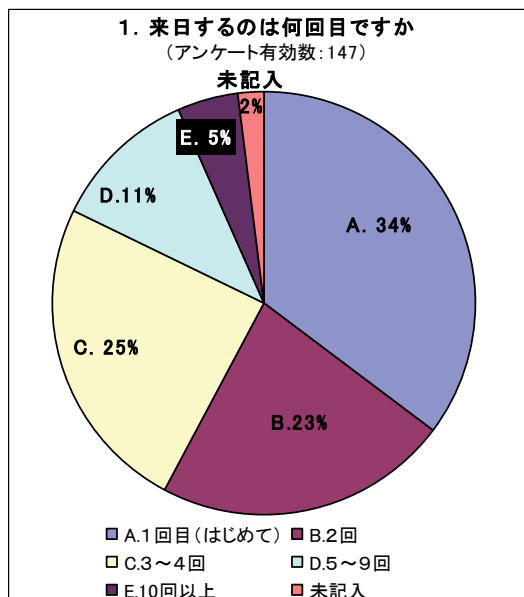
第II章

コメントと提案

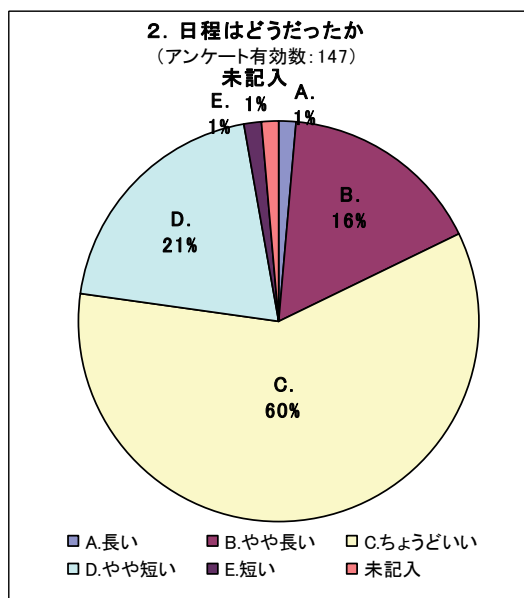
1. 韓国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 主な受入れ学校および機関

◆1. 韓国教職員

質問1. 来日するのは何回目か



質問2. 今回の日程はどうだったか



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・ソンジョン (ちょうどよい)

学校、家庭、行政など様々な場所で、日本の教育や文化を体験できるように配慮された点が良かった。もっと予算を確保し、より多くの教職員に機会を与えて、ユネスコ教育理念の実践に共に参加したい。

A-16 クォン・ヨングン (やや短い)

今回のプログラムの本来の目的ではないが、日本を理解するのに文化的な要素を無視できない。可能であれば午前学校訪問、午後文化体験の日程や、訪問地域の文化体験ができるよう、あと1-2日欲しい。

B-3 チェ・イロ (やや長い)

研修が終わるとすぐに韓国の旧正月の時期があり、多少大変だと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン (やや短い)

学校訪問を通して特色のある教育活動と学生たちの活動の様子を具体的にみることができ、韓国と違った良い所も沢山見ることができた。しかし、地域の文化財や伝統文化の体験機会が少なく、日本文化を知る時間が足りなかった。

B-24 イム・ジンスク (短い)

去年より日程が短くなり、残念だ。5日位延ばし、より多くの学校と文化遺産、歴史を学ぶ機会があれば良い。

B-25 イム・ビョンジェ (やや短い)

期間は長いですが、プログラム内容がとても良く、時間が経つのに気がつかず短く感じた。

C-17 キム・ウォンミョン (ちょうどよい)

東京でのオリエンテーション、学校訪問、各地域別活動、大阪での反省会など全て必要な日程だった。

C-19 キョン・ヘヨン (やや短い)

日本の政治、社会、歴史など基本事項について紹介する時間が必要。グループプログラムの際、その地域のESD活動内容を全般的に紹介する時間やESD活動をしている教職員との交流時間が必要。日本文化に接する時間が足りなかった。

D-11 キム・ドンホ (ちょうどよい)

日程は全体的にきつい感じだったが、毎日の意味のあるプログラムで疲れを忘れた。もっと長くなればプログラムがルーズになり、疲れも感じると思うので現在の日程がちょうど良いと思った。

D-14 キム・ヨンジュン (やや短い)

絶対的な時間が長いか短いかは言えないが、プログラムに比べて日程が少し短かった気がする。小学校訪問の場合、都市型学校 1 校、農村型学校 1 校など代表的なところの訪問だけにし、公民館も 1ヶ所で十分だと思う。また、日韓教職員同士の会話の時間を増やしてほしい。時間が許すのであれば、見学よりは体験をしてみたい。

D-20 イ・サムシク (ちょうどよい)

最初は日程が少し長いと思ったが、学校現場の訪問は私に多くの事を感じさせた。学校訪問の度に特色があり、根をしっかりと持つ教育が印象的だった。保護者の方々の学校に対する熱意も素晴らしく、学校が生徒の教育に専念し信頼されているからだと思った。校長先生の教育哲学やそれを支える教職員の努力の賜物であると思う。立派な先生方の教えに従う生徒たちが愛おしかった。行政担当者の考えはとても積極的で、実践意志が強かった。

D-28 キム・エヨン (ちょうどよい)

小中高・機関訪問でちょうどよい。もし可能であれば 1泊のホームステイをしてみたい。

E-1 プ・ジェホ (やや短い)

日本の教育制度や学校の教育活動を十分理解するには少し短かった。1日位延長し、もっと余裕を持ってプログラムを運営してほしい。

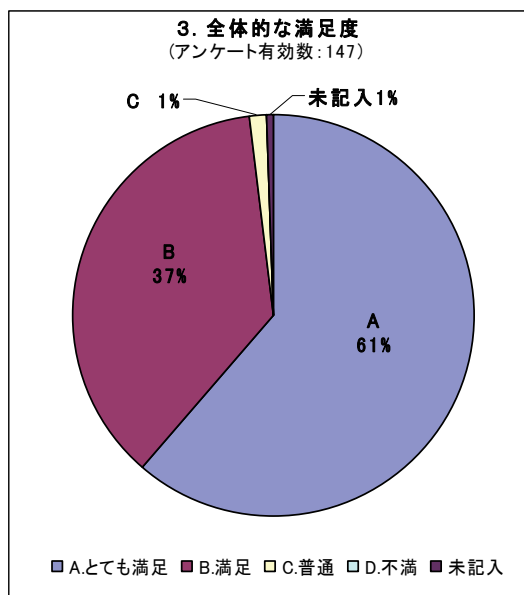
E-4 チェ・スギョン (ちょうどよい)

最初は少し長いのではと思ったが、学校訪問など充実した内容で、最後まで中身の詰まったプログラムで良かったと思う。

E-16 クォン・テクムン (ちょうどよい)

日本の高等学校の形態、専門学校、一般の高等学校、中等教育学校、特別支援学校を全て見学することができた。また、自主研修の時間があり、日本の文化体験をすることができた。

質問3.全体的な満足度



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-7 チョン・ウンホン (とても満足)
学校見学、地域の教育機関など様々な所を訪問した。ただ、文化体験の機会が少なかったのも、もう1日自由な日程があれば良い。

A-14 キム・スオン (とても満足)
訪問校の積極的な協力に感動し、彼らの国家観と忍耐力、節約精神、生活態度をみて、自分を見直すきっかけとなった。

A-16 クォン・ヨングン (とても満足)
ESD 活動について詳しくなかったが、ESD とは何か、なぜ教育に必要なのか気づくことができた。

B-14 キム・ユンボム (とても満足)
ユネスコ韓国委員会や ACCU の徹底した準備のおかげで、色々なことを見て感じた貴重な時間だった。

B-15 クォン・トゥシク (満足)
多くの小学校、中学校、特別支援学校を訪問し、日本の教育現場を見ることができてよかった。ホームビジットもよかった。大都市 (東京、大阪) の学校訪問もあれば尚良いと思う。

B-26 イム・クァヌク (とても満足)
日本の文化体験は初めてで、ユネスコ国際理解教育や ESD 活動プログラムに初めて接す

る機会となった。多様な教育文化体験が、日本に対する理解に役立った。

C-8 チョン・クチャン (とても満足)
訪問地が被災地域という特殊な状況だったが、災害を乗り越えようと努力する多くの人々やきらきらした子供達の瞳を見ることができて良かった。

C-13 キム・クァンス (とても満足)
日本人でも訪問が容易ではない気仙沼を訪問する機会を得て、有意義な時間を過ごすことができた。

D-5 ホン・スヨン (とても満足)
日本の教育現場や日本人の ESD 活動に対する熱意や推進力を深く見ることができた。

D-12 キム・ヒョンヒ (満足)
グローバルな視点で、地球に対する危機意識を集中的に感じるきっかけとなった。

D-28 キム・エヨン (とても満足)
長年のノウハウを活用し綿密に計画された研修なので、必要な研修が全て含まれていると考える。他の研修に比べ、充実し満足度の高い研修である。

E-2 チェ・ジュンホ (満足)
日本の各学校訪問の機会はとても貴重な機会であり、質疑応答の時間を通し疑問点を解消することができたので、満足している。

E-4 チェ・スギョン (とても満足)
普段個人的には訪問することのできない中学校、高等学校、特別支援学校まで訪問し、直接意見交換することもできて、個人的にとっても満足している。

E-17 イ・キソン (とても満足)
日本の教育の現実に対する理解の幅を広げることができた。文化の違いや教育に対する教員の生の意見を聞くことができた。

質問4.参加目的は何か

【主な意見】*原文は韓国語（ACCU 仮訳）

A-6 チョン・ソンジョン

ESD 活動についてより深く理解する。韓国の学校教育で ESD 活動への関心を持たせるような役割を果たす。生徒たちが国際交流について関心を持つよう指導する。

A-7 チョン・ウンホン

日本の学校が地域社会（機関・専門家など）といかに連携し教育を行なっているか、どのようなシステムで体系的に運営しているのか知りたかった。

A-10 キム・チョンドク

日本の学校と持続的に交流がしたいと思い、参加した。

A-15 キム・ソニョン

日本の ESD の実際と国際交流の現状、日本の英語教育への理解を深めるために参加した。

B-3 チェ・イロ

日本の学校を視察し、日本の教職員と会い交流することが目的だった。

B-15 クォン・トゥシク

日韓の初等教育の違いを知りたくて参加した。外から見る日本ではなく、直接日本の学校や家庭を体験したいと思い参加した。

B-16 クォン・ジョンウォン

自然環境や伝統文化の保存、人間関係の問題点などが教育課程にどのように適用されているかを知り、韓国でも適用可能か、私たちはどうするべきかについて知りたかった。

B-26 イム・クァヌク

様々な ESD 活動プログラムの共有。日本の教育制度の理解。日本の特別支援教育の実態と現況の理解。

C-8 チョン・クチャン

大自然の威力と痛みを乗り越えようとする人々を見て、共に分かち合いたいという思いから参加した。

C-19 キョン・ヘヨン

気仙沼の津波後の復興活動や現状。気仙沼で

の ESD 活動に対し、激励や希望を共有しに参加した。

D-6 ファン・ヒョギョン

日本は ESD 活動をどのように実行しているか、関連行政機関の参加の状況について知りたかった。

D-8 チョン・アルム

日本の ESD 活動プログラムを知り、韓国の学校でどう適用するか。日本の学校文化、自然文化の再考。

D-17 イ・ヘウォン

ESD 活動を活性化する方法の模索。異文化の理解。

E-2 チェ・ジュンホ

日本の教育現場を観察することは、韓国の教育現場を見直す機会になると思い参加した。

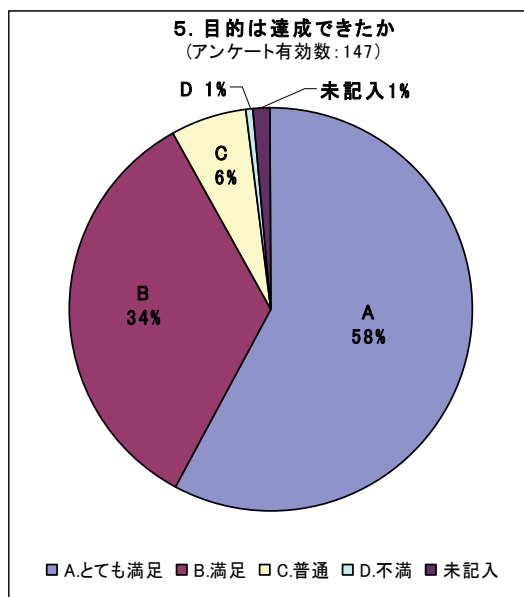
E-3 チェ・キョンフン

ユネスコスクールとして、日韓のユネスコスクールの様々な活動を共有し、より発展的なプログラムの推進に役立てればと思い、参加した。

E-17 イ・キソン

日本の教師の方々の教育に対する熱意・献身度について理解し、韓国と比較するため、文化に対する国民の誇りを把握するために参加した。

質問5. 目的は達成できたか



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・ソンジョン (とても満足)
質問4に書いた目的を十分達成したと思う。これからはESD活動に積極的に参加するだけでなく、広報活動にも努力する。

A-7 チョン・ウンホン (とても満足)
「人材バンク」の運営を通し、地域社会、専門家と学校が繋がっていることを知り、訪問校でこのようなボランティアを活用した授業の様子を見学し、質疑応答することができた。

B-3 チェ・イロ (とても満足)
議論に参加した両国の教職員が、真剣に各自の関心事について具体的にテーマを決め、意見を交換することができた。

B-14 キム・ユンボム (とても満足)
日本の教育の中心が、基礎学力の向上や教育共同体(学校、地域社会、保護者)にあることを知った。特に、掃除活動や自律教育の厳格さが印象的だった。

B-24 イム・ジンスク (とても満足)
環境教育に学ぶべきところが数多くあった。

B-25 イム・ピョンジュ (とても満足)
儉約心や素朴さのなかにも規律や秩序を感じた。多年齢グループ活動を通じてリーダーシップやメンバーシップを形成し、地元を愛す

る様々な活動が印象的だった。

C-8 チョン・クチャン (とても満足)
人命と生活の基盤を奪った海を見て、災難を淡々と受け入れ、日常を取り戻そうと努力する多くの人々を見ることができた。

C-13 キム・クァンス (とても満足)
同じグループの教職員と日本のユネスコスクールの教職員と沢山会話をし、有意義な時間となった。

C-17 キム・ウォンミョン (とても満足)
日本の学校のESD活動や現場中心の実践事例などを見ることができた。

D-4 ホン・ジャスン (とても満足)
学校と地域社会の連携活動を通し、岡山市の先祖達の開拓精神に基づく地域愛が、未来や子供たちに受け継がれていることを知った。

D-12 キム・ヒョンヒ (満足)
農村の学校に勤務しているので、2012年から農作活動を教科と連携し、その可能性を試してみたい。

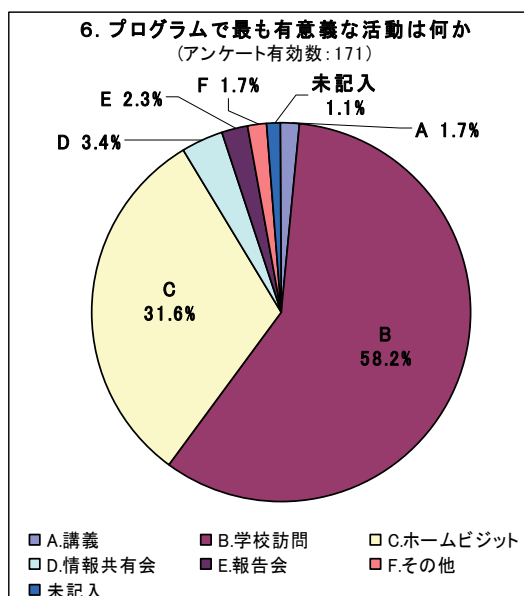
D-20 イ・サムシク (とても満足)
日本人の教育の本質は、自立し、かつ協調して生きる、その両方の力を育てる人間教育が基盤になるということを理解した。学校教育自体も難しいのに、地域社会との連携を深め、岡山市内の一環教育で縦横の教育活動が効率的に行われている。ESD活動は教科内外で実践され、プログラムの活用が独特である。

E-3 チェ・キョンフン (満足)
訪問校2校ともユネスコスクールであり、生活のなかのESD活動実践事例に接することで、習慣化された実践の重要性を感じた。

E-4 チェ・スギョン (とても満足)
学校の現場を訪問し、実際行われている進路体験、実技授業を視察することによって沢山のことを学んだ。家庭訪問で家族との会話や接待を通して礼儀やマナーなどを体験でき、とても良かった。

E-18 イ・キョンボク (満足)
活動参観、教師との意見交換、生徒との会話など多角的で充実したプログラムであり、目的を達せられたと考える。

質問6. 最も有意義な活動は何か
(複数回答有)



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-7 チョン・ウンホン (学校訪問)
日本の学校の現場を直接見て、関係者との質疑応答によって疑問点を解消できた。

A-16 クォン・ヨングン (ホームビジット)
家庭訪問を通して日本人の生活を直接体験でき、日本人との個人的な交流もできた。

B-16 クォン・ジョンウォン (学校訪問)
児童の純粋で儉約する生活を見ることができた。グループ活動という社会化の過程のなかで、自分たちで掃除し、給食をする様子がとても感動的だった。

B-25 イム・ピョンジェ (学校訪問、ホームビジット)
学校訪問とホームビジット、2つともよかった。特にホームビジットで日本の家庭について深く理解することができた。

B-26 イム・クァヌク (学校訪問)
直接学校の現場でどのように ESD 活動が行われているか把握することができ、児童がどのように授業を受け、どのような活動をしているか知った。

C-17 キム・ウォンミョン (学校訪問)
学校訪問中の授業参加、昼食時間の活動、韓

国人先生の授業などがとても印象的で、生徒たちの反応もよかった。

C-24 パク・ヘソン (学校訪問、その他)
先生方との出会いを通し、教師の真の姿を心に刻んだ。気仙沼で在日韓国人の方から津波前後の状況を生々しく聞くことができた。

D-1 ペク・キョンシル (学校訪問、ホームビジット)
家庭訪問を通し、日本人に心を開くようになった。学校側の歓迎に感謝し、講義・学校訪問に前向きで開かれた気持ちになった。

D-8 チョン・アルム (ホームビジット、講義)
家庭内に浸透している ESD 活動を知ることができ、生活のなかで自然と身につけている日本の ESD 精神を感じた。

D-11 キム・ドンホ (学校訪問)
韓国の学校現場で最も悩ましい問題の1つが地域社会との連携であるが、それを解決しようとする姿を見ることができた。

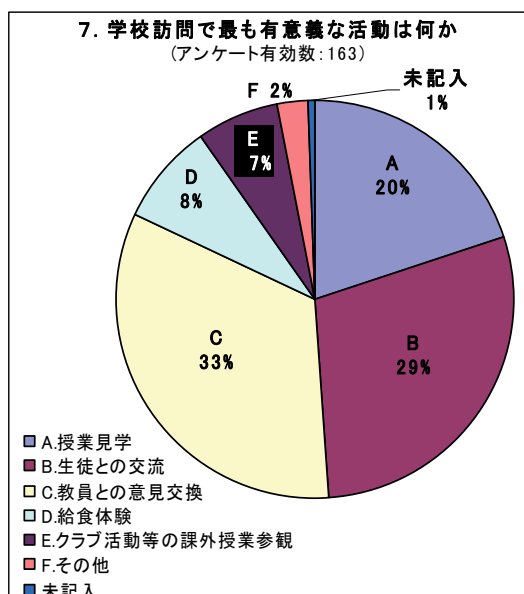
D-28 キム・エヨン (ホームビジット、その他 (公民館活動))
公民館のボランティア、地域住民の活動、地域共同学校の連携がとても印象的だった。家庭訪問も異文化理解に即した機会であり、私たちの文化を伝達するきっかけにもなった。

E-2 チェ・ジュンホ (ホームビジット)
訪問の際は日本人に対する先入観が多少あったが、家庭訪問を通して一方的な先入観や固定観念をなくし、人類社会の共同体の一員として親密感を持つようになった。

E-17 イ・キソン (ホームビジット)
高校教師兼神社の宮司家庭を訪問し、家族全員の自らの文化に対する深い理解と誇りを理解することができた。

E-18 イ・キョンボク (学校訪問)
生徒たちの教育活動を間近で見ることができた。日本の教育システムに関し、具体的な状況を知ることができた。

質問7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か
(複数回答有)



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-7 チョン・ウンホン (児童との交流)

児童が準備してくれた歓迎会、私たちが準備した歌など互いの文化交流を通して、国籍は違っても児童と教師ということで本能的に惹かれ、涙が出そうになった。

B-3 チェ・イロ (教員との意見交換)

互いによりよく知るきっかけになった。率直にありのままを見せてくれた学校側に感謝。

B-14 キム・ユンボム (教員との意見交換)

日本の教員の教育に対する考えと、日本の教育の問題点について実際に聞くことができた。

B-15 クォン・トゥシク (教職員との意見交換)

日韓の教育は違う点が多々あるようだった。疑問を直接聞いて答えてもらう意見交換の時間がもっと長ければ尚良かったと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン (児童・生徒との交流)

児童・生徒が私達を迎えるためにハングルを勉強し、韓国語で話し、韓国のことを知っていた様子に親近感を感じた。

B-25 イム・ビョンジェ (教職員との意見交換)
率直で真剣な回答を通し、我が国の教育について話し日本の教育についても疑問を解決することができた。時間が多少短く残念だった。

C-8 チョン・クチャン (教員との意見交換)
震災による劣悪な状況で、黙々と自分の本分を尽くす教員の方々との対話で、教職に対して色々と考える機会となった。

C-19 キョン・ヘヨン (授業見学)

実際に韓国の教職員が授業をする機会を与えられ、互いの教育・文化交流に役立った。

C-30 キム・スンユン (給食体験)

特別な経験だった。しかし、生徒と話す用意が十分でなく時間も短かった。きちんと準備すれば、良いプログラムになると思う。

D-5 ホン・スヨン (児童・生徒との交流)

児童・生徒たちの純粋な歓待に感動し、元気を分けてもらった。自由学園の生徒会による自治活動の説明、藤田中の生徒の合唱や韓国語による紹介、第一・第三藤田小での給食や祭りの経験共有などを通し、日本の児童・生徒たちの責任感と秩序ある様子、誠心誠意接待する精神を確認することができた。

D-8 チョン・アルム (教員との意見交換)

教職員との意見交換で両国間の教育に対する熱意やESD活動に対する考えを共有できた。

D-17 イ・ヘウォン (授業参観)

第三藤田小で、地域住民と一緒に学校の祭りに参加したことが最も心に残った。

D-20 イ・サムシク (児童・生徒との交流)

訪問した多くの学校が児童会・生徒会を中心に学校の現況などを紹介してくれた。これは児童・生徒にとって国際理解とリーダーシップを身につける効果的な方法だと思う。

E-2 チェ・ジュンホ (生徒との交流)

彼らとの会話を通し、教師と生徒の間で形成されるべき信頼と関心の一致が教育上いかに必要か気づくことができた。

E-16 クォン・テクムン (教職員との意見交換)

日本は学力向上のため様々な努力をしている。例えば、数学や英語ではレベル別に1+1、2+1の組編成をすることを意見交換で理解した。

質問8.他にどのようなプログラムがあったらよいか

A-10 キム・チョンドク

1泊のホームステイ、教師の方々との意見交換

A-15 キム・ソニョン

日本の文化遺産の体験、文化体験（茶道、着物、和楽器、相撲、歌舞伎など）

B-14 キム・ユンボム

日本の全般的な文化の特徴や生活についての説明

B-15 クォン・トゥシク

日本の教師との交流。全体意見交換も良いが、教師同士が1対1で会う機会があればと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン

地元の有名企業の見学。労働者の働く姿、特に障害者や高齢者の働く姿を見ることで、日本社会の一面を知りたい。

B-24 イム・ジンスク

文化遺産の見学や具体的な文化交流

B-26 イム・クァヌク

家庭訪問ではなく、3日間ほどホームステイして日本の様々な文化体験ができればと思う。

C-20 イ・テグ

日本の教師たちと一緒に文化体験ができれば良かったと思う。

C-30 キム・スンユン

学校だけでなく、社会教育が行なわれる図書館、美術館、環境教育センターなどを訪問し、教育プログラムも体験してみたい。

D-1 ペク・キョンシル

教師間交流会がもっと少人数で行われたら効率的になると思う。

D-8 チョン・アルム

学校訪問で、日韓の先生と一緒に自由に授業をする時間があれば。同じ内容を各自、各国の状況と現実に合わせて、どこが違うのかを共に考えることで、より理解が深まると思う。

D-14 キム・ヨンジュン

教師が少人数で各教室に入り、授業開始から終了までを見る形の授業見学が必要である。

D-30 ソ・ヒョンスク

同じテーマで日韓の教職員が授業指導案を作る懇談会の時間があれば良いと思う。これは事前に知らされ、準備する過程が必要だと考える。

E-2 チェ・ジュンホ

日本教師や生徒たちと一緒に、ボランティアや環境保護活動をしてみたい。

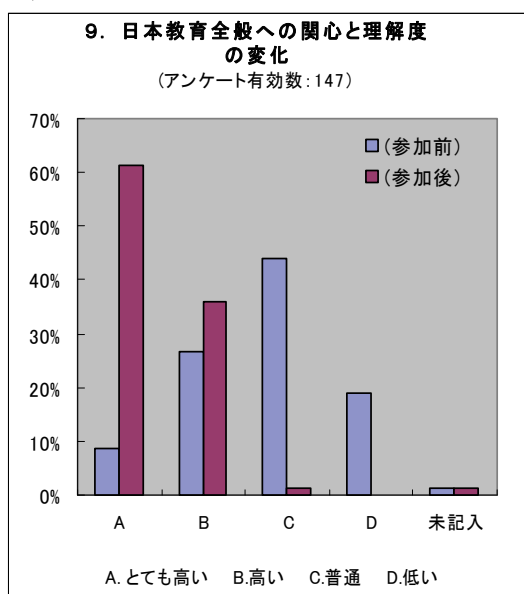
E-4 チェ・スギョン

茶道体験ができてよかった。日本の伝統文化体験の機会がもっと多ければ良いと思う。

E-17 イ・キソン

日本の歴史・文化に対する概略的な紹介プログラム。事前研修で課題として勉強させるか、全体オリエンテーションで講義などの形でできると思う。

質問9. 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・ソンジョン (普通→とても高い)
参加前は日本の教育に対し、漠然とした考えしか持っていなかったが、実際参加して日本の教育について、一部歪曲した考えが変わった。国際的な教育に対する関心が高まり、特に環境教育の重要性への理解度が深まった。

A-16 クォン・ヨングン (低い→高い)
参加前はあまり興味がなかったが、今回の機会を通して日本の教育に興味を持ち、特に初等・中等一貫学校で英語教育がどのように行われているか興味を持つようになった。

B-14 キム・ユンボム (普通→高い)
ネットや書籍を通して日本の教育を理解するのは難しかったが、参加して直接感じる事ができ、日本の教育に対する理解が深まった。

B-15 クォン・トゥシク (普通→高い)
日本旅行はよくするが、大都市と温泉旅行が多かった。今回のプログラムで、日本の教育に関する多くのことを見て、疑問点も解消された。しかし、根本的な教育構造の違い (文部省の機能、教師の意識、学生・父母・社会における学校の機能など) については把握できず残念だった。また、学校を全面的に信じて預ける保護者の信頼感はどこから生まれるのかといった疑問も残った。

B-16 クォン・ジョンウォン (普通→とても高い)

日本やアメリカが韓国の教育を羨み、真似しようとする今、日本の教育が果たして本当に私たちより遅れているか疑問に思っていたが、私たちのほうが日本の教育を見習うべきだと考えた。

B-25 イム・ビョンジェ (高い→とても高い)
参加前は、日本が我が国と似ていると考えていたが、たとえ建物や施設は良くなくても、質的に意味のある教育 (心を育て体を健康にし、他人に配慮、尊重して地元を愛する) を見て、沢山学ぶことができた。特に全ての学校に体育館とプールがあり、児童・生徒の健康や体力を重視している点は印象的だった。

B-26 イム・クァヌク (普通→とても高い)
日本の特別支援教育に興味があったが機会がなく、今回のプログラムで日本の特別支援教育の現況と実態に触れることができ、満足している。ユネスコの国際理解教育やESD活動プログラムに接し、日本の教育に対する関心や理解が高くなった。

C-19 キョン・ヘヨン (高い→高い)
日本の学校訪問の際、いつも感じる場所：児童・生徒たちの基本的な生活習慣がきちんとしていることと、節約精神と忍耐力、教師の奉仕的な教育姿勢。

C-20 イ・テグ (とても高い→とても高い)
普段から日本について知りたかったが、沢山知ることができた。教育についてもっと知りたい。

C-24 パク・ヘソン (普通→高い)
先生方との出会いを通し、教育に対する悩みや生徒たちに対する愛情はどの教師も一緒であることを感じ、どんな状況でも教師の熱意で乗り越えられると再認識した。

D-5 ホン・スヨン (普通→とても高い)
ESD活動に小中高一貫性があり、公民館、地域社会、大学と連携し、体系的に進行されていることがわかった。これからも継続的な関心につながると思う。

D-11 キム・ドンホ（普通→高い）

教育行政機関で働いていたため、日本の教育行政に興味があったが、実際に接する機会がなく残念だった。今回訪日する機会を得て、日本の教育課程、教員評価、学習指導要領の改訂の趣旨などを知ることができてよかった。また、日韓が類似した課程（政策）を持っていることを確認できた。

D-28 キム・エヨン（とても高い→とても高い）

日本の教育の現場には、いじめ、教員の権威の失墜、教員組合活動などネガティブな面が多いと聞いていたが、学校の現場は秩序、遵法精神、自主性、団結心など、韓国の学校の脆弱な点に比べて羨ましく思った。また、教師たちの真剣さ、訪問客に対する誠意ある礼儀、歓待、真心などが韓国の教師たちと対照的だった。

E-3 チェ・キョンフン（低い→高い）

日本の教育に接する機会が全くなく、日本語の能力もなく、書籍を通してしか情報を得ることができなかった。しかし、今回のプログラムを通して、言葉は通じなくても、見て、感じ、学ぶことができてよかった。特に日本の学校の教室や美化に興味を持つようになった。

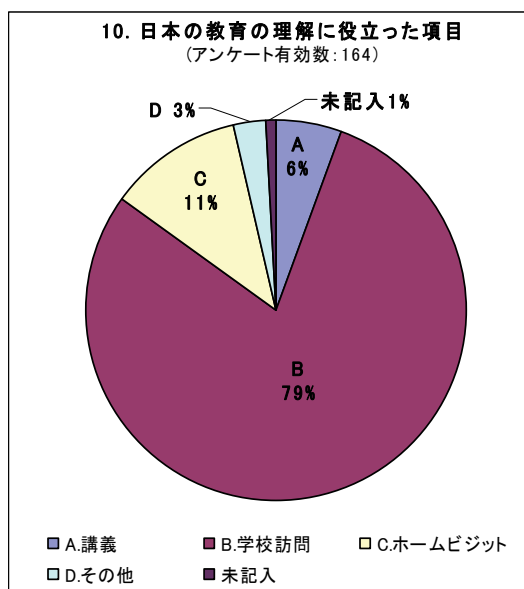
E-16 クォン・テクムン（普通→とても高い）

ユネスコ ESD 活動プログラムで初めて訪日した。大変だったが、多様な形態の教育を見学、体験できた。日本は規則を定めると繰り返し継続して教育し、必ず規則を守るように努力しているようだ。整理整頓ができていて、自由に見えて、秩序を守る国で印象深い。これが教育の力だと思う。

E-17 イ・キソン（高い→とても高い）

日本を訪ねる以前は、過去の歴史や文化に対する理解不足から、皮相的な見方しかしていなかったため、積極的に勉強した。日本の歴史書3冊と教育や文化に関する概略的な紹介の冊子を数冊読んで訪問したところ、多くの人々との会話と通して確認することができた。日本に対する関心が高まり、これからも勉強し続けるつもりだ。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目
(複数回答有)



【主な意見】 *原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-10 キム・チョンドク (ホームビジット)
訪問先が校長先生宅で、教育について率直な意見を交わした。児童の増加問題 (一部の学校では減少)。幼少期から入試に悩まされる問題 (良い学校に行かせようとする親の欲求)。

A-15 キム・ソニョン (学校訪問、ホームビジット)
日本の学校教育について理解することができた。家庭訪問では両親の子育て方法や教育に対する態度を知ることができた。

B-3 チェ・イロ (学校訪問)
各学校で特色のある教育を実施していて、子どもたちの長所を伸ばそうと努力する姿が印象的だった。

B-15 クォン・トゥシク (学校訪問)
授業と学校の環境、教職員の意見交換を通し、日本の小学校教育に対する理解の幅が広がったと思う。

B-25 イム・ビョンジュ (学校訪問)
異年齢グループ活動が印象的だった。実際の授業を参観し、日本の強さと日本人の秩序ある行動ができる理由を理解できた。

B-26 イム・クァヌク (学校訪問)
日本の学校で道徳教育がどのように行われているか、学校を直接訪問して理解できた。

C-8 チョン・クチャン (学校訪問)
教育活動に対する教員の姿勢と、少しはにかみながら教師と話し、自分の意志を表現する児童・生徒たちを見ることができてよかった。

C-13 キム・クァンス (その他)
授業見学を通し、日本教師と生徒との関係や生徒との意見交換を通して、日本教育についてもっと知ることができた。

C-20 イ・テグ (ホームビジット)
基本を徹底的に教えた結果、生徒たちが家庭でも素直に行動するのを知った。

D-12 キム・ヒョンヒ (その他/ESD 関係者とのプライベートな交流)
岡山地域の ESD 活動導入の背景、日本の不登校やいじめの現況など、普段生徒指導に関して気になっている点を聞くことができた。

D-17 イ・ヘウォン (学校訪問、その他/公民館) 行政機関 (公民館、市役所) と教育機関との協力関係を学んだ。

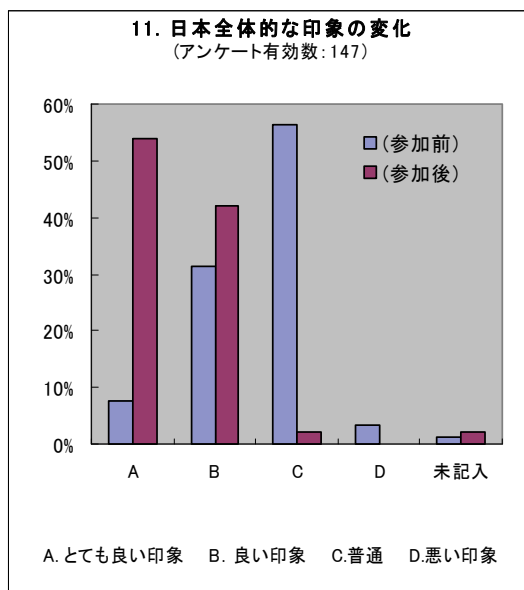
D-20 イ・サムシク (ホームビジット)
「お父さんが子どものためにできる一番大事なことは、その子を産んでくれたお母さんを愛することだ」という言葉に感動した。

D-28 キム・エヨン (学校訪問)
ESD で学年ごとに地域社会に関連する活動の目標を設定し、実践する点。地域の教材の副教科書として制作し、自分の故郷を知り、愛し、保護する誠心を育てる点。秩序、清潔、エネルギー節約、老朽した施設の活用など。

E-4 チェ・スギョン (学校訪問)
日本の高校のカリキュラムや体験・進路教育は韓国とは異なり、入試より生徒個人の進路や適性を尊重している。礼儀と基礎指導を重視し学校全体で実施する様子が印象的だった。

E-16 クォン・テクムン (学校訪問)
様々な形態の学校訪問の授業参観、生徒や教師との会話を通して、日本も韓国と似たような教育を実施し、同じような悩みを抱えているという事実を知った。

質問 11. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・ソンジョン (普通→とても良い印象)

日本国民の秩序意識が大変良いことがわかった。学校だけでなく街がきれいだという印象を受けた。日本国民の節約精神を見習うべきだと思った。小学生の自立精神を向上させるプログラムが印象的だった。(給食習慣など)

A-16 クォン・ヨングン (悪い→良い印象)

日本の全体主義、服従について否定的な認識を持っていた。今回の機会を通して肯定的な側面、児童・生徒たちの秩序意識を新たに感じることができた。

B-14 キム・ユンボム (普通→良い印象)

本質的に充実した教育を実践しようと努力する感じがした。外形よりも生徒の内面を変化させないといけないという教育観が良かった。日本文化に対し全般的に、素朴で小奇麗で、人を配慮する習慣が身につけているという感想を持った。日本に対する印象が一層良くなった。

B-15 クォン・トゥシク (普通→良い印象)

韓国人ならば日本人に対する先入観をある程度持っていると思う。私もそうだった。今回のプログラムを通して、日本人も韓国人と同じで情深い人たちだという印象を持った。

B-16 クォン・ジョンウォン (普通→とても良い印象)

歴史的事実などにより、対日感情が多少否定的だったが、今回の訪問を通し、日本人はとても優しく、伝統文化をきちんと守っていて、自分たちの文化が韓国伝来であることを知っていて、とても良い印象を受けた。

B-24 イム・ジンスク (普通→とても良い印象)

日本人の親切さ、他人への配慮を学ばないといけない。家庭訪問した方々と5回会うことで、自分の親のように感じる事ができてよかった。

C-8 チョン・クチャン (良い→とても良い印象)

日本人の本音がわからないということを知ることがあるが、今回の訪問で胸襟を開いて向かい合ってくれる彼らに出会うことができた。

C-24 パク・ヘソン (良い→とても良い印象)

津波と地震による予想外の状況と惨憺たる心境、それにも関わらず落ち着いて淡々と対応し、互いを励ます姿は感動的だった。

D-1 ペク・キョンシル (普通→とても良い印象)

私たちに対する温かい歓迎や韓国語の練習などの準備から、日本人は無愛想で我が国を無視しているわけではないと考えるようになった。前はそう思っていた。

D-4 ホン・ジャスン (良い→とても良い印象)

公民館、地域住民、学校や教師の方々を通して、日本人の愛を感じることができた。とても貴重な時間で、ESD活動が多くの人々の意識をポジティブな方向に変え、世界平和につながる礎石となるということを知った。

D-12 キム・ヒョンヒ (普通→とても良い印象)

日本人の真心のおかげで、研修中は常に感動の連続だった。しかし忌憚のない答えを聞くには10日間は少し足りなかった。

D-30 ソ・ヒョンスク (良い→良い印象)

私は持続して良い印象を持っている。特に、今回のプログラムでは、ESD活動に関し、一

般公務員が、単に必要にせまられてではなく、楽しみながら自発的に参加している様子に尊敬の念を抱いた。また、家庭や地域社会が子どもたちの成長を見守っていることについて、責任感と誇りを持っている教育担当者を見て、私自身も意欲が高くなった。

E-16 クォン・テクムン（普通→良い印象）

政治的な問題で、テレビニュースで見た日本の神社は良い印象を受けなかった。しかし、今回のプログラムを通して、日本の神社が町の神を祭るということ、日本人の日常生活のなかで自然に訪ねる場所ということを知った。

E-17 イ・キソン（良い→とても良い印象）

秩序・儉約精神が生活に根づいている。他人に対する配慮、自分の属する地域に対する貢献などの意識が韓国に比べて高いと感じた。生活のなかに溶け込んでいる伝統文化の継承、発展、共有に対する高い意識を持っている。

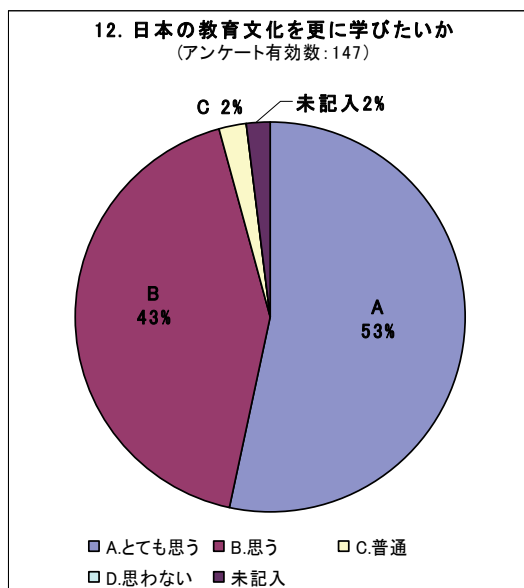
E-18 イ・キョンボク（良い→とても良い印象）

日本人の秩序意識、他人に配慮する文化、資源を大事にする心、安全意識など水準の高い日本人の市民意識を覗くことができた。

E-24 ソン・ホンジュ（普通→良い印象）

一般の人々の人間性を知ることができた。一生懸命に生きる姿は、私達の生きる姿ととても似ているように感じた。

質問 12. 日本の教育、文化を更に学びたいか



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・ソンジョン (とても思う)
多様な研修機関で、多くの文化に接する機会があればと思う。家庭訪問の時間を増やし、日本の文化をより深く理解する場が必要。

A-7 チョン・ウンホン (とても思う)
地域社会と学校との連携がうまくできていた(人材バンクのようなシステム)。この点に対するノウハウをもっと学びたかった。

B-15 クォン・トゥシク (とても思う)
今回のプログラムを通し、日本の教育に関し自分なりの理解ができたと思う。言葉も日本の教育や文化も、もっと勉強したい。

B-16 クォン・ジョンウォン (思う)
人に迷惑をかけない、思いやりの心を持つ、親切、秩序を守るなどの点を見習いたい。

B-25 イム・ピョンジェ (とても思う)
教育：日本の水泳やスキーの指導方法を学びたい。休み時間にする遊びについても学びたい。文化：相撲観覧、歌舞伎を体験したい。

B-26 イム・クァヌク (とても思う)
狭い地域に住んでいる私には近くて遠い隣国について、あまりにも知らずにいた。短期間に日本の教育や文化に接する機会ができてよかった。今後、機会があれば、最先端の日本

の特別支援施設を訪問し、どのように ESD プログラムを適用できるのか学びたい。

C-13 キム・クァンス (とても思う)
韓国と近い国だが基礎・基本教育がしっかりしていると感じた。日本の基礎・基本教育の中心となる思想または核が何か、またそれが持続する理由が何かを勉強したい。

C-20 イ・テグ (とても思う)
日本語と日本の文化をさらに学び、韓国人の偏見を変えたい。

D-8 チョン・アルム (思う)
日本を訪問し、色々な考えを持つようになった。地域が学生を育むという教育に対する基本的な理念を、今本校が抱える問題解決に役立てるには、基本的な理解が必要だと思った。

D-14 キム・ヨンジュン (とても思う)
日本人に日本の教育の良さについて聞くと、あまりに身近すぎて、うまく答えられない。外部からみると多くのことを発見できる。日本の教育の長所である秩序・節約を特に学びたい。また、地域と共に行なう教育、地域ごとに教科書を別々に作って活用するということが印象的だった。

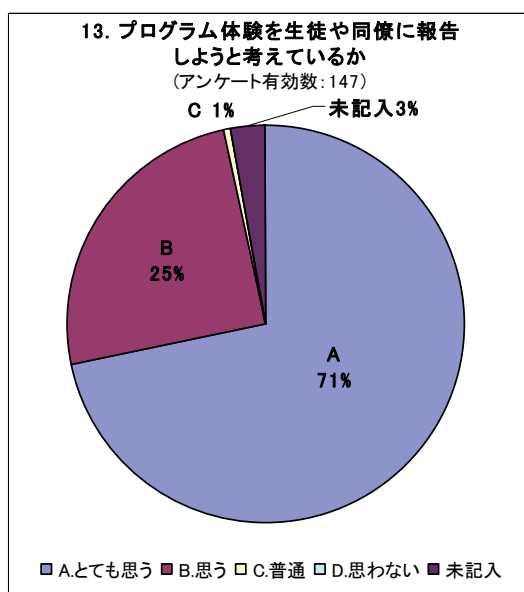
D-17 イ・ヘウォン (とても思う)
コミュニケーションの手段として日本語を学び、人間的な親密な交流をする日本人と知り合いになりたい。機会があれば、日本の他の地域における ESD についても学びたい。

D-28 キム・エヨン (とても思う)
進路傾向、就業、保護者の教育熱の程度。家族間の関係、子どもの結婚前後の両親との関係。夫婦中心の余暇活動や老後準備。

E-2 チェ・ジュンホ (とても思う)
過密で忙しい日程で、教師としての悩み、生徒たちとの幅広い会話が多少足りなかった。また日本の教育・文化を学ぶ機会があれば、積極的に興味のある分野を率先して観察したい。

E-3 チェ・キョンフン (思う)
コミュニケーションの難しさから、もっと知りたくても聞きたくても制約が多かった。そのため、日本語を習得し、日本の教育や文化を詳しく学びたい。

質問 13. プログラム体験を生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-14 キム・スオン (とても思う)

生徒中心の教育活動運営と充実した学習指導、生徒達の生活態度 (体育の授業、掃除)

B-15 クォン・トゥシク (とても思う)

この体験を児童たちと共有したい。児童たちは他の国の小学校に興味を持っていて、異文化で生活する友だちの話が役立つと思う。

B-24 イム・ジンスク (とても思う)

彼らの生活の様子と優秀性を取捨選択し、見習いたい。

B-25 イム・ピョンジュ (とても思う)

同僚と生徒たちに日本の学校の様子について研修したい。表に表れるのではなく、内容を充実させる姿を通し、何が正しいのか話し合いたい。

B-26 イム・クァヌク (とても思う)

帰国後、授業時間、教職員会議の時間、科学教師の会合、教科研究会の際に、日本の文化や特別支援教育、日本の ESD プログラムについて発表する予定。特に、掃除時間に一生懸命に掃除する子供たちの姿を私の子供たちに見せ、各自自分の部屋だけでも整理整頓できるような機会を与えたい。人を配慮し、奉仕する心まで伝えられたらと思う。

C-13 キム・クァンス (とても思う)

生徒だけでなく教職員の研修やブログを通して、私がみて感じたことを伝え、一緒に分かち合いたい。

C-20 イ・テグ (とても思う)

先生方、生徒たちに心の変化を促し、日韓関係が発展するよう貢献したい。

C-30 キム・スンユン (思う)

日本の現状について沢山知ることができ、韓国教職員の反応も変わった。

D-5 ホン・スヨン (とても思う)

地域社会と連携し、世代間の交流を重視することで児童・生徒たちの自尊心を高める岡山市の ESD 活動から、教育の方向に関する示唆点を得た。韓国での創意的体験活動、クラブ活動、多文化教育の際の原則になると思う。

D-8 チョン・アルム (とても思う)

入試第一の我が国の教育の実情も理解するが、世界市民、世界リーダーの素質を備えるためには、現時点で世界が直面している地球の危機について知らなければならない。またそれを解決する努力も必要である。そのための基本的な ESD は必要不可欠だと思う。

E-4 チュ・スギョン (とても思う)

日本の生徒の基礎生活指導、伝統を大切にする姿、儉約生活と人を配慮する姿は授業のなかで生徒たちに聞かせ、学内の教師研修でも発表したい。

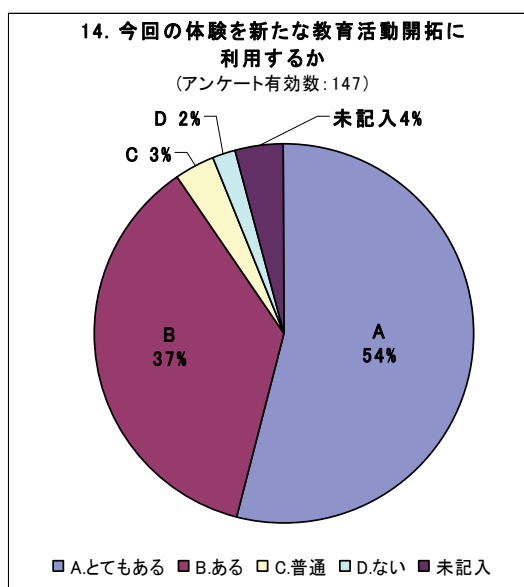
E-16 クォン・テクムン (思う)

本校はユネスコスクールではないので、ESD 活動に接する機会が全くなかった。ESD 活動を生徒・同僚にも理解させ、教科の授業で実践できる ESD 活動を行なっていきたい。

E-17 イ・キソン (とても思う)

韓国の教育の現実と未来への持続発展を可能にするために学ぶべきところが沢山あった。今回の経験を通して具体的な事例をあげ、紹介できると思う。

質問 14. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】 *原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-10 キム・チョンドク (とてもある)
命についての教育内容。すべての教育において、最も基本的な要素である (人権、環境、互いの関係)。暴力問題、いじめ問題など、新しい生活指導の根本を改めて考えてみるきっかけとなった。

A-14 キム・スオン (とてもある)
問題解決のための思考過程中心の授業進行。学習ノート使用指導。教師の板書など。

B-3 チェ・イロ (とてもある)
国際交流の形式、儀典、進行方法。日本の儀式 (会議進行) について、より多く学ぶことができた。

B-14 キム・ユンボム (とてもある)
とてもある。日本の掃除教育、規律教育を生活指導に適用したい。

B-15 クォン・トゥシク (ある)
日本はどの小学校でもノートをうまくとっていることに驚いた。私の生徒たちにもノートを整理する習慣を教えたい。また、レベル別授業に対してもっと考えなければいけないと思う。同じ教室内でも、必要に応じてレベル別授業が必要で、その方法について研究しないといけないと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン (ある)
児童の生活指導として、低中高学年で構成されたグループ活動による掃除やボランティア活動を適用してみたい。

B-25 イム・ビョンジュ (とてもある)
多年齢グループ活動は、小規模校で必要だと感じた。みんなで一緒にする掃除活動。レベルごとに実施する数学学習。地元を愛する心を育てる。

C-8 チョン・クチャン (ある)
今回のプログラムで、様々な ESD 活動が可能だとわかった。韓国の生徒たちに比べ、日本の子どもたちは基本生活指導がよくできているようだった。生徒の生活指導に関する ESD 活動を考えている。

C-13 キム・クァンス (とてもある)
気仙沼の被災を基に、人間と環境に対する授業をしてみたい。特に自然災害が私たちの人生に与える影響について生徒たちと話してみたい。

D-5 ホン・スヨン (ある)
地域社会の資源を活用し、世代間交流を重視する様子を教科教育に活用できると思う。説明文を書く授業で、地域社会をテーマにしたり、地域のお年寄りを招いて話を聞くなど、自分の担当である国語の授業でも可能だと考える。ユネスコスクール活動の際も、地域社会の協力と資源活用を積極的に考慮したい。

D-14 キム・ヨンジュン (とてもある)
私は高1の科学教師である。持続可能な発展という授業時間に、日本での ESD 活動について説明する予定である。しかし、この良い経験を韓国の教育現場にそのまま適用するには教師の力ではできない。教育庁・教育科学技術部に教育改革の必要性を感じてほしいと思った。

D-15 イ・ウニョン (とてもある)
地域社会と連携：私が勤務する学校は農村地域にも関わらず、生徒たちは農業に興味を持たない。農業に従事する保護者と農業体験の時間を設けたい。

D-23 イム・ミウン（とてもある）

エネルギー節約キャンペーンとして、日本で見学した様々な節約方法を、学生たちと一緒に実行したい。

E-1 プ・ジェホ（とてもある）

クラブ活動の多様性、生徒の選択科目中心の教育課程編成。生徒が決めたテーマの自主研究報告発表やディスカッション。ESD 活動内容を関連教科に取り入れる。

E-4 チェ・スギョン（ある）

日本の伝統教育（礼儀作法、マナー、民俗遊び）を韓国の伝統教育と比較し、直接授業に応用してみることで韓国の生徒の日本に対する興味を高め、両国間の文化的共通点を探してみたい。

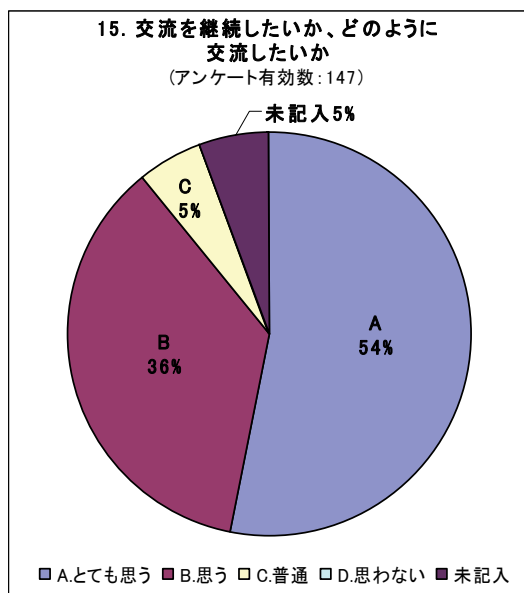
E-18 イ・キョンボク（ある）

高校生の総合研究発表は、生徒たちの探求心と自主的な学習の向上に役立つと考えられるため、我が校でも導入予定である。

E-19 イ・サンホ（ある）

坂戸中高で実施する進路教育や卒業研究、発表授業を必ずやってみたい。生徒たちが3年間自分自身を知り、自ら探索して進路を決定する姿が印象的だった。

質問 15. 交流を継続したいか



【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・チョン (とても思う)

日本の小学校との協約を通じて、1年に1、2回児童や教職員の交流を行ないたい。このような活動を通し、保護者の交流も推進する予定。(生徒→教師→保護者の順で拡大する)

A-7 チョン・ウンホン (とても思う)

日韓の学校現場のESD活動情報(プログラム、授業での適用、地域社会との連携)に関してホームページ、ネット上のコミュニティ、オフ会などを通して持続的に交流したい。

B-14 キム・ユンボム (思う)

教育支援庁との教育現況交流をしたい。

B-15 クォン・トゥシク (とても思う)

日本の教職員との交流は必ずやってみみたい。教師の方々と会う時間が少なく残念だった。教育方法、教育内容、グリーングロースなど、交流できれば必要なところを互いに助け合えと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン (思う)

韓国ユネスコ国内委員会を通じ、訪問した学校との学生交流や教師交流の構想を練りたい。

B-26 イム・クァヌク (思う)

特別支援学校でユネスコスクール・プログラムを行なっている教職員と交流したい。特別

支援学校に通う生徒を対象にしたプログラムの内容と結果物を我が学校でも適用したい。

C-13 キム・クァンス (とても思う)

メールやネット上のコミュニティを通じた交流、手紙を通じた交流、授業活動(指導案)に対する情報交流などをしてみたい。

C-19 キョン・ヘヨン (とても思う)

気仙沼の教職員との交流。大地震の被害で孤児になった学生への支援(韓国招へいなど)。

D-6 ファン・ヒョギョン (とても思う)

今回出会った様々な機関の関係者の方々とメール連絡をとることで日韓友好に協力し、次の機会に再会し交流するきっかけにしたい。

D-12 キム・ヒョンヒ (とても思う)

環境問題が直面しているにも関わらず、学校の現場でこれらについて生徒たちに教える機会は多くない。このテーマで電子メールを通して授業と連携して、指導してみたい。

D-14 キム・ヨンジュン

両国のESD教師の研究会の情報交流活動が必要。韓国ESD研究会の持続的な研究活動の必要性。報告会で集めた日本教育の良さをユネスコで収集し、研究報告書を作成して教育科学技術部に提出してほしい。また、今回の150人の研修教師らが提案書を教育科学技術部に提出することで、ユネスコが研究費補助をもらえると思う。

E-3 チェ・キョンフン (思う)

我が校にも日本の先生が訪問する機会があれば良いと思う。実現するように、今後も努力したい。

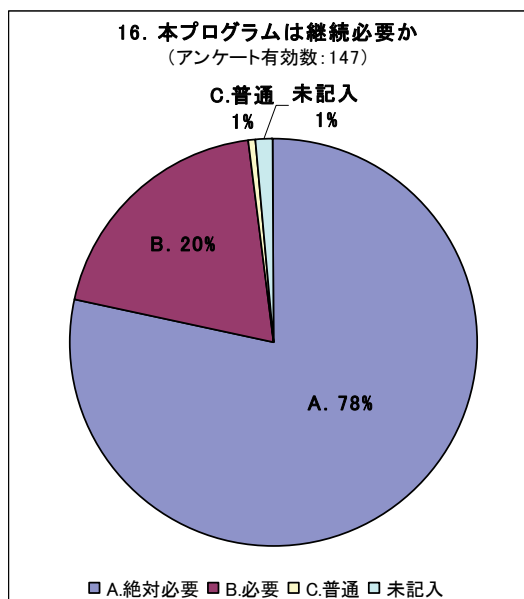
E-4 チェ・スギョン (思う)

個人的に、特別活動やクラブ活動に多文化理解班、または日本文化理解班を作り、日本人を招き、日本の生徒との文通交流などをしてい。

E-17 イ・キソン (とても思う)

日韓教職員合同文化体験、授業教材の共同制作、生徒との交流会などを推進したい。

質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】 *原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-7 チョン・ウンホン (絶対必要)

英語、IT 教育などは韓国がやや進んでいる一方、ESD 活動、特に地域社会と家庭と学校が連携し実践するのは日本の方が進んでいるので、相互補完と協力によって東アジアの立派なパートナーになると考える。

A-15 キム・ソニョン (絶対必要)

日本に対し、本では学べなかった日本を直接学ぶことができる貴重な機会だったので、これからも大勢の教師がこのプログラムを通して見聞を広め、国際的なマインドを備えられるといい。

B-3 チェ・イロ (絶対必要)

職務研修化することで、優秀な教員を研修に参加させる方法が必要だと思う。

B-15 クォン・トゥシク (絶対必要)

プログラムを通し、より正確な情報交流ができる。もっと多くの教師の方々にこのプログラムに参加する機会が与えられればいい。

B-24 イム・ジンスク (絶対必要)

日本の文化の優秀性と学校教育、ESD 活動の実践などを韓国人が学ばなければならない。

B-25 イム・ピョンジュ (絶対必要)

日本の教育・文化について学び、我が国の教

育・文化について知らせる良い機会になる。

C-13 キム・クァンス (絶対必要)

世界がグローバル化により 1 つになり、FTA のようながつけられ、地域的に近くて同じ東アジア文化を持つ日韓関係は大変重要である。特に未来の社会を背負う人を育てる教員交流は大事だと考える。

C-24 パク・ヘソン (絶対必要)

日韓教職員たちが互いの理解の幅を広めることで、その波及効果は大きい。

D-11 キム・ドンホ (絶対必要)

韓国から日本を訪問するのは容易だが、学校の現場や地域を訪問して彼らと会話し、深く理解する機会はこのプログラムならではの。

D-14 キム・ヨンジュン (絶対必要)

参加者が見て感じたことを韓国に伝播するには、より影響力のある人材の編成が重要である。教育科学技術部の次官級は必ず参加すべき。また、教育庁の実務担当者、ASP スクールや CCAP 活動教師よりは ESD について実際に沢山研究してきた教師達の参加が必要。

D-23 イム・ミウン (絶対必要)

ユネスコや ACCU のみの努力に留まらず、日韓両政府も共に協力して、さらに大勢の関係者が参加すべきだと思う。

D-28 キム・エヨン (絶対必要)

校長招へいプログラムを拡大すれば、学校管理者の意識変革を促すことができると考える。

E-1 プ・ジェホ (絶対必要)

依然として日本を近くて遠い国と考えている人が多い。プログラムを通して、日本を優しいお隣さんと考えていることが十分可能である。

E-17 イ・キソン (絶対必要)

近くても遠い国、歴史的に反目と嫉視が交差する両国間理解の幅を広げる交流事業を通し、アジアや世界文化の中心国家として一緒に協力・発展できると考える。

E-24 ソン・ホンジュ (必要)

相互理解→ユネスコの平和 (世界) 政策に合っている→世界平和の維持に役立てる。世界文化の保存や後世のための資料の共有、維持のため良い機会になると思う。

質問 17. その他気付いた点

【主な意見】*原文は韓国語 (ACCU 仮訳)

A-6 チョン・チョン

日本の街がきれいで、学校教育を通してゴミを捨てない習慣の形成に努力していると思った。給食生活を通し、節約、人に配慮する、資源の重要性などを教える教育活動が印象的だった。高い秩序意識水準で、駅やバス停など社会全般的にとっても安定していると感じた。先進国は経済だけでなく、文化意識水準が向上しないといけないと気づいた貴重な研修だった。

A-14 キム・スオン

本事業の持続的な発展のためには、広報活動が必要だと思う。(41年間の教職生活でこのプログラムを今回知った)。積極的な交流推進が活発に展開されなければならない。特に管理責任者の参加が重要だと思う。

B-3 チェ・イロ

日本の良いところをそのまま韓国で適用するのは難しいが、小さな部分を改善して韓国教育の発展方向を模索する機会を得た。同じく参加した教員の方々の姿から、自分自身の配慮、献身について考えることができた。献身的にプログラムを運営して下さったユネスコ、ACCU、通訳、ガイドの方に感謝。

B-15 クォン・トゥシク

通訳者を介し、正確な内容を取り交わすことができた。名刺を交換するよりは学校紹介の欄に教職員のメールアドレスがあればいいと思う。今後の交流のために絶対必要であるからだ。学校教育に対する信頼を理解するために、保護者と会う場があれば良いと思う。

B-16 クォン・ジョンウォン

日韓教職員招へいプログラムは、両国双方にとって、大きな教育発展のきっかけになると考える。関係者の皆さまに感謝申し上げる。

B-24 イム・ジンスク

日本に対する偏見がなくなった。お隣さんのような日本人に学ぶべきところが沢山ある。

B-26 イム・クァヌク

ホテルではなく、日本の伝統的な旅館で泊まる機会や、ホームビジットより3日間ぐらいのホームステイができれば良いと思う。

C-13 キム・クァンス

気仙沼地域をみて、自然が私たちに利も害も与えることを知った。共存という言葉が人間の命で終わるのでなく、自然と人間が共生する方法を模索しないといけないと感じた。これからは開発という人間中心のパラダイムが変わらないといけないと思う。

C-24 パク・ヘソン

被災したにも関わらず、淡々と話す姿に驚いた。心の中は悲しみで一杯なはずなのに、どうやって落ち着いていられるのか、今でも理解し難いが、私も学校で父親を亡くした生徒に普段通りに接するのが最善だと考えたことがあったので、その心の中の悲しみが一層大きく感じられた。

D-4 ホン・ジャスン

両国の歴史を尊重する。岡山市のお年寄りに会って、今まで持っていた歴史意識のよくない感情が自然に解消した。岡山市で私たち韓国教職員を迎える際、誠意を尽くして迎えてくださったこと。関係者の皆さんに感謝。

D-11 キム・ドンホ

今回のプログラムに参加し、真剣に悩んだ単語は「持続」である。この社会は当然持続するだろうと漠然と考え生活していたが、この社会、人間の生活がいつまで持続できるのか、悩みながら生活するようになったのが一番大きく学んだことだと考える。

D-14 キム・ヨンジュン

今回の研修の目標は、ESD活動の実現である。多くの見学と体験活動を通じ、日本のESD活動を知ることができた。しかし、東京と大阪の日程をのぞいて、地域別活動をする際は、その地域を「観察」するのでなく、「その地域に溶け込む」活動の必要性を感じた。岡山にいる間、私たちがどれだけ岡山のESDに役立ったか知らない。個室のホテル生活と食事がESDのために必要なのか。せめてグループ活動期間中は、岡山住民センターや地域の小規模宿泊施設を利用し、地域住民が運営する小規模食堂で食事をし、地域住民の商店で買い物ができる研修になるといいと思う。

D-26 パク・ミョンシク

子どもたちが幸せな学校が、最も良い学校である。我が校も子どもたちが幸せな学校にしたい。

E-2 チェ・ジュンホ

日本の教育現場の訪問と観察を通して、日本の教育現場の問題点と限界も少なからず発見することができた。これらを韓国の教育現場で教訓として学ばないといけない。

E-4 チェ・スギョン

個人的に努力した観光で、日本の教育を理解するのはとても不可能だった。しかし、今回のプログラムは私にとって新鮮な衝撃だった。日本の学校訪問、教師の方々との交流や意見交換、学生との交流、家庭訪問は忘れられない体験だった。これらを大切にし、生徒たちに授業をしたいと思う。

E-17 イ・キソン

日韓の宗教的な性向と違いを比較し理解できた。美しい自然があり、台風、地震などの災害が多発する環境により、韓国と比べて、ESD活動に深い関心を持って実践しているとわかった。伝統と文化が現代生活に溶け込み、誇りを持って活用していることがわかった。

E-18 イ・キョンボク

児童・生徒たちの欲求を満たすための教師の方々の配慮が大きいということを知った。児童・生徒たちの教師に対する尊敬や依存度が高いことを知った。学校の清潔維持のための指導がよくできていることを知った。災害教育が徹底的に行われていて、安全意識が生活に根付いている点に感動した。

※韓国教職員のコメントと提案は、プログラム終了時に参加者に記入を依頼した「総合評価票」をまとめたものです。

◆2. 各県・市教育委員会

Aグループ

さいたま市教育委員会

学校教育部指導1課

主任指導主事

小林 正美

協議がなされ、両国の教員の視野が広がりました。

加えるとよいと思われる活動

プログラムの全体的な印象

- ▶ 本市におけるホームビジット、教育委員会表敬訪問、学校訪問などでは、韓国教職員の皆様には、大変友好的に、また、積極的に研修にお取り組みいただき、本市関係者一同、うれしく感じています。
- ▶ 本市のホストファミリーの皆様にも、きめ細やかな事前の準備と心からの歓迎をしていただき、韓国教職員の皆様も喜んでくださった様子で、ありがたく感じています。
- ▶ 各学校訪問では、児童による歓迎会での歌や演奏などの発表、全学級での給食交流、韓国教職員の皆様による文化紹介など、大変温かな交流活動が行われ、とても喜んでいただけたのが印象的でした。また、韓国教職員の皆様は、本市の教職員との意見交換では、積極的に質問をされるなど、日本の教職員との交流を深めることができ、依頼した当方も本事業の受入れを実施してよかったと感じております。
- ▶ 防災センターでは、韓国教職員の皆様は、施設見学や地震体験や消火体験などにとっても興味深く取り組み、防災センターの担当者の方も、喜んでいらっしゃいました。

プログラム成果

- ▶ 学校訪問、ホームビジット、教育委員会表敬訪問等を通して、韓国の教職員の皆様と、さいたま市の生徒、教職員、市民が触れ合う事ができ、相互理解の深まりを感じています。
- ▶ 研究協議においても、参観した授業や互いの国の教育について熱心な

- ▶ ホームビジットの時間をもう少し長くできるとよかったという声もありました。

Bグループ

与謝野町教育委員会

教育推進課学校教育係長 坪倉 由貴

プログラムの全体的な印象

- ▶ 受入れ小・中・特別支援学校、他教育文化施設において、非常に熱心な取り組みが展開された。特に教職員の交流の場では、共通の課題に対して活発な意見交換がおこなわれ両国教職員の意識の高さがうかがえた。
- ▶ 小・中学校での視察においては、韓国教職員のみなさまに多くの注文を出してしまったが、児童生徒との関わりのなかで互いに楽しみ、友好の思いが芽生えた。

プログラム成果

- ▶ ホームビジット、教職員の意見交換等において、ことばの壁を感じながらも伝えたい、理解したいとの強い思いから、積極的に関わりをもととする姿が多くみられた。今後、個人レベルでの交流が続き、相互理解の深まりを期待できると感じた。
- ▶ 当町では、一度の中国教職員の受入れ、二度の韓国教職員の受入れにより、町内すべての小・中学校で中国、韓国教職員との交流を経験することができた。教職員はもとより、児童生徒にとっても刺激的、印象的な出来事であり、異文化を感じ、共通

のことも発見し、多文化共生、国際理解の機会となった。

苦勞した点

- 当地方は、この時季、降雪積雪が多く異動時間の予想が困難であったり、危険が伴うことが予想される。過去に、ホームビジットを急遽中止とした経緯もあり、大雪警報などの発令を受け、小・中学校が臨時休業となることも視野に入れ、対策を講じなければならない。
- ボランティア通訳の確保が困難である。
- 担当者個人として述べるなら、上の困難は本プログラム運営上避けることのできないことであるが、韓国教職員のみなさまとの交流は、何にも替えがたい自己啓発の機会であり、苦勞は感じない。今回のプログラムをきっかけに、教職員間、学校間の交流が継続されるよう、願ってやまない。

加えるとよいと思われる活動

- 当地方は、スポーツの盛んな土地柄であり、ジュニアスポーツの分野においてもさまざまな特色ある取り組みが行われている。各地域のスポーツクラブの見学、参加や少年野球、少女バレー、サッカー、ミニバスケ、陸上など児童が自主的に参加するジュニアスポーツ、柔道、剣道、空手教室などの見学をプログラムに取り入れてはどうか。
- 小学校・中学校・特別支援学校・教育委員会などグループプログラムの中でも更に小さなグループで、訪問者の職種（職場）にあわせた、交流、情報交換の時間を持てばよいのではないか。訪問先を選択できるようにする、分科会方式にするなど考えられるが、通訳（情報保障）の確保が困難である。

プログラム改善に向けた助言

- 担当者としての思いではあるが、このスタイルのプログラムでは、日本の（韓国の）学校を訪問し、教職員、児童と交流した、と単発で終わってしまうことが懸念される。本プログラムをきっかけに、交流を持続できるようなプログラムであれば、より目的に近づくのではないだろうか。
- 日本の都道府県対韓国の道教育委員会単位、日本の学校対韓国の学校の継続的な交流をサポートいただけるような企画、そのきっかけを作る企画をお願いしたい。

Cグループ

気仙沼市教育委員会

学校教育課長補佐兼指導係長 伊東 毅浩

プログラムの全体的な印象

- 子ども達とのふれあいの場面で涙を流して感動している姿をみて、今回の訪問に対する韓国教職員の誠実な気持ちがうかがえた。
- 韓国の生徒たちからのメッセージビデオや手紙など、「日本を励ましたい」という思いが随所に見られ、我々も勇気づけられた。
- 被災地に来て、現場を見ていただいたということが、韓国教職員にとって、大きな意義があったと思われる。

プログラム成果

- 韓国の教職員や生徒たちが、今回の震災に対してどのような気持ちでいるのかを、メッセージビデオや手紙等によって知ることができたので、両国の友情がさらに深まったと思われる。また、震災から立ち上がろうとしている気仙沼市の現状を知っていただくことによって、気仙沼市の防災教育を含むESDの取組に対する韓国教職員の理解も深まったと思われる。

苦勞した点

- 震災の影響で、ホテル等の宿泊施設がダメージを受けており、宿泊先の確保が一番大変であった。食事場所についても同様で、震災前とは状況が大きく異なっており、場所に確保や移動手段など、これまでとは違った苦勞が多かった。
- 見学先の学校についても、震災の影響で大変忙しい状況にあり、その中で受け入れていただくために、大きな負担をかけてしまった。

加えるとよいと思われる活動

- 地元の産業（会社等）や、文化活動（郷土芸能等）などを、少人数のグループに分かれて体験する時間があっても良い。より訪問した地域を理解することにつながると思われる。ただし、これを実現するためには、訪問先の担当に今まで以上の負担がかかるので実現にはハードルが高いと思われる。

プログラム改善に向けた助言

- 日韓双方に言えることだと思われるが、参加者は受け入れ側に対し「いろいろなお世話をしてもらうことが当たり前である」という意識を持ってしまふことがあり、オリエンテーションなどで、事前指導を徹底すべきであると感じた。

Dグループ

岡山県岡山市環境局環境保全課
主事 流尾 正亮

※内容は教育委員会指導課・市民局国際課・環境局環境保全課で記載したものを集約

プログラムの全体的な印象

- 訪問された方々が非常に熱心で、気遣いをされる方々であり、非常に親近感を持つことができた。参加され

た地域、学校等の方々も大変喜んでおられた。

- 教職員の方々から、励まし、賞賛をいただき、小中学校での交流会では歓声上がるなど率直なリアクションをしていただいたことで、教職員・生徒がやりがいを感じる事ができた。
- 韓国の教職員の方々が、子どもの前では「先生の顔」になり、表情が輝いていた。言葉が通じなくともコミュニケーションが取れることを実感した。給食を韓国教職員と一緒に食べた小学生が、手紙を書いて韓国教職員に渡すという光景も見られ、型にはまったイベントでなく、人同士の交流を生徒が行っていたことも印象的だった。
- 公民館、学校等を訪問し、日本の教育現場での交流や、ホームビジット等を通じて岡山市民ともふれあひながら、実りのある交流ができた。
- ホームビジットの次の日の歓迎交流会では、韓国の先生方（2人）がホームビジット家庭のホストファミリーを2人ともお招きしたい（元々はホストファミリー1家庭1人ずつのご招待）との声があり、欠席する家庭の分の代わりに、その2家庭に声をかけ、各家庭に2人ずつご招待できるようになった。皆さん楽しくお互いに生き生きとした時間を過ごされ、お互いの国に良い友達ができて、良かったとの声をいただき、嬉しかった。

プログラム成果

- 受け入れをしてくれた学校現場の先生や児童生徒から「やってよかった」との感想を聞いたことがとてもうれしかった。
- 韓国の教職員の方々を受け入れることで、地域や学校内にある韓国の文化・言語に関連する人材や教材を発掘することができた。
- 受け入れの幅がとても広がったため、教育委員会だけでは対応できな

かった。そのため、局を越えて連携して取り組むことができた。

- お互いの国の異なる文化・教育などについて、理解する良い機会となった。
- 韓国の交流都市（富川市）以外の都市の方々にも岡山の PR ができ、また岡山に旅行でも来たいと思われるきっかけを作ることができて、大変嬉しく思う。
- また、普段このような国際交流の機会にあまり恵まれない公民館や学校関連の方々をはじめとする方々に幅広い交流の機会を提供することができ、実りのある交流ができたとともに、新しい交流の芽を発見することができたことも成果であると考えています。
- これまで ESD を推進してきた小中学校において、教職員・生徒にとって ESD がより身近なものになった。
- 学校においては、今回の訪問団の歓迎を「成果発表の場」と捉えたことで、国際交流に対するモチベーションを上げることにつながった。実際に国際交流を体験することで、教職員・生徒がチャレンジし、実感を持ち自信をつけることができた。
- 日常的にあまりない国際交流を肌で感じ、経験することができた。

苦勞した点

- 学校における実施内容、認識共有など、個別の調整事項が多かった。学校の教職員の通常業務があり時間が限られる中で調整を行う必要があり、あまり無理をかけられない分をコーディネーターとしての岡山市役所で請け負った部分があった。
- もう少し早めにどういった校種・どういった教育施設を見学されたいのかという韓国教職員の方のメンバー構成やニーズを把握できると交流する教育施設のアレンジが工夫できると感じた。
- 政令指定都市になったとはいえ、学

校管理の管轄が違うため、見学を希望される高等学校や支援学校については県の教育委員会と連携しながら連絡・調整するところが困難であった。ESD についての取組や理解・進捗については温度差もあるので、理解を得ながら進めることが非常に難しかった。

- ホームビジット 15 家庭が件数的に多いため募集する際にすぐに全件応募とならない点で調整が必要となった。
- ホストファミリーと韓国教職員方々とのマッチングなど、皆さまの意見をできるだけ、反映しようと最善の努力は尽くしたが、細かいリクエストがあるなど難しい点があった。

加えるとよいと思われる活動

- 韓国における教員の方々の取り組み、実践に関する資料・映像などを事前にいただくことができれば、それらをふまえた上でプログラムを組み立てることができると思う。岡山の説明をするにあたって、韓国の各地域との共通点・類似例・相違点をふまえた説明が可能となるのではないか。
- ホームビジットについては、1 日だけでもホームステイの方が十分な交流の時間がとれ、お互いに色々な文化の違いなどを深く理解しあうことができ、良いのではという意見もあった。

プログラム改善に向けた助言

- 今回訪問された教員と、受け入れた団体・学校等がスムーズにコミュニケーションを取れるサポートツール・体制・場などがあると、継続したコミュニケーションが可能となり、交流がさらに進むことが考えられる。
- 一番の問題は言語であり、現時点で英語・ハングルのスキルがない教

員・生徒の自己研鑽・努力だけでコミュニケーションを取ることを促すのは現実性に乏しい。完全サポートは本人の学びの観点から過剰と考えるが、コミュニケーションの場（ネット上でも良い）があると継続的交流が促されるのではないかと。

- 関係者の皆様のおかげで、良い交流プログラムができ、日韓の間を少しでも縮められたことを嬉しく思う。担当者が個人的にも様々なことを学べる機会であり、良い経験となった。

Eグループ

福岡県教育庁

教育振興部高校教育課

指導主事

中野 敏昭

プログラムの全体的な印象

- 率直に申し上げると受け入れは大変な事業です。しかし、受け入れに関しては次の2点を達成できれば意義があると考えます。①相互の国際理解に協力できるか②学校の活性化につながるか
- ①②を達成するために必要なことは、より早く準備を行うことであると考えます。
- 今回のプログラムの中では、ホームビジット終了後ホテルに戻ってこられた先生方の笑顔が一番印象に残っています。

プログラム成果

- プログラムの最後に団長から御礼の言葉をいただきましたが、今回のプログラムに満足していただけた様子でしたので、「①相互の国際理解に協力できるか」を達成できたと考えています。
- また、訪問先の各学校でも今回の訪問を生徒の育成に活用していたので、「②学校の活性化につながるか」についても達成できました。

苦勞した点

- ホームビジットホストファミリーや通訳を確保する手立てが分からなかったため、直前まで調整が必要でした。
- レセプションの調整に時間がかかりました。

加えるとよいと思われる活動

- 農業関係の施設訪問、リサイクル関係施設訪問、日本文化体験教室、先端工業技術施設訪問等

プログラム改善に向けた助言

- 効果的に交流を行うためには通訳の役割が重要です。特に協議を充実するためには専門の通訳に依頼できないかと考えています。是非通訳の予算化をお願いいたします。また、ボランティア通訳の方のお礼が交通費補助 2,000 円では少ないと思いました。ボランティアの活用も大切ですが、受け入れ側としては予算措置が必要なところが予算化されていないと感じました。
- 協議を行う場合、事前に協議内容を韓国側からいただけると目的に沿った協議になると考えます。
- 訪問者の確定（名簿送付）を少しでも早くお願いいたします。

※教育委員会のコメントと提案は、プログラム終了後記入を依頼した「協力機関評価票」を、一部漢字の修正を除き、原文に忠実に記載しています。

3.主な訪問受入れ学校および機関

Aグループ（東京近郊）

●横浜市立永田台小学校

教諭

須田 夏紀

プログラムの全体的な印象

- 韓国の先生方が民族衣装での踊りや日本の歌など様々な準備をしてくださり、子どもも教師も韓国と日本の文化に触れ、楽しむことができました。
- 人と人との出会いは、温かいものだと実感しました。国を超えて、仲間作りをしていくことが、教育には必要です。ユネスコスクール同士の交流も深めたいです。
- チャング（韓国の伝統楽器）の指導をしていただき、子どもたちは喜んでいました。

プログラム成果

- 韓国に訪問させていただいた時に出会った先生方との再会。
- 子どもたちが、韓国の人に対して友好的な感情をもてたことが良かったです。
- こういう機会が得られたことが貴重でした。充実した一日が過ごせました。多くのお客様をお迎えすることは、学校としては準備もあって大変ですが、人が集まってくる学校になってきたことが嬉しいことです。

苦勞した点

- 冬休み明けすぐだったので、準備等に費やす時間があまりありませんでした。
- 教師同士の意見交換が十分時間がとれなかったのが残念でした。

加えるとよいと思われる活動

- 交流を深めるのであれば、私たちがやった日本の遊び・韓国の遊びと一緒にできたら良かったと思います。今は、テレビゲームが多いと思いますが、昔遊びは結構似ているかもしれません。

プログラム改善に向けた助言

- 将来社会をどのように描いているのか。ESDで目指す姿とそのよさを話し合いたい。
- 両国の取組内容の情報交換を十分にしたい。
- 教員同士のざっくばらんな意見交換をしたい。

Aグループ（埼玉県さいたま市）

●さいたま市立養護学校

主幹教諭

佐藤 浩市

プログラムの全体的な印象

- 校内の見学案内の時など、大変意欲的な質問が数多く出された。教室見学の際は掲示物や作品等にも深く興味を示す姿がみられた。
- 全体での情報交換の際にも、活発な質問や意見がかかわされ意欲的であった。
- 韓国と日本の「特別支援教育」について現状と課題など情報の交換が行われ、有意義な時間であった。

プログラム成果

- 韓国の「特別支援教育」、「特別支援学校」の状況がイメージできたこと。
- また、日本の特別支援教育の現状や、本校の教育活動および医療との連携を紹介し、理解を深め評価されたこと。

苦勞した点

- 本校の女子トイレ（職員用）が2階

にしか無く、トイレタイムをしっかりと確保していかないといけないと感じた。

加えるとよいと思われる活動

- 本校教職員向けに、「韓国の特別支援学校（肢体不自由児）の指導の様子」をビデオなどで紹介していただけたらありがたい。

●さいたま市立上里小学校

教頭 町田 隆則

プログラムの全体的な印象

- 5時間目、体育館での歓迎集会において、韓国教職員の方が、チマ・チョゴリを着て「扇の舞」を踊ってくださったり、韓国のこまを回してくださったり、子どもたちも教職員も韓国の文化に触れることができ、とても有意義であった。

プログラム成果

- 子どもたちも教職員も異文化に触れることができ、見聞が広まった。また、本校の環境教育の取組を海外にも広めることができ、大変意義深いものがあった。

苦勞した点

- 本校の図書館司書が、韓国語に堪能であったので、準備等についても特に支障はなかった。

●さいたま市立桜木小学校

教頭 田中 民雄

プログラムの全体的な印象

- 体育館の耐震補強工事中であることもあって、全児童を集めての歓迎会を行うなど十分な対応ができず申し訳ありませんでした。にもかかわらず韓国の教職員の方々は、とても温かく児童に接していただき貴

重な機会をいただいたと思っています。特に、チマ・チョゴリの衣装で伝統舞踊「扇の舞」を披露していただいたことに、児童たちはとても感動しておりました。

プログラム成果

- 国際理解教育ということで、外国の文化を調べたり、「英会話」の学習をしたりしていますが、実際にお会いして、給食を一緒にさせていただいたことは、何よりも意義あることだと考えます。

苦勞した点

- 1に記述しましたが時期的に体育館の耐震工事中であったために、全児童にどのように韓国の方々の紹介や伝統舞踊を見せるのに苦勞しました。歓迎会も行うことができず申し訳なかったと思っています。（真冬なので外でというわけにもいかず）
- 授業があったため、本校教職員との交流の時間の確保がとても難しかったです。結局20分程度しかとれず、十分な交流ができなかったことをとても残念に感じています。

加えるとよいと思われる活動

- 給食だけでなく、子どもたちとゲーム遊びをするなど（言葉が通じなくても可能なので）交流の場を学校がもてればよかったと思います。

●さいたま市立尾間木小学校

教頭 五十嵐 公明

プログラムの全体的な印象

- 異国の教職員の方に授業を参観していただいたことは、教員及び児童にとってすばらしい経験であった。事前準備は無理をしない程度と考えていたが、職員が韓国の国旗を何

本も自ら作ったり、歓迎の言葉を韓国語で画用紙に作ったりしていた。

プログラム成果

- 近い国であるが、なかなか普段は交流することがない人たちと交流できたことは、職員にとって貴重な体験であり、うれしいことでもあった。
- 特に全体会では正直な授業の感想も言うてくださり、お互いが児童を中心に教員をしていることが身をもって感じる事ができた。

苦勞した点

- 本校としましては、教室配置図やリーフレットを事前に送ったので、韓国の教職員の方が事前にお持ちになっているかと思っていました。事前に担当同士で確認をすべきだったと反省しております。

加えるとよいと思われる活動

- 児童が披露できる日本の文化を紹介できる学校訪問(和太鼓や運動会時期であれば「よさこいソーラン節等」)

Bグループ (東京近郊)

●市川市立稲越小学校

教頭

宮崎 康雄

教諭

岩橋 郁郎

プログラムの全体的な印象

- 30名の韓国教職員の皆様の研修姿勢に学ぶことが多かったというのが全体を通しての感想です。
- 学校図書館司書の配置について「司書の活用についての年間カリキュラムが必要なのでは」と質問を受けました。市川市内でも課題となっている事柄でしたので、実を射た質問であると印象に残りました。

プログラム成果

- 体験学習で交流することのできた5年生(英語活動)、6年生(書写)にとって、韓国の方とかかわるという実体験をすることができたことが、通常では得難い大きな成果です。
- 韓国教職員の方たちが「興味」を示し、「質問」をする事柄を目の当たりにすることによって、日常あまり意識しない日本の学校の特徴のようなものを考えさせられました。教職員にとっての成果です。

苦勞した点

- やむを得ないことですが、「言葉」のことです。学校紹介のプレゼンも翻訳をしていただけて行うということにならざるを得ず、その分作成にかなりの時間を費やしました。
- また、日本語での説明をどの辺で切って韓国語にしてもらえばいいのか、日常的なことではないだけに戸惑うところもありました。

加えるとよいと思われる活動

- 言葉の問題はおき、双方の国の「具体的なカリキュラム」(例えば双方の「国語年間カリキュラム」)の交換、あるいは教科書の交換のような活動があると、より身近に双方の国の教育を感じることができるとは思いませんか。

プログラム改善に向けた助言

- 今回、「教科書のサンプルのようなものはいただけないのか」という質問を受けました。学校には残念ながら予備としての教科書はありませんので、期待には添えませんでした。「教科書」について何らかの手配が行われているとよいのではないかと思います。

Bグループ（京都府与謝野町）

●与謝野町立与謝小学校

教頭

小長谷 明美

プログラムの全体的な印象

- 訪問団長の先生をはじめ、どの先生も友好的で礼儀正しく、好感が持てた。
- 俳句についての関心が高く、熱心に質問をされていた。伝統文化を、教育にどう生かすかを研究されているようだった。
- 授業参観時の発言からは、学力重視の韓国の様子がよく分かると同時に、そのことによる課題も感じられた。
- 日本語をたくさん知っておられることに、びっくりした。
- 発表の時は、気持ちよく聴いてくださり、とてもうれしかった。
- 通訳の方がおられ、助かった。

プログラム成果

- 韓国の教育について少し理解ができた。と同時に、改めて、「知」「徳」「体」の調和のとれた教育の重要性が再認識できた。
- 外国語活動等、児童は英語圏の外国が中心であったが、一番近い外国である韓国と交流を通して、国際理解教育に広がりをもたらすことができた。
- 参観授業で、6年生が「世界の中の日本—韓国と日本—」だったので、疑問や質問を直接出して、生の声を聞いて、授業を進めることができた。
- 歌の発表を聞いていただき、たくさんの拍手をもらったことは、子ども達の自信につながった。

苦勞した点

- 通訳の方が二人おられたので良かったが、もし、通訳がいなかったら、また、一人だけであったら困難が生じたと思う。

●与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校

校長

大槻 徹

プログラムの全体的な印象

- 歓迎プログラムにおいて、吹奏楽部と2年代表の演奏と歌に対して、予定になかったのだが、韓国教職員が歌と韓国古来の楽器演奏で応えてもらい良い交流ができた。また、生徒会役員が全校生徒から募集した質問に対してとても丁寧に答えてもらった。
- 授業体験では、習字を生徒と一緒にやり、積極的に筆を使って漢字を書かれた先生方も多く、生徒たちとの交流が深まった。
- 教職員との交流では、本校教職員が抹茶を点てておもてなしをして、和やかな雰囲気で行うことができた。韓国教職員は非常に熱心に質問をされ、真摯な研修態度に感銘を受けた。

プログラム成果

- 生徒会役員が全校生徒に呼びかけ、訪問を受け入れるための質問事項を考えた。また、吹奏楽部の部活動を時間延長して行った。生徒会活動や部活動が活発化し、本校の国際理解教育が例年に比べ推進できた。
- 体験授業や授業参観で韓国教職員との言語の壁を越えた交流ができた。
- 本校教職員との交流では、学校の組織体制や生徒指導の課題など参考になった。

苦勞した点

- 通訳が入る関係で、進行上の時間的な余裕を持たせることが難しく、当日の実質的な交流時間に制約を受けた。
- 交流に参加する本校生徒や教職員が一部の者になったため、50分授業を基盤にプログラムを組まざる

をえなかった。

プログラム改善に向けた助言

- 体育館で全校生徒が交流できるようなプログラムも考えられるので、気候が温暖な1・2学期の訪問が望ましいと思います。

●与謝野町立岩屋小学校

教頭 行待 郁代

プログラムの全体的な印象

- 子ども達は大変喜んだ。
- 名前の言い方やあいさつの仕方を覚え、コミュニケーションを図ることができよかった。積極的に話しかけていた。
- 韓国の先生方が親しみをこめてあいさつをしてくださり、迎える側としてはとても嬉しくありがたかった。

プログラム成果

- 児童も楽しく交流でき、韓国の国を身近に感じられたのではないかと。特に民族衣装「チマ・チョゴリ」を着せていただいたことはよかった。
- 韓国の民族楽器の演奏を聴くことができよかった。(なかなか望んでもできないことなので)
- 日本とは違う国の方と交流することで、子ども達が広い視野で物事を考えるきっかけになったと思う。
- 子ども達も韓国語に興味を持ち、その後も話したりテレビで韓国語を聞いたりしたという会話が学級内であった。
- 子ども達の積極性が見られた。

苦勞した点

- 本校は教職員の人数が少ないので、湯茶等接待の大変さがあった。十分な接待ができなく申し訳なかった。
- 時間調整が難しく、予定時間をオー

バーした。(子ども達が先生方から離れなかった)

- 先生方の熱意と誠実さを感じた。
- 教職員が初めてのことでドキドキしたが、先生方に喜んで楽しい思い出を持って帰っていただけたのではないかと思いつつしている。

加えるとよいと思われる活動

- 「衣・食・住」や言語にかかわる内容を取り入れてみたい。

プログラム改善に向けた助言

- 日韓で特定校との定期交流ができてよい。
- 韓国の先生方からも感想を聞かせてほしい。

●与謝野町立市場小学校

教頭 梅田 一美

プログラムの全体的な印象

- 韓国教職員の皆様は、本校の道徳教育について大変興味を示され、熱心に質問をされた。韓国でも、日本と同様の児童課題があり、心の教育の必要性を感じておられるように思った。

プログラム成果

- 児童は、ハングル語や韓国に興味を持ち、異文化交流ができた。
- 交流給食では、児童は身振り手振りでコミュニケーションを図りながら楽しく食することができた。

苦勞した点

- 当日の日程が計画通りに進まず、全体的に予定時刻より遅れ気味であった。もう少し、余裕を持った日程にしておいた方がよかった。
- 教職員との懇談の時間があつたが、授業中のため対応できる教職員が

- 限られており、体制的に厳しかった。
- 交流給食については、事前の受け入れ態勢や準備（各教室の机・椅子、配膳準備や食事時間など）が大変だった。
 - 学校は、禁煙であることを事前に知らせておく必要があった。

*KNCUもACCUも注意をしているが、徹底していなかった。

しいです。ニーズに応えることで、こちら側から一方的に進めるではなく、互いの交流が広がるように思われます。

●京都府立与謝の海支援学校

副校長

碓井 英善

プログラムの全体的な印象

- 日本及び京都府のそして本校の教育について熱心に質問をされ、特別支援教育への関心の高さを感じました。特に、韓国の学校5日制の導入については、日常的に支援が必要な子どもたちの様々な課題をどう解決するべきか、先に実施した本校や地域の対応を尋ねられました。
- また、重度重複障害の生徒の進路指導についても尋ねられ、両国の障害者就労について捉え方や制度が違うことを理解されました。

苦勞した点

- 午後の半日の訪問日程で、それも少し遅れられたので、予定していた授業を参観していただけませんでした。参観していただくはずだった小学部の児童が期待して待っていたので残念でした。
- 訪問5日目の午後の時間帯を（特別支援学校はスクールバス下校なので児童生徒の在校時間が限られている）有効にするためには、資料（ハングル文字変換済み）については、事前に配付し目を通してもらい、質疑応答や互いの教育交流にもっと時間をかけた方がよかった。

プログラム改善に向けた助言

- 韓国の先生方が訪問先に求めておられることも分かれば知らせてほ

C グループ（東京近郊）

●荒川区立原中学校

校長

刑部 之康

プログラムの全体的な印象

- 歓迎レセプションで多くの韓国の先生と交流ができ、両国の教育課題について語りあうことができた。近くて遠い国と言われるが、ますます近さを実感した。
- 給食時の生徒の交流では直接近くで関わることが最も大切な交流だと感じた。
- 日韓の共通する部分が思った以上に多いことに感動したと同時に大きな違い（生徒の海外への意識）を感じた。

プログラム成果

- 言葉がきちんとできなくても片言の英語や身振り手振りでも心が通じ合うことを本校の生徒たちが体験できたこと
- 教師として教育への情熱は変わらないこと

苦勞した点

- 初めてでしたので全体像や具体的な動きが見えなく、当初は不安でしたが無事に終えることができました。

加えるとよいと思われる活動

- 今回最も良かったプログラムは生徒との給食交流でしたので、少人数単位での生徒や教員の交流が良いですね。

C グループ（宮城県気仙沼市）

●宮城県立気仙沼支援学校

教頭

庄司 径二

プログラムの全体的な印象

- 韓国の特別支援教育に関する実態

の概略を知ることができて大変良かったと思います。

- 国の違いが分かり興味深かった。
- 訪問団の先生方に、本校職員と一緒に児童生徒の出迎えをしていただき一人一人を見ていただいたことはとても良かったと思います。
- 訪問時間が短時間であり、全体的にあわただしい感じがしました。
- 児童生徒と韓国の先生方との交流の場があれば良かったと思います。

プログラム成果

- 韓国における特別支援教育について知識を得ることができました。
- スクールバスが3時間もかけて通学してくる児童生徒がいるとお聞きしましたが、驚きました。
- 韓国の特別支援学校の概要が事前に分かると、日本の特別支援学校との違いをお話できるかと思っています。

苦勞した点

- 前回と同じ内容での訪問でしたが、訪問スケジュールについて良かったのでしょうか。

加えるとよいと思われる活動

- 本校は特別支援学校ですが、具体的にどのようなことをお知りになりたいか事前にわかると準備し説明できると思います。

プログラム改善に向けた助言

- これまでの経緯をみますと韓国・中国との交流ですが、その他のアジア諸国との交流を深めて見たいとの声もあります。実現できたならば、素晴らしいと思います。

●宮城県気仙沼高等学校

教諭

畠山 優

プログラムの全体的な印象

- 2年前のプログラムでは、中国・韓国の教職員の方々が来校され、主に生徒と交流をしましたが、今回高校の英語の先生方が多く、先生方との交流ができて、大変良かったです。また、今回の震災に対する韓国の生徒達からのビデオメッセージ等もいただき、本当にありがとうございました。

プログラム成果

- 言葉は違っても、英語や通訳者を通して、コミュニケーションをとることができました。優秀な先生方で、本校との状況もかなり違いますが、生徒に高い学力をつけて大学へという同じ願いを持ち、切磋琢磨していることがわかりました。私達も彼らに負けずに努力していきたいと思いました。

加えるとよいと思われる活動

- 特に思いつきませんが、スポーツでの交流なども考えられます。バレーボール、テニス、ソフトボールなどをいっしょに行ったりするのも良いと思います。

●気仙沼市立小原木中学校

教頭

高橋 進

プログラムの全体的な印象

- 今回、韓国教職員の訪問に際し、いろいろと企画運営する中で生徒たちが想像以上に積極的に活動し、コミュニケーションを取ることができたことが印象的であった。

プログラム成果

- 生徒たちはアメリカやカナダなど、

ALT の出身国との文化交流は図れているが、隣国である韓国の方々との交流は意外と少なく、韓国文化についても知識は極めて少なかった。この事業をとおして理解を深めるきっかけとなった。

苦勞した点

- 3つの授業を用意し、それぞれに日本と韓国との文化の紹介や違いについて理解し合える場を提供することで、互いに理解を深められたが、その授業のアイディアや準備に多くの時間を費やし苦勞した。

加えるとよいと思われる活動

- やはり、授業参観のみでなくお互いの文化の交流を図れる事業がほしいと感じた。
- また、直接生徒と話し合える自由時間の確保も必要だと思った。

プログラム改善に向けた助言

- 事前に、授業等について打ち合わせを行うことができ、一連の流れを確認できたので慌てずに対応できた。やはり事前打ち合わせの有効性を確認した。
- 今後も打ち合わせを密にして取り組む方がいいと思います。

D グループ（東京近郊）

●自由学園

男子部副部長

更科 幸一

プログラムの全体的な印象

- とても良いプログラムだと思います。食欲に学びたいと考えられている先生方と、気取らずお互いに素直な気持ちで交流を行うことが出来ました。その結果お互いに学びあい、刺激を受け、生徒のためになることが多かったと思います。
- 生徒との交流(タッピングタッチ)は国を超えた非言語的平和教育のひとつとして行いました。「お互いが安らいだ気持ちになる」といった感想も多く、とても成果のあることであったと思います。

プログラム成果

- レセプションの際に本校生徒が歓迎の音楽として韓国唱歌「アリラン」などを演奏させていただきました。演奏後の懇談会では多くの先生たちが生徒と交流をしてくださり、生徒たちは慣れない英語で自分たちの学校生活を振り返りながら対話をするのが大変良かったです。
- 来校された韓国の先生と e-mail での交流を始めています。「平和教育」を中心に skype などを利用して生徒同士の交流も行っていけそうです。
- 韓国の先生方との意見交換では多くのことを学べましたが、指導方法(特に問題行動を起こしてしまった生徒への対応)などは大変参考になりました。
- 韓国の先生方に、日本にも受験のためではなく、「よく生きる力」を育てる学校があるということを知っていただけたのは嬉しいことでした。

加えるとよいと思われる活動

- 韓国の先生による授業。(韓国文化や平和教育など)

プログラム改善に向けた助言

- 今回は 10:00~15:00 と 5 時間のプログラムでした。あと 1 時間程度余裕があると、より内容の充実したプログラムになると考えられます。
- 訪問の時期が、寒い 3 学期で、しかも入学試験の直前でもあるので、可能なら、春か秋の気候のよい時に訪問されると、また、環境のこともより実感していただけるのではないかと思います。

D グループ（岡山県岡山市）

●岡山市立高島公民館

社会教育主事・主任

吉田 郁美

プログラムの全体的な印象

- 皆さんの熱心さに舌を巻きました。特に、岡山市の特徴を説明した後の皆さんの質問責めには驚きました。岡山の学校の先生は、韓国の先生方と比較しておとなしいと感じました。食文化の違いも垣間見ることができ勉強になりました。(例えば甘酒にショウガを入れないという違い)

プログラム成果

- 高島公民館(地区)での取り組みを説明する資料を作成することをおして、あらためて自分たちが誇れること、十分でない点を整理することができました。そして、これからすすむ方向性を客観的に考えることができました。

苦勞した点

- 組み込む内容の量と使える時間のバランスが悪く、じっくり時間を使うと内容が少なくなり、内容の分量

を重視すると上辺で終わってしまう感じがしました。せっかく来られるのでじっくり説明をしたかったのですが、あれもこれもになってしまい、消化不良を興しているのではないかと心配しています。前日まで、タイムテーブルが決まっていなかったのが、一番困りました。

プログラム改善に向けた助言

- こちらの勉強不足ですが、招へい国の教育課程やシステム、背景などを事前にインプットして交流すると、踏み込んだ情報交換ができると思いました。

●高島・旭竜エコ・ミュージアムを語る会 大橋 弘司

プログラムの全体的な印象

- 一時の経済発展真っ只中の日本を見るようでした。研修に十分な費用や時間をかける事が出来ていたようです。教養のある方々だから、接する態度、発言はとても好感のもてるもので、プレ研修が十分行われていた感じがしました。この程度では、とても本音の話し合いが出来たとは言えませんが、少なくとも、教える方たちにはいい話をしていたのかな、と思いました。

プログラム成果

- 何もかも知ってしまっただけで、純粋な気持ちで物事に接することが出来なくなっている我々にとっては、とても原点に返ってものごとを考えろと言われていたようだった。

苦勞した点

- 私は、特にありませんが、あまり作り込みすぎてもよくないのではないかと思います。

加えるとよいと思われる活動

- ある程度選択する必要があるかもしれないが、様々な意見を持った日韓の参加者で、身近なテーマを決めてディベートするようなプログラムがあってもいいのではないかと思います。

プログラム改善に向けた助言

- 自分の地位や国を考えて言動をいたすことも必要ですが、韓国や日本の活動に反対意見を持つ人もおおいに発表していただく機会があればよいと思います。

●岡山県立興陽高等学校 教諭 内山 睦子

プログラムの全体的な印象

- これほどの人数の視察団の来校は、数少ないことだと思います。それも外国の教員の方々ということで双方の意見交換の場（時間的に）が中途半端になったかなと感じました。国際理解教育を進めている本校としましても、海外の方のお考えなりをもっとアピールしていただける形があればよかったのではないかと思います。（その点では授業でのアピールはインパクトがありました。）
- 韓国の方には「バリアフリー」という言葉はあまり理解されていない様子であったが、通訳の方が分かりやすく対応してくださり、理解された様子。庭園について印象が良かったと感想も頂いたので良かった。
- 本校の自転車通学の多さと、通学時間に驚いていたことが印象に残った。（韓国の通学の状況と違いがあるのかと感じた。）

プログラム成果

- 韓国の先生による生徒への授業は、生徒にとって新鮮で印象的だったようです。言語の問題もありながら、冗談をまじえながら訴えかける授業方法は自分にとっても興味深いものでした。
- 韓国の職業高校の現況が理解できて良かった。
- 教職員・生徒が、外国のことを知ることに役立った。

苦勞した点

- 農場の見学等を入れる場合、冬場は農場運営的に中身の薄い時期なので、訪問の時期としてふさわしかったかどうかと思っています。
- 司会をする上で、打ち合わせが不十分だった。

プログラム改善に向けた助言

- 今回 ESD の関係で来校されたのですが、時期など変更できるのであれば、児童・生徒が活動している時期に変更されて、実際に様子を見ていただくと、より良かったのかと思います。

●岡山市立藤田公民館 主任・社会教育主事 長谷川 美枝

プログラムの全体的な印象

- 韓国教職員の方が大変情熱的に学ぶ姿勢を見せてくださり、私も刺激を受けました。学校現場の方が、ノンフォーマルな教育（公民館の学習）にも関心を示してくださって嬉しく思います。もう少しゆとりのある日程だと、尚良かったです。こちらの実践を聞いていただいた上でやりとりがあれば、更に学びも深まり相互理解や愛情形成にもつながると思いました。

プログラム成果

- 外国の方を受け入れるためには、相手側に配慮する想像力が必要だと感じます。今回の訪問でも、それを目の当たりにしました。ここで得た教訓は、周りの職員にも伝えていこうと思っています。
- また、藤田地域の全学校を回っていただいたことにより、受け入れをした私たちに共通の体験ができました。体験の共有は、同じ目標にむかっていく上で大きな推進力になるのではないかと感じています。

苦勞した点

- 上にも書いたように、時間内におさめるのに苦勞しました。はじめから、同時通訳でいくと決めておけばよかったと反省しました。そのほかに、苦勞したことはありません。

加えるとよいと思われる活動

- 今回、一緒に餅つきをした小学生が、家に帰ってからおばあちゃんに「韓国の人は、ノリがいいんじゃ」と喜んで言ったそうです。韓国教職員の方は、学習活動に積極的に関わってくださるのでよい交流の時間が持つことができよかったです。
- このことから、地域資源を活かした体験活動があってもよいかと思えます。（藤田では、以前に招聘者の方と高校生と一緒にレンコン採集をしました。）

プログラム改善に向けた助言

- 中学校で日韓教員の懇談会があったように、小学校でも先生同士の交流があったらよいと思います。韓国教職員の方々に、もっと発言の機会があればよいと感じます。

●岡山市立第一藤田小学校

教諭

松本 和子

プログラムの全体的な印象

- 韓国の方が日本語を真剣に話される姿に心を打たれた。子どもたちも真剣に聞いていた。
- 給食を食べている時に「おいしいですか？」とお尋ねすると、全員「おいしいです」と答えて下さいました。日本人が忘れかけている相手に対する思いやりや食べ物への感謝等、改めて教えていただいた。
- 言っていることや視線が同じ教員としての共通のものが感じられた。教育事情もずいぶん違うと思っていましたが同じことの方が多かった。
- 韓国の先生方は大変積極的であった。いろんなことに興味をもち、子どもにも大人にも関わろうとする態度に感心した。

プログラム成果

- 韓国について子どもたちが知ることができた。
- 日本の文化のよさを改めて感じた。また、子どもたちに日本文化の体験をさせることができた。
- 韓国の先生方を生でお会いできたことが素晴らしい。
- ESD を推進する機運が高まる感じがした。

苦勞した点

- 給食時間の会話を継続するのが難しかった。
- 地域協働学校の役員に方にも来ていただいたのはよかったが、地域が学校を支えていると実感できる交流の場が少なかったのではないかと。 (掲示物ではわかりやすかったが・・・)

加えるとよいと思われる活動

- 時間的に難しいかも知れないが、韓国の先生と子どもたちが遊ぶ(ふれあう)時間があるとよかった。(韓国の先生にマジックショーを見せていただいた。)
- もう少し長い時間滞在できれば、ゆっくりしてもらえたのではないかと。
- 子どもたちが韓国のことについて調べ、それを掲示したり、授業で発表したり、実際に質問したりという活動ができていたらよかった。
- 参観授業は、参画型がよかったと思う。

プログラム改善に向けた助言

- 時間的にゆとりのあるプログラムにするのがよい。休憩時間を使って、一緒に遊ぶ時間があると互いによい交流となるのではないかと。

●岡山市立藤田中学校

教諭

清水 義久

プログラムの全体的な印象

- 藤田中への出迎えに対して、驚きと感動をもって応えてくれたことに大きな喜びを覚えます。そのおかげで、生徒たちは、リハーサル以上の動きができました。
- 韓国の先生方の授業の中で、徴兵されたときの2年間の体験をおもしろおかしく、そして真摯に話されたことが特に印象に残っています。

プログラム成果

- 国際交流は、やる気と気持ちさえあれば、言葉は分からなくても通じ合えるということが体感できました。生徒は、外国をより身近に、より親しみと安心感をもって、これから見つめることができると思います。さらに、海外に向けての視野が広がり、外国語に今まで以上に興味を持つ

て熱心に取り組むようになりました。

苦勞した点

- より良いものを目指してお互いに情報交換をしながら、試行錯誤を重ねたことが結果として大成功につながったと思います。答えのない問題にどう対処していくか、ESD 国際交流会その取り組みそのものがESD だというご意見もいただきました。
- 当日、パソコンとプロジェクターとのセッティングがうまくいきませんでした。事前に確認する時間と手段を確保したいです。また、バスの到着時間が大幅に遅れました（20分程度）。添乗員だけに任せて良いものでしょうか。
- 事前活動においては、韓国語の勉強、飾り付けの準備等の時間が足りませんでした。1月開催は、冬休みが途中に入り、学期末は通知表を作成するといったことも加わり、大きな取り組みをするうえで、少しやっかいです。
- 費用の面においてもっと援助してほしいです。

加えるとよいと思われる活動

- 交流を終えたあとのつながり（現場を離れても）をもっと意識していきたいです。例えば、お互いに感想を交換し合うといったことです。特に、生徒の感想は、韓国の先生方にとって求めてやまないものだと思います。

プログラム改善に向けた助言

- プログラムの中に、生徒を巻き込んだ活動を取り入れることで、ESDを担う若者の育成につながっていくと思います。生徒の自主性、自立心を育てる大きなチャンスだと捉え、積極的に関与させることが大切

だと考えます。

●岡山県立岡山南支援学校

副校長

藤澤 達郎

プログラムの全体的な印象

- 障害のある子供たちの人権問題については、どこの国も大切にしていかなければならないものであると再確認させられた。

プログラム成果

- 事前にインターネット等で韓国の障害児教育について学習していたので、話し合いの場を設けることで、より理解を深めることができた。

苦勞した点

- できれば、子供たちの授業の様子を見ていただいたり、子供たちと一緒に交流活動ができれば良かったと思われました。

Eグループ（東京近郊）

●筑波大学附属坂戸高等学校

主幹教諭 石井 克佳
教諭 竹内 義晴

プログラムの全体的な印象

- とても熱心に好奇心旺盛に質疑をされ、短い時間を有効に貪欲に活用していたと思います。大変好印象を持ちました。
- 教材や授業内容など様々な点に好奇心があるように思いました。

プログラム成果

- 韓国のESDやレインボープロジェクトについての報告を聞くことができました。受験一辺倒かと思っておりましたが、そうでない部分もあることを知りました。
- 自身は韓国に友人もいますし、過去4回ほど旅行していますので、とくに新鮮な印象はありません。むしろ、普通のおつきあいを進めたいと思います。
- 情報交換が出来、今後につながるものが見えてきたと思います。

苦労した点

- 校内的には、入試の準備の最中です。3年生はこの週末が大学入試センター試験です。大変慌ただしい時期に韓国教員の皆様をお迎えすることになってしまいました。部屋が狭かったり、時間配分に余裕がなかったりと不十分な点があったと思いますが、ご勘弁下さい。
- もう少し早く、期日及び特に何を知らたいかがわかれば、今回以上のよりよい交流が出来ると思います。

加えるとよいと思われる活動

- ディスカッションの時間が短かったので、次回行うときはもう少し時間に余裕を持つようにしたいと思います。

います。

プログラム改善に向けた助言

- 1月12日夕方の交流会に参加しました。韓国教員の方々の民族衣装姿は、大変すばらしかったです。特に男性の衣装はめったに見る機会がないので、とても新鮮な印象を受けました。
- 交流会の挨拶が1時間以上続きましたが、長いと思います。立ったままじっとしているのは辛いです。ビールの泡が消えてからの乾杯は美味しくありませんでした。

Eグループ（福岡県）

●福岡県教育センター

主事 山口 義雄

プログラムの全体的な印象

- 勤務時間、英語教育、大学進学、体罰、いじめ、管理職制度等について大変活発な意見交換が行われた。韓国の管理職制度はポイント制となっており、へき地勤務等でポイントが加算される点が、日本と異なって印象に残った。また、日本では他人に興味を示さない子どもが増えていのように感じるといった話題が韓国側では印象に残った様子であった。

プログラム成果

- 意見交換では韓国側の教育事情も知ることができ、参加した職員各々に新しい発見があった。レセプションでは、アトラクション披露もあって和やかな雰囲気となり、意見交換とは違った日常の話をすることができて大変貴重な時間であった。

苦労した点

- 通訳の力量の差が大きく、十分な意見交換が行われなかったグループ

もあった。

- 一部意見が出にくいグループもあり、事前に「こんなことが話したい、こんな情報が知りたい」といった打合せが韓国側でも簡単に行われていると良いと思われた。
- 英語教員グループは英語で意見交換を行った。話題を絞っていなかったため、センター側の意見交換者の事前準備が大変だった。グループによっては話題を限定しておく必要があった。

●福岡県立城南高等学校 教頭

合屋 伸一

プログラムの全体的な印象

- 熱心かつ積極的な態度と率直な表現力をもつ先生方の訪問で、準備の段階で想像していた以上に、交流会は活発な意見交換の場となった。
- 特に、生徒指導のあり方について、強い興味・関心を持ってあることが印象に残った。

プログラム成果

- 交流希望の生徒を募ったところ、予定の人数を超える多くの生徒が自ら手をあげた。以前と比較して、生徒の中に国際交流に対する意識が高まっていることを認識できた。
- グローバルコミュニケーションに対する生徒の意識を醸成するよい機会となった。

苦勞した点

- 大学入試センター試験の直後だったので、学校全体で受け入れるだけの余力がなく、1・2年生に関係している教員と1・2年生の交流希望生徒を中心とした態勢で取り組んだ。
- 特別なイベントは行わず、学校説明、授業及び施設見学、生徒・教員との意見交換など、普段着のプログラム

を準備することで対応した。

プログラム改善に向けた助言

- 1月から3月にかけての時期は、大学入試および高校入試に関わる日程などがつまっており、この時期の交流は、どうしても一部の教員だけで対応することになってしまい、負担感が増すことになる。

●福岡県立輝翔館中等教育学校 教頭

野瀬 義也

プログラムの全体的な印象

- 本校にとって外国からの学校訪問は初めてのことであり、言葉や文化の違いの上で、十分な本校の紹介ができるか不安が多くあったが、訪問を終え、同じ教職員同士という背景もあり、概ねご理解いただけたのではないかと認識している。本校生徒の教育活動の一つである「茶道」の体験では強く興味を示されていたことや意見交換においては習熟度別カリキュラムの具体的編成について触れられていたことは印象的であった。

プログラム成果

- 教育に力を入れている韓国からの訪問ということで、授業見学においては本校職員にも良い意味での緊張感や刺激があったと感じている。また、職員同士の意見交換ができたことは、双方の教育環境の違いなど理解するうえで有意義であったと思われる。

苦勞した点

- 滞在時間が限られているため、プログラム企画を多く組むと後半のグループ分割時では、プログラム内容と生徒の授業時間帯が一致させられず、通常授業を担当する教員とプ

プログラムに関係する教員の担当割り、それらに関わる時間割編成などの事前のやりくりで苦勞した。

加えるとよいと思われる活動

- 予備知識として、事前又は当日配布資料(参加者関係に限らず一般的韓国の教育事情、概況等紹介する簡単なもの)があれば参考になると思われる。

●福岡県立古賀特別支援学校 教頭 島津 快忠

プログラムの全体的な印象

- 日本の特別支援教育、特別支援学校の教育について、少しでも理解が深まったのであれば、幸いです。
- 授業の中で生徒と交流する際、言葉は通じずとも、笑顔で、また真摯に生徒と向き合っておられる姿が印象的でした。
- 研修後、いろいろな質問がありましたが、意欲的、積極的な姿勢は我々も学ばなければと感じました。

プログラム成果

- 本校の教育、また特別支援教育の概要を説明しましたが、改めて本校教育の柱、特別支援教育制度について、整理する機会となりました。

苦勞した点

- 短時間の視察であったので、説明、見学、交流といった内容を盛り込むことに、少々苦勞しました。
- 韓国語で資料を作成しましたが、誤記が多く、かえってご迷惑をおかけしました。

プログラム改善に向けた助言

- 視察団の大半が普通教育にかかわる方だったと思いますが、研修の中に特別支援教育にかかわる内容が

あることをうれしく感じました。

- もう少し長時間の視察であれば、また小規模の集団であれば、より研修の効果が上がるのではないかと感じました。

●学校法人福岡工業大学 総務部 部長 山本 修一

プログラムの全体的な印象

- 施設案内並びに高校・大学概要紹介とも熱心にお聞きいただき真剣な研修であることを実感しました。最後の質疑応答でも留学生、編入学、就職状況、初任給、高校からの内部進学等、積極的な発言が印象に残っています。

プログラム成果

- 施設訪問受入に係わった7部門において、事前準備、当日の案内など改めて説明要領の整備に繋がりました。(情報処理センター、短期大学部、図書館、管財課、国際交流支援室、総務課、城東高校)

苦勞した点

- 新年を迎え、大学入試センター試験の直後、本大学独自の入試願書受付期間中、かつ、学年末試験を控えた時期であり、日程調整、プログラム設定に時期的な難しさがありました。

※主な訪問受入れ学校および機関のコメントと提案は、プログラム後記入を依頼した「協力機関評価票」を一部漢字の修正を除き、原文に忠実に記載しています。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. ACCU 事業紹介資料
7. 過去のプログラム実績

◆付録 1. 実施要項

韓国教職員招へいプログラム

(2012年1月11日～22日：東京、大阪、埼玉、京都、宮城、岡山、福岡)

実 施 要 項

1. 背 景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。

第12回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育科学技術部および各教育委員会のご協力のもと、2012年1月11日(水)から1月22日(日)までの12日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員約150名を日本に招へいします。

2. 目 的

- (1) 日本の教育制度およびその現状を紹介するとともに、国際理解教育(EIU)および持続発展教育(ESD)について地域の好事例を紹介する。
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
- (3) 日本の文化全般に対する理解を深める。
- (4) 日韓教職員のネットワーク構築・強化に寄与する。
- (5) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

3. 日 程

本プログラムは、東京、日本各地の受入れ県・市・町および大阪において、下記の日程で実施される予定です。

日付	日程	訪問先	活動
1月11日(水)	第1日	東京	日本到着 オリエンテーション
1月12日(木)～ 14日(土)	第2-4日 (3日間)	東京	開会式・講義 学校見学(授業見学、教員・児童生徒との交流) 教育文化施設視察
1月15日(日)～ 19日(木)	第5-9日 (5日間)	*5グループ (30名程度) に別れ、各自 自治体訪問	訪問先へ移動 ホームビジット、教育長表敬、教育概要説明 学校訪問(授業見学、教員・児童生徒との交流) 教育文化施設視察 グループ別情報交換会 教育委員会、ACCU主催の歓迎交流会
1月20日(金)～ 21日(土)	第10-11日 (2日間)	大阪	大阪へ移動 報告会・閉会式
1月22日(日)	第12日		日本出発

* 第5-9日目の間、参加者は5グループに分かれ、指定された自治体を訪問する。

* 5グループは各30名程度とし、以下のグループ分けとする。

Aグループ(おもに小学校教職員)埼玉県さいたま市

Bグループ(おもに小学校教職員)京都府与謝野町

Cグループ(おもに中学校・高等学校教職員)宮城県気仙沼市

Dグループ(おもに中学校・高等学校教職員)岡山県岡山市

Eグループ(おもに高等学校教職員)福岡県

* 各グループの代表者は、各自治体での活動について、第 11 日に大阪での報告会で報告する。

4. 参加者数

約 150 名

5. 参加資格

- (1) 大韓共和国の国民であること
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
- (4) プログラムの全日程に参加が可能であること

なお、参加者は、①45 歳以下で教員経験 3 年以上のもの、②日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、③ 国際理解教育、持続発展教育 (ESD) の分野において積極的な活動を行っているもの、④英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6. 評価と報告

日本出発前(第 11 日)

- (a) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
- (b) 各グループの代表 1 名は、報告会において発表を行う。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

- (1) 往復航空運賃
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
- (2) 滞在費
到着日から帰国日前日までの計 11 日間、1 日 1 人当たり規定額。
- (3) 宿泊と食事
プログラム期間中のシングルルーム(朝食含)、および自由行動日以外の昼食。夕食は原則として、滞在費から各自が支払うこととする。
- (4) 日本国内の移動旅費
プログラム期間中の、自由行動日以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通訳

ACCU はプログラム期間中、通訳者(日-韓)を必要に応じて手配する。なお、各県・市・町への訪問時には、専門の通訳が随行する。

10. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 人物交流課 担当:米島 (課長:佐々木)
〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館
TEL: 03-3269-4498
FAX: 03-3269-4510
E-MAIL: yoneshima@accu.or.jp, sasaki@accu.or.jp

◆付録 2. 프로그램日程

(1) 全体プログラム (東京)

제1일 第1日	1월11일(수) 1月11日(水)
9:00	당일 복장:캐주얼 / 当日の服装:カジュアル 서울 인천공항 출발(OZ102)/ソウル(仁川)発(アジアナ航空102便)
11:10	도쿄국제공항(나리타) 도착/ 東京国際空港(成田) 着
12:45-13:45	점심 / 昼食
15:00	호텔 메트로폴리탄에드몬트 도착 ホテルメトロポリタンエドモント着
16:00-17:00	오리엔테이션 (호텔 메트로폴리탄에드몬트 "유우쿠우") オリエンテーション(ホテルメトロポリタンエドモント「悠久」)
18:00-20:00	저녁 식사 (호텔 메트로폴리탄에드몬트 "하코우(波光)" "쿤푸(薫風) ") 夕食(ホテルメトロポリタンエドモント「波光」「薫風」)
제2일 第2日	1월12일 (목) 1月12日(木)
9:30-10:15	당일 복장:비즈니스 / 当日の服装:ビジネス 개회식 (호텔 메트로폴리탄에드몬트 "유우쿠우") 開会式(ホテルメトロポリタンエドモント「悠久」)
10:30-12:00	강의 (1) 문부과학성:「일본의 초·중·고등학교의 현황에 대해서」(「유우쿠우」) 講義(1)文部科学省:「日本の初等中等教育の現状について」(「悠久」)
12:00-14:00	점심(호텔 메트로폴리탄에드몬트 "하코우(波光)" "쿤푸(薫風) ") 昼食(「波光」「薫風」)
14:00-15:30	강의 (2) 문부과학성:「일본의 ESD의 현황에 대하여」(「유우쿠우」) 講義(2)文部科学省:「日本のESDの現状について」(「悠久」)
15:40-16:10	ACCU 사업소개: 'ACCU의 ESD 교재' (「유우쿠우」) ACCU事業紹介:「ACCUのESD教材」(「悠久」)
18:00-19:45	환영 교류회("만리") 歓迎交流会(「万里」)
제3일 第3日	1월 13일 (금) 1月13日(金)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/ 当日の服装:ビジネスカジュアル
	<Group A>
8:00	호텔 출발/ ホテル発
9:25-15:40	요코하마시립 나가타다이 초등학교 방문(급식 교류)/ 横浜市立永田台小学校訪問(給食交流)
17:00	호텔 도착/ ホテル着
	<Group B>
9:00	호텔 출발/ ホテル発
10:00-16:00	이치카와 시립 이나고시 초등학교 방문(급식 교류)/ 市川市立稲越小学校訪問(給食交流)
16:00-17:00	제1회정보공유회 (이나고시 초등학교)/ 第1回情報共有会(稲越小学校)
18:00	호텔 도착/ ホテル着
	<Group C>
9:20	호텔 출발/ ホテル発
10:00-15:00	아라가와 구립 하라 중학교 방문(급식 교류) / 荒川区立原中学校訪問(給食交流)
15:30-17:30	에도도교박물관/江戸東京博物館
18:00	호텔 도착/ ホテル着
	<Group D>
8:50	호텔 출발/ ホテル発
09:50-15:10	자유학원'남자부 중등과 고등과·여자부 중등과 고등과 방문(점심)/ 自由学園男子部中等科高等科・女子部中等科高等科訪問(昼食)
16:30-17:30	제1회정보공유회 / 第1回情報共有会
17:40	호텔 도착/ ホテル着
	<Group E>
8:50	호텔 출발/ ホテル発
10:00-16:30	쓰쿠바대학 부속 사카도중학교,고등학교 방문(점심) / 筑波大学附属坂戸中学校・高等学校訪問(昼食)
17:40	호텔 도착/ ホテル着
제4일 第4日	1월14일 (토) 1月14日(土)
	당일 복장:캐주얼/ 当日の服装:カジュアル 자유연수 / 自主研修

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【A그룹 : 埼玉県さいたま市 (主に小学校教員)】

제5일 第5日	1월15일(일) 1月15日(日)
	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル
10:30	호텔 체크아웃 사이타마시 로 이동/ホテルチェックアウトさいたま市へ移動
11:30-12:30	제1회 정보공유회 (라후레 사이타마) /第1回情報共有会(ラフレさいたま)
12:30-13:30	점심 / 昼食
13:50	호텔 라후레 사이타마 도착, 체크인 /ホテルラフレさいたま着、チェックイン
14:30-15:00	가정방문 대면식 (라후레 사이타마 "쿠스노키") ホームビジット対面式(ラフレさいたま「楠」)
15:00-20:00	가정 방문 / ホームビジット
제6일 第6日	1월16일(월) 1月16日(月)
	당일 복장:비즈니스/当日の服装:ビジネス
9:00	호텔 출발 / ホテル発
9:30-10:00	감사인사차 방문 (사이타마 시립 교육 연구소 2층 제2연구실) さいたま市長表敬訪問(さいたま市立教育研究所2F 第2研修室)
10:00-11:40	사이타마시 교육 개요 오리엔테이션 (교육장 인사) /さいたま市教育概要オリエンテーション(教育長ご挨拶)
12:00-13:00	점심 / 昼食
13:30-16:00	사이타마시립 양호학교 방문/さいたま市立養護学校訪問
16:40	호텔 도착 / ホテル着
18:00-20:00	환영 교류회 (라후레 사이타마 "케야키") 歓迎交流会(ラフレさいたま「樺」)
제7일 第7日	1월17일(화) 1月17日(火)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル
9:10	호텔 출발 / ホテル発
10:00-16:00	사이타마시립 가미사토 초등학교 방문(점심) /さいたま市立上里小学校訪問(昼食)
17:00	호텔 도착 / ホテル着
제8일 第8日	1월18일(수) 1月18日(水)
	당일 복장:비즈니스 캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル
9:30	호텔 출발 / ホテル発
10:00-16:00	사이타마시립 사쿠라기 초등학교 방문 (급식교류)/さいたま市立桜木小学校訪問 (給食交流)
16:30	호텔 도착 / ホテル着
제9일 第9日	1월19일(목) 1月19日(木)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル
9:30	호텔 출발 / ホテル発
10:00-11:30	사이타마시립방재센터 시찰/さいたま市立防災センター視察
12:30-13:10	점심 / 昼食
13:30-16:00	사이타마시립 오마기 초등학교 방문 /さいたま市立尾間木小学校訪問
16:40-17:50	정보공유회 (라후레 사이타마 "쿠스노키") 情報共有会(ラフレさいたま「楠」)
18:00	호텔 도착 / ホテル着
제10일 第10日	1월20일(금) 1月20日(金)
	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル
8:00	호텔 체크아웃 /ホテルチェックアウト
11:00	하네다 공항 출발 (ANA21) / 羽田空港発(ANA21)
12:05	이타미 공항 도착 /伊丹空港着
12:30-13:30	점심 / 昼食
14:30	리가 로얄 호텔 오사카 도착, 체크인 /リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【B 그룹 : 京都府与謝野町 (主に小学校教員)】

제5일 第5日	1월15일 (일) 1月15日 (日)
	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル
6:50	호텔 체크아웃 하네다 공항으로 이동(버스)/ホテルチェックアウト 羽田空港へ移動(バス)
8:30	하네다 공항 출발(JL107)/羽田空港発 (JL107)
9:40	이타미공항도착/伊丹空港着
	점심 / 昼食
	하시다테 베이 호텔 도착, 체크인/橋立ベイホテル着、チェックイン
15:00-16:00	호스토페틸리와의 인사/ホストファミリーとの対面
16:00-20:00	가정 방문 / ホームビジット
제6일 第6日	1월16일 (월) 1月16日 (月)
	당일 복장:비즈니스/当日の服装:ビジネス
9:00	호텔 출발/ホテル発
9:30-11:30	교육장에 감사인사차방문(원기관:농사연구실)教育長表敬訪問(元気館:農事研修室) 요사노초 교육개요 오리엔테이션(교육장의 인사)/与謝野町教育概要オリエンテーション(教育長ご挨拶)
12:00-13:15	점심 / 昼食
13:25-16:30	요사노초립요자 초등학교 방문/与謝野町立与謝小学校訪問
17:00	호텔 도착/ホテル着
17:30	호텔 출발/ホテル発
18:00-20:00	환영교류회(호텔 키타노야 '하모니 홀')/歓迎交流会(ホテル北野屋「ハーモニーホール」)
제7일 第7日	1월17일 (화) 1月17日 (火)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル
8:15	호텔 출발/ホテル発
8:30-11:55	요사노초미야즈시 중학교, 하시다테 조합식(組合立) 중학교 방문/ 与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校訪問
12:20-13:30	점심 / 昼食
13:30-16:30	급식센터, 탄고치리멘 역사박물관 견학/給食センター、丹後ちりめん歴史館見学
17:00	호텔 도착/ホテル着
제8일 第8日	1월18일 (수) 1月18日 (水)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル(歩きやすい靴)
8:40	호텔 출발/ホテル発
9:00-11:30	요사노초립이와야 초등학교 방문/与謝野町立岩屋小学校訪問
12:00-12:50	점심 / 昼食
13:00-17:00	구 비토오 가 가옥, 고분공원, 코우잔문고 견학 /旧尾藤家、古墳公園、江山文庫 見学
	호텔 도착/ホテル着
제9일 第9日	1월19일 (목) 1月19日 (木)
	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル
8:40	호텔 출발/ホテル発
9:00-13:00	요사노초립이치바 초등학교 방문(급식교류)/与謝野町立市場小学校訪問(給食交流)
13:30-16:00	교토부립 요사노우미 지원학교 방문 /京都府立与謝の海支援学校訪問
16:10	호텔 도착/ホテル着
제10일 第10日	1월20일 (금) 1月20日 (金)
	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル
9:00	호텔 체크아웃 아웃 /ホテルチェックアウト
9:30-11:30	정보공유회(원기관:농사연구실) /情報共有会(元気館:農事研修室)
12:00-13:00	점심 / 昼食
16:00	리가 로얄 호텔 오사카 도착, 체크인 /リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【C그룹: 宮城県気仙沼市 (主に中学校・高等学校教員)】

제5일 第5日	1월15일(일) 1月15日(日)
8:30	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크아웃 도쿄 역으로 이동/ホテルチェックアウト 東京駅へ移動
9:40	도쿄역출발(아마비코55)/東京駅発(やまびこ55)、점심 / 昼食(車中)
12:13	이치노세키 역에 도착/ 一ノ関駅着
14:30	산마린케센누마칸요우 호텔 도착, 체크인/サンマリン気仙沼ホテル観洋着、チェックイン
15:00-15:30	가정방문 대면식(산마린케센누마 호텔 칸요우 베르사유) ホームビジット対面式(サンマリン気仙沼ホテル観洋 ベルサイユ)
15:30-20:00	가정 방문 / ホームビジット
제6일 第6日	1월16일(월) 1月16日(月)
9:00	당일 복장:비즈니스/当日の服装:ビジネス 호텔 출발, 케센누마시가 피해지역시찰/ホテル発、気仙沼市街被災地視察
11:00	케센누마시시장, 교육장에 감사인사차방문(케센누마 시약소) 気仙沼市長・教育長表敬訪問(気仙沼市役 케센누마시 교육 개요 오리엔테이션 /気仙沼市教育概要オリエンテーション 점심(케센누마 시약소) / 昼食 (気仙沼市役所)
14:00-15:00	엔은관 (오치아이나오후미의 태어난 집)설명, 견학, 다도체험/煙雲館(落合直文の生家)説明、見学、茶道
15:00-16:00	제1회 정보공유회(엔은관) /第一回情報共有会 (煙雲館)
16:30	호텔 도착/ホテル着
18:00-20:00	환영교류회(산마린케센누마 호텔 칸요우 베르사유) 歓迎交流会(サンマリン気仙沼ホテル観洋 ベルサイユ)
제7일 第7日	1월17일(화) 1月17日(火)
8:30	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
8:45-11:40	미야기현립 케센누마 지원학교 방문/宮城県立気仙沼支援学校訪問
12:00-12:50	점심 / 昼食
13:00-15:45	미야기현립 케센누마 고등학교 방문/宮城県立気仙沼高等学校訪問
16:00	호텔 도착/ホテル着
제8일 第8日	1월18일(수) 1月18日(水)
9:30-12:30	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル ASPnet 교류회(방청자로 참가)(산마린케센누마 호텔 칸요우 베르사유) ユネスコスクール交流会in気仙沼へのオブザーバー参加 (サンマリン気仙沼ホテル観洋 ベルサイユ) 점심(교류회회장) / 昼食(交流会会場)
13:00	호텔 출발/ホテル発
13:15-16:15	케센누마시립 케센누마 학교 방문/気仙沼市立気仙沼中学校訪問
16:30	호텔 도착/ホテル着
제9일 第9日	1월19일(목) 1月19日(木)
9:00	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
9:30-13:20	케센누마시립 고히라기 중학교 방문 (급식교류) /気仙沼市立小原木中学校訪問(給食交流)
14:00-14:30	오토코야마주조(술 양조장)방문/男山酒造(造り酒屋)訪問
14:50	호텔 도착/ホテル着
15:00-16:00	제2회 정보공유회(산마린케센누마 호텔 칸요우 베르사유) 第二回情報共有会 (サンマリン気仙沼ホテル観洋 ベルサイユ)
제10일 第10日	1월20일(금) 1月20日(金)
9:00	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크아웃 /ホテルチェックアウト
12:15	센다이공항 도착 / 仙台空港着、점심 / 昼食
14:30	센다이공항 출발 (NH736) / 仙台空港発(NH736)
16:00	이타미 공항 도착 / 伊丹空港着
16:30	리가 로얄 호텔 오사카 도착, 체크인//リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン

◆付録 2. プログラム日程

(2) グループプログラム

【Dグループ：岡山県岡山市（主に中学校・高等学校教員）】

제5일 第5日	1월15일(일) 1月15日(日)
7:10	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크아웃,하네다 공항으로 이동/ホテルチェックアウト 羽田空港へ移動
08:50-10:00	하네다 공항 →오카야마공항(JL1681)/羽田空港→岡山空港(JL1681)
11:40-14:00	타카시마공민관 방문(점심포함) (1)오카야마시 역사,문화,ESD에 관한 오리엔테이션 (2)타카시마지역의 ESD 활동 소개 (3)아유모도키(물고기의 일종)보호현장 견학 高島公民館訪問(昼食含む) (1)岡山市の歴史・文化とESDオリエンテーション (2)高島地区のESD活動紹介 (3)アユモドキ保護の現場見学
14:30	오카야마 젠닛쿠(ANA)호텔 도착, 체크인/岡山全日空ホテル着、チェックイン
15:00-15:30	가정방문대면식(퓨아리티마키비 3층 '히쇼우'회의실)ホームビジット対面式(ピュアリティまきび 3F「飛翔」)
15:30-20:00	가정 방문 / ホームビジット
제6일 第6日	1월16일(월) 1月16日(月)
8:40	당일 복장:비즈니스캐주얼(환영교류회:비즈니스)/当日の服装:ビジネスカジュアル(歓迎交流会はビジネス) 호텔 출발/ホテル発
8:50	시약소(시청)도착,회장으로 이동 /市役所着 会場へ移動
09:00-10:40	오카야마시 교육개요 오리엔테이션(시약소맞은편 훗도프라자 5층 회의실) / 岡山市 教育概要オリエンテーション(市役所向かい「ほっとプラザ」5F会議室)
10:50-12:20	점심 / 昼食
12:30-16:30	오카야마현립 코우요우 고등학교 방문/ 岡山県立興陽高等学校訪問
17:00	호텔 도착/ホテル着
18:00-20:00	환영교류회(퓨아리티마키비 2층 '치도리') / 歓迎交流会(ピュアリティまきび 2F「千鳥」)
제7일 第7日	1월17일(화) 1月17日(火)
7:50	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
8:30-10:00	후지타지구ESD활동 소개(후지타지역 센터)/藤田地区のESD活動紹介(藤田地域センター)
10:30-13:40	15명 : 오카야마시립제1후지타 초등학교 방문(급식교류)/岡山市立第一藤田小学校訪問(給食交流)
10:40-13:30	15명 : 오카야마시립제2후지타 초등학교 방문(급식교류)/岡山市立第二藤田小学校訪問(給食交流)
14:00-16:40	오카야마시립후지타 중학교 방문/岡山市立藤田中学校訪問
17:10	호텔 도착/ホテル着
제8일 第8日	1월18일(수) 1月18日(水)
9:00	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
9:30-13:00	와카야마시립제3후지타 초등학교 방문(점심)/岡山市立第三藤田小学校訪問(昼食)
13:30-16:30	오카야마현립 오카야마 미나미 지원학교 방문/岡山県立岡山南特別支援学校訪問
17:00	호텔 도착/ホテル着
제9일 第9日	1월19일(목) 1月19日(木)
9:05	당일 복장:비즈니스(걷기 편한 신발)/当日の服装:ビジネス(歩きやすい靴) 호텔 출발/ホテル発
9:15	시약소(시청)도착/市役所到着
09:30-10:00	시장,교육장에 방문(시약소본청사 3층"제3회의실")/市長・教育長表敬訪問(市役所本庁舎3F「第3会議室」)
10:00-11:00	3과 합동 한국교직원의 감상 발표회(시약소본청사 3층"제3회의실")/3課合同 韓国教職員の感想を聞く会(市役所本庁舎3F「第3会議室」)
11:30-12:30	점심/昼食
12:30-14:30	코우라쿠엔 견학(치수(治水)에 관한 방안을 중심으로)/後楽園見学(治水の工夫などを中心に)
15:00-18:00	교야마공민관 방문(1)공민관 활동 시찰, 교야마지역 ESD활동 소개 (2)ESD 대안 교류회(오카야마대학 대학원 교육학 연구과 쿠와바라연구실, 대학원생의 초등학생 대상의 바다쓰레기문제 연구 프로그램 발표와 한국교직원의 의견교환) 京山公民館訪問(1)公民館活動視察と京山地域のESD活動紹介 (2)ESD取組交流会(岡山大学大学院教育学研究科 桑原研究室 大学院生による小学生への海ごみ問題学習プログラムについて発表および韓国教職員との意見交換)
18:15	호텔 도착/ホテル着
제10일 第10日	1월20일(금) 1月20日(金)
10:20	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크아웃,하네다 공항으로 이동/ホテルチェックアウト
10:30-11:30	정보교류회(퓨아리티마키비 3층 '히쇼우' / 情報共有会(ピュアリティまきび 3F「飛翔」)
11:30-12:30	점심 / 昼食
12:30	오카야마시 출발/岡山市出発
16:00	리이가로알 호텔 오사카 도착, 체크인/リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【E 그룹 : 福岡県 (主に高等学校教員)】

제5일 第5日	1월15일(일) 1月15日(日)
8:15	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크인,하네다 공항으로 이동/ホテルチェックアウト 羽田空港へ移動
9:45	하네다 공항 출발(NH247)/羽田空港発(NH247)
11:40	후쿠오카 공항 도착/福岡空港着
13:00	후쿠오카 리이센토 호텔 도착/福岡リーセントホテル着
13:00-15:00	점심, 오리엔테이션(후쿠오카 리이센토 호텔), 체크인/昼食、県オリエンテーション(福岡リーセントホテル)チェックイン
15:00-20:00	가정 방문 / ホームビジット
제6일 第6日	1월16일(월) 1月16日(月)
8:30	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
9:00-10:00	후쿠오카 교육장에 방문(교육청제1회의실)/福岡県教育長表敬訪問(教育庁第一会議室)
10:30-12:00	교육센터 방문/教育センター訪問
12:15-13:15	점심(교육센터 식당)/昼食(教育センター食堂)
15:00	교육센터 출발/教育センター発
15:45	하카다야' 고향박물관 방문/「博多町屋」ふるさと館訪問
17:30	호텔 도착/ホテル着
18:00-20:00	환영 교류회(후쿠오카 리이센토 호텔 '레인보우 홀')/歓迎交流会(福岡リーセントホテル「レインボーホール」)
제7일 第7日	1월17일(화) 1月17日(火)
8:30	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 체크인, 짐을 들고 이동/ホテルチェックアウト 荷物を持って移動
9:00-14:00	조우난 고등학교 방문 /城南高等学校訪問
14:30	후쿠오카시민방재센터,로보광장,후쿠오카 타워 견학 / 福岡市民防災センター、ロボスクエア、福岡タワー見学
19:00	산토우루 하카타 호텔 도착, 체크인 / ホテルサンルート博多着、チェックイン
제8일 第8日	1월18일(수) 1月18日(水)
7:45	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
8:00	신칸센(하카타역 출발)/博多駅発新幹線にて移動
9:10	키쇼칸 중등교육학교 방문/輝翔館中等教育学校訪問
12:30-13:30	점심 / 昼食
14:30	다자이후텐만궁 등 견학/太宰府天満宮等見学
15:00-17:00	큐슈 국립 박물관 방문/九州国立博物館訪問
18:00	호텔 도착/ホテル着
제9일 第9日	1월19일(목) 1月19日(木)
8:20	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 호텔 출발/ホテル発
9:15-11:30	고가 특별지원학교 방문/古賀特別支援学校訪問
12:00-13:00	점심(후쿠오카 공업대학 식당)/昼食(福岡工業大学食堂)
13:00-16:00	후쿠오카 공업대학 방문/福岡工業大学訪問
17:00	카나루시티에서 자유 해산(解散) 후, 각자 호텔 도착 / 希望者はキャナルシティで自由解散後、ホテル到着
제10일 第10日	1월20일(금) 1月20日(金)
8:50	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔 체크인 /ホテルチェックアウト
9:00-11:00	정보공유회/情報共有会
12:25	후쿠오카 공항 출발(NH1706)/福岡空港発(NH1706)
13:25	칸사이 공항 도착 / 関西空港着
14:00-15:00	점심 / 昼食
17:00	리가 로얄 호텔 오사카 도착, 체크인 /リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン

◆付録 2. 프로그램日程

(1) 全体プログラム (大阪)

제11일 第11日	1월21일(토) 1月21日(土)
--------------	----------------------

9:00-12:00	당일 복장:비즈니스캐주얼/当日の服装:ビジネスカジュアル 보고회 (리가NCB '마쯔노마') 報告会 (リーガNCB「松の間」)
12:00-13:00	폐회식 (리가NCB '마쯔노마') 閉会式 (リーガNCB「松の間」)

제12일 第12日	1월22일(일) 1月22日(日)
--------------	----------------------

6:00	당일 복장:캐주얼/当日の服装:カジュアル 호텔출발(체크아웃), 칸사이공항으로 이동 ホテル発(チェックアウト)、関西空港へ移動
8:30	호텔출발(체크아웃), 칸사이공항으로 이동 ホテル発(チェックアウト)、関西空港へ移動
9:20	서울(인천)로 출발(OZ119) 空路ソウル(仁川)へ(アジアナ航空119便)
11:20	서울(인천) 도착/ソウル(仁川)着
11:50	부산(김해)공항으로 출발(OZ143) 空路釜山(金海)へ(アジアナ航空143便)
13:20	부산(김해) 도착/釜山(金海)着

◆付録 3. 参加者リスト

【Aグループ：埼玉県さいたま市（主に小学校教員）】30名

그룹 장: No.A-10 김종덕 (그룹장: 김 Чон도ク)

그룹 코디네이터: No.A-30 박명진 (그룹코디네이터: 박 Мион진)

No	Name (Kor)	Name (Last)	Name (First)	Name (로마자)		Sex (M/F)	School/Org name (Eng)	Title	Subjects	School (City/Province)	
A-1	안상수	AN	SANGSOO	안	상스	M	Cheonil Elementary School	Teacher	English	Gyeonggi	京畿
A-2	최순옥	CHOE	SUN OK	체	스옥	F	Gyeonggi Provincial Office of Education(GPOE)	Supervisor	English & Special Education	Gyeonggi	京畿
A-3	하재영	HA	JAEOYUNG	하	제영	M	Pohang Jecheol Seo Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongbuk	慶尚北道
A-4	장현순	JANG	HYUN SOON	찬	현순	F	Jillye Elementary School	Vice Prin.	All for PS	Gyeongnam	慶尚南道
A-5	정명희	JEONG	MYEONGHEE	정	명희	F	Ulsan Hyein School	Teacher	job and art	Ulsan	蔚山
A-6	정성종	JEONG	SEONG JONG	정	성종	M	Gyeongsangnam-do Education Research & Information Center	Educational Researcher	N/A	Gyeongnam	慶尚南道
A-7	정은홍	JUNG	EUNHONG	정	은홍	F	Howon Elementary School	Teacher	Science	Gyeonggi	京畿
A-8	강민	KANG	MIN	강	민	F	Guseong Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongbuk	慶尚北道
A-9	김희수	KIM	HEESOO	김	희수	M	Andong Yeong-myeong School	Teacher	Special Education/Physical Education	Gyeongbuk	慶尚北道
A-10	김종덕	KIM	JONGDUK	김	도덕	M	Seoul Shinyongsan Elementary School	Principal	N/A	Seoul	서울
A-11	김주현	KIM	JUHYEON	김	주현	M	Namsan Elementary School	Teacher	All for PS	Gangwon	江原
A-12	김경남	KIM	KYOUNGNAM	김	경남	M	Incheon Yongjung Elementary School	Teacher	All for PS	Incheon	仁川
A-13	김명지	KIM	MYOUNG JI	김	명지	F	ChungRyeol Elementary School	Teacher	All for PS	Busan	釜山
A-14	김수연	KIM	SUEON	김	수연	F	Hae Ryong Elementary School	Principal	N/A	Jeonnam	全羅南道
A-15	김선영	KIM	SUNYOUNG	김	선영	F	Moonwoo Elementary School	Teacher	English	Gwangju	光州
A-16	권영근	KWON	YOUNG GEUN	권	영근	M	Gyeongsangbukdo Provincial Office of Education	Supervisor	N/A	Gyeongbuk	慶尚北道
A-17	이희열	LEE	HEE YEOL	이	희열	F	SeoulDukeui Elementary School	Vice Prin.	N/A	Seoul	서울
A-18	이기태	LEE	KIE TAE	이	기태	M	Chungbuk Office of Education	Supervisor	All for PS	Chungbuk	忠清北道
A-19	이상우	LEE	SANG WOO	이	상우	M	Daejeon Dongmun Elementary School	Teacher	All for PS	Daejeon	大田
A-20	이선경	LEE	SUN KYUNG	이	선경	F	Daegu Gwanmun Elementary School	Teacher	All for PS	Daegu	大邱
A-21	박선영	PARK	SUNYOUNG	박	선영	F	Jeju Special Self-Governing Provincial Office of Education	Administrator	N/A	Jeju	濟州
A-22	성현미	SEONG	HYUNMI	성	현미	F	Naebuk Elementary School	Teacher	All for PS	Chungbuk	忠清北道
A-23	성시열	SEONG	SIYEOL	성	시열	M	Daejeon Metropolitan Office of Education	Supervisor	N/A	Daejeon	大田
A-24	신인섭	SHIN	INSEOP	신	인섭	M	Inpyong Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongnam	慶尚南道
A-25	신상훈	SHIN	SANG HUN	신	상훈	M	Gangwon Myeongjin School For The Blind	Teacher	Special Education	Gangwon	江原
A-26	양길호	YANG	KILHO	양	길호	M	Jeonju Misan Elementary School	Teacher	N/A	Jeonbuk	全羅北道
A-27	양경진	YANG	KYOUNG JIN	양	경진	F	Nameo Elementary School	Teacher	All for PS	Ulsan	蔚山
A-28	유경아	YOO	KYOUNGAH	유	경아	F	Seoul Jungjin Special School	Teacher	Special Education	Seoul	서울
A-29	윤현비	YUN	HYENBI	윤	현비	F	The Attached Elementary School of Gongju National University of Education	Teacher	All for PS	Chungnam	忠清南道
A-30	박명진	PARK	MYUNGJIN	박	명진	M	Korean National Commission for UNESCO	Programme Assisstant	N/A	Seoul	서울

通訳:小嶋 寿美子、権 惠京

ACCU 随員:米島 百合子

Aグループ参加者 さいたま市立養護学校にて



Aグループ報告会発表資料より



◆付録 3. 参加者リスト

【Bグループ：京都府与謝野町（主に小学校教員）】30名

그룹 장: No.B-16 권종원 (그룹장:クオン ジョンウオン)

그룹 코디네이터: No.B-30 김민아 (그룹코디네이터:김민아)

No	Name (Kor)	Name (Last)	Name (First)	Name (로마자)	Sex (M/F)	School/Org name (Eng)	Title	Subjects	School (City/Province)
B-1	배진희	BAE	JINHEE	ベ チニ	F	Sinarm Elementary School	Teacher	English	Gwangju 光州
B-2	장진혜	CHANG	JIN HYE	チャン ジネ	F	Seoul Junggye Elementary School	Teacher	Ethics	Seoul ソウル
B-3	최일호	CHOI	IL HO	チェ イロ	M	Gang Won Provincial Office of Education	Supervisor	Education	Gangwon 江原
B-4	최명심	CHOI	MYEONG SHIM	チェ ミョン심	F	Hae Ryong Elementary School	Vice Prin.	N/A	Jeonnam 全羅南道
B-5	하정화	HA	JEONGHWA	ハ ジョンファ	F	Jinyoung-young Daechang Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongnam 慶尚南道
B-6	하영리	HA	YOUNGLEE	ハ ヨン리	F	Daehwa Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeonggi 京畿
B-7	김은아	KIM	EUNA	김 우나	F	Daekyo Elementary School	Teacher	Music	Gyeongbuk 慶尚北道
B-8	김인성	KIM	INSEONG	김 인성	M	Upo Ecology Education Center	Director	N/A	Gyeongnam 慶尚南道
B-9	김정중	KIM	JUNG JEOUNG	김 정중	M	Yong-Yeon Elementary School	Vice Prin.	All for PS	Ulsan 蔚山
B-10	김경희	KIM	KYOUNGHEE	김 켜희	F	Seoul Shinyongsan Elementary School	Teacher	All for PS	Seoul ソウル
B-11	김명기	KIM	MYEONGGI	김 명기	M	Daeso Elementary School	Teacher	All for PS	Chungbuk 忠清北道
B-12	김명남	KIM	MYUNGNAM	김 명남	M	Beomil Elementary School	Teacher	Science	Busan 釜山
B-13	김완금	KIM	WAN GEUM	김 완금	F	Siheung Maewha Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeonggi 京畿
B-14	김윤범	KIM	YUNBUM	김 윤범	M	Jeollabukdo Jangsu Office of Education	Supervisor	Instructional Method	Jeonbuk 全羅北道
B-15	권두식	KWEON	DOO SIK	クオン トゥシク	M	Inchon Gyesan Elementary School	Teacher	All for PS	Incheon 仁川
B-16	권종원	KWEON	JONGWON	クオン ジョンウオン	M	Pohangjechuldong Elementary School	Principal	Music	Gyeongbuk 慶尚北道
B-17	이기석	LEE	GISEOK	이 기석	M	Jeollanamdo Suncheon Office of Education	Supervisor	Science	Jeonnam 全羅南道
B-18	이희근	LEE	HEUI KEUN	이 희근	M	Oeseo Elementary School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
B-19	이현정	LEE	HYEON JEONG	이 현정	F	Seoul Jung Jin Special School	Teacher	Special Education	Seoul ソウル
B-20	이혜영	LEE	HYE-YOUNG	이 혜영	F	Jiseok Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeonggi 京畿
B-21	이진희	LEE	JIN HUI	이 진희	F	Jeollanamdo Jangseong Office of Education	Supervisor	English	Jeonnam 全羅南道
B-22	이말숙	LEE	MALSOOK	이 말숙	F	Busan Metropolitan City Office of Education	Supervisor	English	Busan 釜山
B-23	이여송	LEE	YEOSONG	이 여송	M	Jillye Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongnam 慶尚南道
B-24	임진숙	LEEM	JINSOOK	임 진숙	F	Gwangmyung Elementary School	Teacher	All for PS	Chungnam 忠清南道
B-25	임병제	LIM	BYEONG JE	임 병제	M	Socheon Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongbuk 慶尚北道
B-26	임관옥	LIM	KWANUK	임 관옥	M	Jeju Youngji School	Teacher	Science	Jeju 濟州
B-27	임성채	LIM	SUNG CHAI	임 성채	M	Wolsung Elementary School	Teacher	All for PS	Jeonbuk 全羅北道
B-28	성한섭	SUNG	HWANSUP	송 한섭	M	Guksan Elementary School	Principal	N/A	Gyeongnam 慶尚南道
B-29	성경제	SUNG	KYUNGJAE	송 경제	M	YangSan Elementary School	Principal	N/A	Chungbuk 忠清北道
B-30	김민아	KIM	MIN A	김 미나	F	Korean National Commission for UNESCO	Programme Specialist	N/A	Seoul ソウル

通訳:徐 清香、朴 相求、金 明美

ACCU 随行者:外山 紀子

Bグループ参加者 市川市立稲越小学校の教職員とともに



Bグループ報告会発表資料より

Ⅲ. 방문학교 프로그램

요자 초등학교

ESD
시사점 및
선택사제

- 1 하이쿠(일본)와 시조(한국) 활용 국제이해교육
- 2 학생들의 사고력과 표현력 신장, 감수성을 통한 인성교육



시사점ESD
시사점
시사점ESD
시사점

Ⅲ. 방문학교 프로그램



시사점ESD
시사점
시사점ESD
시사점

◆付録 3. 参加者リスト

【Cグループ：宮城県気仙沼市（主に中学校・高等学校教員）】30名

그룹 장: No.C-19 경혜영 (그룹장: 키ョン 헤ヨン)

그룹 코디네이터: No.C-30 김승윤 (그룹코디네이터: 키ム 슌윤)

No	Name (Kor)	Name (Last)	Name (First)	Name (ヨミガナ)	Sex (M/F)	School/Org name (Eng)	Title	Subjects	School (City/Province)
C-1	박은경	PARK	EUN KYUNG	パク ウンギョン	F	Korean National Committee on ESD/Korea Water Forum	Chair/President	N/A	Seoul ソウル
C-2	차은정	CHA	EUN JEONG	チャ ウンジョン	F	Gwangju Girls' High School	Teacher	Social Studies	Gwangju 光州
C-3	최병섭	CHOI	BYEUNG SEOB	チェ ビョンsob	M	Jillye Elementary School	Teacher	All for PS	Gyeongnam 慶尚南道
C-4	황형주	HWANG	HYEONGJU	ファン ヒョンジュ	M	Korean Minjok Leadership Academy	Vice Prin.	Chinese Character	Gangwon 江原
C-5	장석두	JANG	SEOK DOO	チャン ソクトウ	M	Daegu Seobu Office of Education	Supervisor	N/A	Daegu 大邱
C-6	장순복	JANG	SOONBOK	チャン 슌복	M	Seonghwa Middle School	Teacher	History	Chungbuk 忠清北道
C-7	전용우	JEON	YONG WOO	チョン ヂョン우	M	Daejeon Noeun High School	Principal	N/A	Daejeon 大田
C-8	정구창	JEONG	KOOCHANG	チョン クチャン	M	Daejeon Shinil Girls' High School	Teacher	English	Daejeon 大田
C-9	정숙희	JEUNG	SUGHEE	チョン 슌키	F	Yongma High School	Teacher	History	Gyeongnam 慶尚南道
C-10	강인숙	KANG	INSOOK	カン インスク	F	Gogeu Middle School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
C-11	김병호	KIM	BYUNG HO	キム ビョン호	M	Jeonju Sinheung High School	Teacher	Korean language and literature	Jeonbuk 全羅北道
C-12	김다영	KIM	DA YOUNG	キム タヨン	F	Shiheung Eunhaeng Middle School	Teacher	Social Studies	Gyeonggi 京畿
C-13	김광수	KIM	GWANG SOO	キム クァンス	M	Jeju Jeil High School	Principal	N/A	Jeju 济州
C-14	김형근	KIM	HYOUNG GEUN	キム ヒョン근	M	Cheongju Foreign Language High School	Teacher	English	Chungbuk 忠清北道
C-15	김기호	KIM	KIHO	キム 키호	M	Geochang High School	Teacher	Math	Gyeongnam 慶尚南道
C-16	김태우	KIM	TAEWOO	キム 테우	M	Ulsan Metropolitan Office of Education	Supervisor	Korean	Ulsan 蔚山
C-17	김원명	KIM	WON MYONG	키ム 워온뮂	M	Daejeon Foreign Language High School	Principal	English	Daejeon 大田
C-18	곽병남	KWAK	BYOUNG NAM	クァク 비ョン남	M	YangSan Elementary School	Teacher	All for PS	Chungbuk 忠清北道
C-19	경혜영	KYUNG	HAE YOUNG	키ョン 헤ヨン	F	Seong po High School	Principal	N/A	Gyeonggi 京畿
C-20	이대구	LEE	DAE GU	이 테그	M	Chungcheongnamdo Office of Education	Senior Supervisor	Korean	Chungnam 忠清南道
C-21	이동균	LEE	DONGGYUN	이 톤기윤	M	Daejeon Foreign Language High School	Teacher	English	Daejeon 大田
C-22	이만대	LEE	MANDAE	이 만데	M	Shinnam Middle School	Principal	Physical Education	Seoul ソウル
C-23	오유나	OH	YUNA	오 유나	F	Jeonnam Foreign Language High School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
C-24	박혜선	PARK	HAYE SEON	박 헤손	F	Korean Minjok Leadership Academy	Teacher	Earth Science & Counseling	Gangwon 江原
C-25	송용근	SONG	YONG KEUN	송 용근	M	Daedeok High School	Principal	N/A	Daejeon 大田
C-26	성창준	SUNG	CHANG JUN	송 찬준	M	SangDang High School	Teacher	Math	Chungbuk 忠清北道
C-27	서예식	SURH	YESIK	서 예식	M	Cheongmyeong High School	Vice Prin.	Art	Gyeonggi 京畿
C-28	이준호	YI	JUNHO	이 준호	M	Wonhwa Girls' High School	Teacher	English	Daegu 大邱
C-29	유대환	YOO	DAE HWAN	유 테판	M	Seoul Metropolitan Office of Education	Supervisor	Geography	Seoul ソウル
C-30	김승윤	KIM	SEUNG-YOON	키ム 슌윤	M	Korean National Commission for UNESCO	Assistant Secretary General	N/A	Seoul ソウル

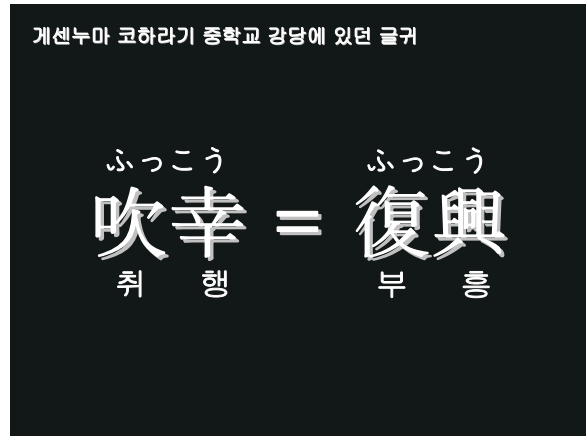
通訳: 牛尾 惠子、裴 聖淑

ACCU 随員: 杉原 由美子

Cグループ参加者 気仙沼市市長、教育長表敬訪問にて



Cグループ報告会発表資料より



◆付録 3. 参加者リスト

【Dグループ：岡山県岡山市（主に中学校・高等学校教員）】28名

그룹 장: No.D-4 홍자순 (그룹장:ホン ジャスン)

그룹 코디네이터: No.D-30 서현숙 (그룹코디네이터:ソ ヒョン숙)

No	Name (Kor)	Name (Last)	Name (First)	Name (ヨミガナ)	Sex (M/F)	School/Org name (Eng)	Title	Subjects	School (City/Province)
D-1	백경실	BAEK	KYUNG SIL	ベク キョンシル	F	Siheung Eunhaeng Middle School	Teacher	English	Gyeonggi 京畿
D-2	차미정	CHA	MIJEONG	チャ ミジョン	F	Annam Middle School	Teacher	Korean	Gyeongnam 慶尚南道
D-3	최현숙	CHOI	HYEONSOOK	チェ ヒョン숙	F	Changdeok Middle School	Teacher	Math	Gyeongnam 慶尚南道
D-4	홍자순	HONG	JA SOON	ホン ジャスン	F	Boseong Girls' Middle School	Principal	N/A	Seoul ソウル
D-5	홍수연	HONG	SOOYEOUN	ホン スヨン	F	Seoul National University Girls' Middle School	Teacher	Korean	Seoul ソウル
D-6	황효경	HWANG	HYOKYUNG	ファン ヒョギョン	M	Haksan Girls' Middle School	Teacher	Korean	Busan 釜山
D-7	정민서	JEONG	MIN SEO	チョン 민소	F	The Middle School Affiliated with G.S.N.U	Teacher	Social Studies	Gyeongnam 慶尚南道
D-8	정아름	JUNG	AH REUM	チョン アルム	F	Shinnam Middle School	Teacher	Home Science	Seoul ソウル
D-9	강은희	KANG	EUN HUI	칸 언희	F	Namwon Middle School	Teacher	Social Studies	Jeju 濟州
D-10	김부훈	KIM	BOO HOON	김 부훈	M	Seongchang Girls' High School	Teacher	English	Gyeongbuk 慶尚北道
D-11	김동호	KIM	DONG HO	김 동호	M	Taegu Foreign Language High School	Vice Prin.	N/A	Daegu 大邱
D-12	김현희	KIM	HYUNHEE	김 현희	F	Damyang Middle School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
D-13	김진숙	KIM	JINSOOG	김 진숙	F	Dongjin Girls' Middle School	Teacher	Music	Gyeongnam 慶尚南道
D-14	김영준	KIM	YOUNG JUN	김 영준	M	Onam-High School	Teacher	Science	Gyeonggi 京畿
D-15	이은영	LEE	EUNYOUNG	이 은영	F	Jincheon Girls' Middle School	Teacher	English	Chungbuk 忠清北道
D-16	이희동	LEE	HEE DONG	이 히동	M	Annam Middle School	Teacher	Physical Education	Gyeongnam 慶尚南道
D-17	이혜원	LEE	HYEWON	이 혜원	F	Seoul National University High School	Teacher	English	Seoul ソウル
D-18	이정엽	LEE	JONG YUP	이 정엽	M	Yong Gang Middle School	Teacher	Physical Education	Seoul ソウル
D-19	이경애	LEE	KYUNGYAE	이 경애	F	Daedeok High School	Teacher	Home Economics	Daejeon 大田
D-20	이삼식	LEE	SAMSIK	이 삼식	M	Suncheon Girls' High School	Principal	Social Studies	Jeonnam 全羅南道
D-21	이성철	LEE	SUNGCHUL	이 성철	M	Manwol Middle School	Teacher	English	Incheon 仁川
D-22	이수영	LEE	SUYOUNG	이 수영	F	Centum Middle School	Teacher	English	Busan 釜山
D-23	임미은	LIM	MIEUN	임 미은	F	Suwon Academy of World Languages	Teacher	Russian Language and Literature	Gyeonggi 京畿
D-24	오종숙	OH	JONGSUK	오 종숙	F	Miryang Girls' High School	Teacher	Home Economics	Gyeongnam 慶尚南道
D-25	박석환	PAK	SEOKWAN	박 석환	M	Daicheong Middle School	Teacher	English	Busan 釜山
D-26	박명식	PARK	MYONGSIK	박 명식	M	Ungchon Middle School	Teacher	Social Studies	Ulsan 蔚山
D-27									
D-28	김애영	KIM	AE YOUNG	김 애영	F	Daejeon Boksuhighschool	Principal	English	Daejeon 大田
D-29									
D-30	서현숙	SEO	HYUN SOOK	소 히ョン숙	F	Korean National Commission for UNESCO	Head	N/A	Seoul ソウル

通訳:李 美美、柴田 郁夫

ACCU 随行者:霜中 路世

Dグループ参加者 自由学園にて



Dグループ報告会発表資料より

4.(2) ESD in Okayama 1月15日

ECO Museum

아유모도끼 인공번식

- 천연기념물
- 인공번식을 통한 개체수 보존

자연보호 사업

- 반딧불 체험
- 제조작업 실시

가와가끼 도장

- 아이들과 강에서 함께하는 행사
- 자연보호 및 생물의 희소성 교육

지속가능한 농업

- 농업과 자연보호의 대립 완화
- 생산자와 자연보호 실천가의 경쟁 완화를 통한 지속가능발전

타카시마 공민관



◆付録 3. 参加者リスト

【Eグループ：福岡県（主に高等学校教員）】30名

그룹 장: No.E-1 부재호 (그룹장: 부 재호)

그룹 코디네이터: No.E-30 정소여 (그룹코디네이터: 정 소 여)

No	Name (Kor)	Name (Last)	Name (First)	Name (ヨミガナ)	Sex (M/F)	School/Org name (Eng)	Title	Subjects	School (City/Province)
E-1	부재호	BOO	JAIHO	ブ ジェホ	M	Jeju Juanang High School	Principal	N/A	Jeju 济州
E-2	최준호	CHOI	JUN HO	チェ ジュンホ	M	Jeonju Youngsaeng High School	Teacher	Social Studies	Jeonbuk 全羅北道
E-3	최경윤	CHOI	KYUNGYOON	チェ キョンフン	F	Munsan Girls' High School	Teacher	Ethics	Gyeonggi 京畿
E-4	최수경	CHOI	SOO KYUNG	チェ スギョン	F	Young Shin Girls' High School	Teacher	Japanese	Seoul ソウル
E-5	하진수	HA	JINSOO	ハ ジンス	M	ChungNam High School	Teacher	Korean	Daejeon 大田
E-6	허상배	HUH	SANG BAE	ホ サン베	M	Suncheon Girls' High School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
E-7	황성석	HWANG	SONGSOK	ファン ソンсок	M	Jeonnam Science High School	Teacher	English	Jeonnam 全羅南道
E-8	전기윤	JEON	KIYOON	チョン 키윤	M	Seongpo High School	Teacher	History	Gyeonggi 京畿
E-9	정경자	JEONG	KYEONGJA	チョン 키옹자	F	Munhyang High School	Teacher	Commercial Information	Jeonnam 全羅南道
E-10	정영현	JEONG	YOUNGHEON	チョン 옹혼	M	Gyeongsang Girls' High School	Teacher	English	Daegu 大邱
E-11	김대일	KIM	DAEIL	킴 데일	M	Pohang Jungang High School	Teacher	Geography	Gyeongbuk 慶尚北道
E-12	김한기	KIM	HANGI	킴 한기	M	Daegu Jeil High School	Teacher	Geography	Daegu 大邱
E-13	김정숙	KIM	JUNG SOOK	킴 정스숙	F	Jeju Jung-ang Girls' High School	Teacher	English	Jeju 济州
E-14	김나경	KIM	NAKYOUNG	킴 나기영	F	Dangjin High School	Teacher	Ethics	Chungnam 忠清南道
E-15	김영환	KIM	YOUNG HOWAN	킴 옹환	M	Miryang Girls' High School	Principal	N/A	Gyeongnam 慶尚南道
E-16	권택문	KWON	TAEK MOON	クオン テク문	M	Cheongju Daeseong High School	Teacher	Math	Chungbuk 忠清北道
E-17	이기성	LEE	KEE SEONG	이 키성	M	Seoul National University High School	Principal	N/A	Seoul ソウル
E-18	이경복	LEE	KYUNG BOK	이 키영복	M	Heungduk High School	Principal	N/A	Chungbuk 忠清北道
E-19	이상호	LEE	SANGHO	이 산호	M	Sanmaeul High School	Teacher	Geography	Incheon 仁川
E-20	이소형	LEE	SO HYUNG	이 소형	F	Uiseoung High School	Teacher	Japanese	Gyeongbuk 慶尚北道
E-21	문영희	MOON	YOUNGHEE	문 옹희	F	Sookmyung Girls' High School	Teacher	Art	Seoul ソウル
E-22	박경미	PARK	KYUNGMI	박 키영미	F	Gangneung Girls' High School	Teacher	Korean	Gangwon 江原
E-23	박윤주	PARK	YUNJU	박 윤주	F	Taegu Foreign Language High School	Teacher	English	Daegu 大邱
E-24	성현제	SEONG	HEON JE	송 혼제	M	Korean Minjok Leadership Academy	Teacher	Physical Education	Gangwon 江原
E-25	신호광	SHIN	HO KWANG	신 호광	M	Busan International High School	Teacher	Math	Busan 釜山
E-26	윤혜정	YOON	HYE JEONG	윤 헤정	F	Gyeongnam Girls High School	Teacher	English	Busan 釜山
E-27	유성종	YU	SUNG JONG	유 송종	M	Hanyang University High School	Vice Prin.	Geography	Seoul ソウル
E-28	권희정	KWON	HEEJUNG	クオン ヒ정	F	Ministry of Education, Science and Technology(MEST)	Assistant Director	N/A	Seoul ソウル
E-29	최유순	CHOI	YOO SOON	체 유순	F	National Assembly of the ROK	Legislative Researcher	N/A	Seoul ソウル
E-30	정소여	JUNG	SOYEO	チョン 소 여	F	Korean National Commission for UNESCO	Assistant Programme Specialist	N/A	Seoul ソウル

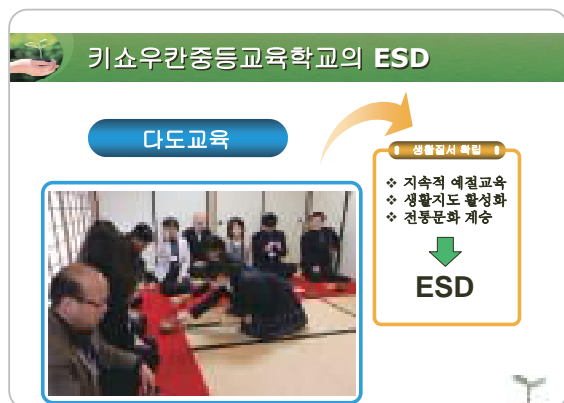
通訳: 森下 隆雄、坂本 由紀恵

ACCU 随員: 佐々木 万里子

E그룹 참가자 輝翔館中等教育学校にて



E그룹 報告会発表資料より



◆付録 4. 関係機関リスト

(1) 全体プログラム

United Nations University (UNU)

国際連合大学

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

Tel: 03-5467-1212 Fax: 03-3499-2828

URL: <http://unu.edu/>

武内 和彦

Mr. TAKEUCHI Kazuhiko

国際連合大学 副学長

国際連合大学 サステイナビリティと平和研究所 所長

Vice Rector, UNU

Director, UNU-ISP

加藤 敬

Mr. KATO Takashi

国際連合大学 大学院事務局長

国際連合大学 サステイナビリティと平和研究所 上席学術プログラムオフィサー

Secretary General, Graduate School of UNU

Senior Academic Programme Officer, UNU-ISP

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 日本出版会館

TEL: 03-3269-4498 FAX: 03-3269-4510

Email: general@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫

Mr. TAMURA Tetsuo

理事長

Director-General

島津 正敷

Mr. SHIMAZU Masakazu

事務局長

Secretary General

柴尾 智子

Ms. SHIBAO Tomoko

事業部次長

Deputy Director, Programme Dept.

佐々木 万里子(Group E)

Ms. SASAKI Mariko

人物交流課長

Director, International Exchange Div.

米島 百合子 (Group A)

Ms. YONESHIMA Yuriko

人物交流課係員

International Exchange Div.

外山 紀子 (Group B)

Ms. TOYAMA Noriko

人物交流課係員

International Exchange Div.

杉原 由美子 (Group C)

Ms. SUGIHARA Yumiko

人物交流課係員

International Exchange Div.

霜中 路世 (Group D)

Ms. SHIMONAKA Michiyo

人物交流課係員

International Exchange Div.

(1) 全体プログラム

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

文部科学省 (MEXT)

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3 丁目 2 番 2 号

TEL: 03-5253-4111 URL: <http://www.mext.go.jp>

Embassy of the Republic of Korea

駐日本国大韓民国大使館

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4 丁目 4 番 10 号

TEL: 03-3225-7341 Fax: 03-3225-9135

URL: <http://www.japanem.or.kr>

(2) グループプログラム

Board of Education (Group Programme)

A. Saitama City Board of Education

さいたま市教育委員会 教育長 桐淵 博
学校教育部指導1課 主任指導主事 小林 正美
〒330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-4
TEL: 048-829-1662
URL: <http://gakkoukyouiku.saitama-city.ed.jp/>

B. Yosano Town Board of Education

与謝野町教育委員会 教育長 垣中 均
教育推進課学校教育係 係長 坪倉 由貴
〒629-2498 京都府与謝郡与謝野町字加悦 433
TEL: 0772-43-2193
URL: <http://www.town.yosano.lg.jp/>

C. Kesenuma City Board of Education

気仙沼市教育委員会 教育長 白幡 勝美
学校教育課 課長補佐兼指導係長 伊東 毅浩
〒988-8502 宮城県気仙沼市八日町 1-1-10
TEL: 0226-22-6600
URL: <http://www.city.kesenuma.lg.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>

D. Okayama City and Okayama City Board of Education

岡山市 市長 高谷 茂男
環境局環境保全課 主事 流尾 正亮、市民局国際課 主任 佐藤 宣之
岡山市教育委員会 教育長 山脇 健
事務局指導課 課長補佐兼教育研究研修センター所長補佐 中島 陽子
〒700-8544 岡山県岡山市北区大供 1-1
TEL: 086-803-1284
URL: <http://www.city.okayama.jp/>

E. Fukuoka Prefectural Board of Education

福岡県教育庁 教育委員会教育長 杉光 誠
教育振興部高校教育課 指導班 指導主事 中野 敏昭
〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園 7-7
TEL: 092-643-3905
URL: <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

◆付録 5. 文部科学省講義資料

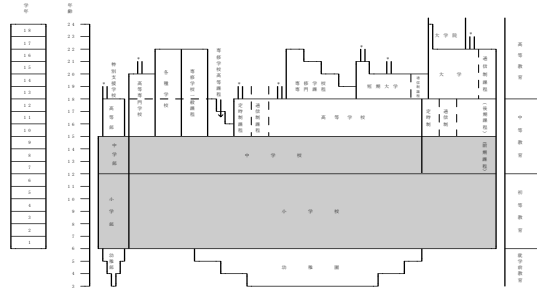


日本の初等中等教育の現状について

2012年1月
文部科学省初等中等教育局
南野圭史

学校教育制度

日本の学校系統図



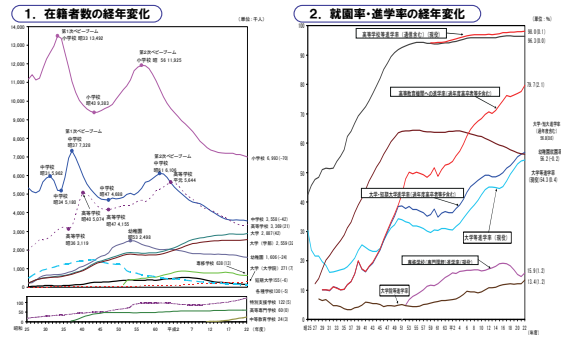
【注】(1) 〇 国立・公立・私立を区別せず。
(2) 〇 小学校、中学校、高等学校の教員免許取得者数に相当する。

初等中等教育段階の学校数、在籍者数、本務教員数

学校種	学校数(校数)	在籍者数(人数)	本務教員数(人数)
幼稚園	13,392	1,605,912	110,580
小学校	22,000	6,993,376	419,776
中学校	10,815	3,558,166	250,899
高等学校	5,116	3,368,693	238,929
中等教育学校	48	23,759	1,893
特別支援学校	1,039	121,815	72,803
合計	62,410	16,671,721	1,094,880

(出典:文部科学省「2010年度学校基本調査」より)

在籍者数、就園率・就学率の経年変化



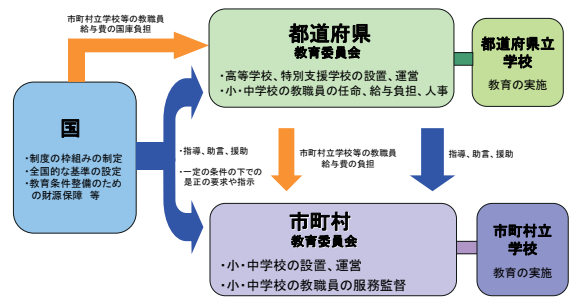
義務教育制度の概要

憲法
第26条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

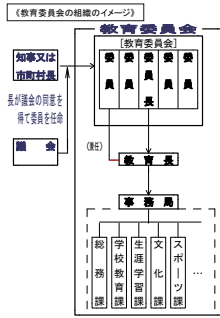
教育基本法
第6条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。
2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。
3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。
4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

学校教育法
【就学義務】
第17条(就学) 保護者は、子の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満十二歳に達した日の属する学年の終わりまで、これを小学校又は特別支援学校の小学校に就学させる義務を負う。
【設置義務】
第38条 市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならない。
※中学校についても同様の規定あり。

教育行政制度の概要(国・都道府県・市町村の役割)



教育委員会制度の概要



- 1. 教育委員会制度の仕組み**
 - 教育委員会は、首長から独立した行政委員会として全ての都道府県及び市町村等に設置。
 - 教育委員会は、教育行政における重要事項と基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行。
 - 教育委員は、非常勤で、原則5人、任期は4年で、再任可
 - 教育長は、常勤で、教育委員のうちから教育委員会が任命。
- 2. 教育委員会制度の意義**
 - ① 政治的中立性の確保**
教育は、その内容が中立公正であることが極めて重要。個人的な偏見判断や特定の党派的影響力から中立性を確保することが必要。
 - ② 継続性・安定性の確保**
特に義務教育について、学習期間を通じて一貫した方針の下、安定的に行われることが必要。
 - ③ 地域住民の意向の反映**
教育は、地域住民にとって関心の高い行政分野であり、専門家のみが担うのではなく、広く地域住民の参加を踏まえて行われることが必要。

新しい教育基本法の概要 (2006年12月成立)

第1章 教育の目的・理念
 (1) 教育の目的・理念を明示
 ① 教育の目的として「人格の完成」、「国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成」を規定
 ② この教育の目的を実現するために今日重要と考えられる事項を「教育の目標」として規定

<教育の目標の例>
 ・幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健全な身体
 ・能力の伸長、自主・自律の精神、職業との関連を重視
 ・正義と責任、自他の敬愛と協力、男女の平等、公共の精神
 ・社会や自然の尊重、環境の保全
 ・伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与

(2) 「生涯学習の推進」(「教育の機会均等」を規定)

第2章 教育の実施に関する基本
 教育を実施する際に基本となる事項として、これまでの教育基本法にも定められていた、「義務教育」、「学校教育」、「教育」、「社会教育」、「家庭教育」、「宗教教育」に関する規定を見直すとともに、新たに「大学」、「私立学校」、「家庭教育」、「幼児期の教育」、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」について規定

第3章 教育行政
 教育行政における国と地方公共団体の役割分担、教育委員基本計画の策定等について規定

第4章 法令の制定
 この法律の諸条文を実施するための必要な法令の制定について規定

(下線文字は新たに規定したものと及び新設条文)

教育の目標

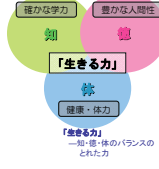
- 教育基本法**
 (教育の目標)
第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われなければならない。
- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
 - 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
 - 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、男女の平等、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
 - 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
 - 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんで我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- 学校教育法**
第30条 (略)
- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

新しい学習指導要領

教育基本法の改正等を踏まえ、幼稚園教育要領、小・中・高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領を改訂

学習指導要領の改訂のポイント

- 1. 学習指導要領改訂の基本的な考え方**
 - ① 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
 - ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
 - ③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな身体を育成
- 2. 授業時数の増加(小・中学校)**
 - 国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育の授業時数を約10%増加
 - 過当たりのコマ数を小学校低学年で減らし、小学校中・高学年、中学校各学年で増やすこと
- 3. 必修科目、教育課程編成時の配慮事項等(高等学校)**
 - 学習の基礎となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上
 - 義務教育課程の学習内容の充実を踏まえた学習機会を設けることを促進
- 4. 教育内容の主な改善事項**
 - ① 言語活動の充実
 - ② 読書活動の充実
 - ③ 伝統や文化に関する教育の充実
 - ④ 道徳教育の充実
 - ⑤ 体験活動の充実
 - ⑥ 外国語教育の充実



思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動の例

- ① 体験から感じ取ったことを表現する**
 (例) ・ 日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する**
 (例) ・ 身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする**
 (例) ・ 需要、供給などの概念で価格の変動を捉えて生産活動や消費活動に生かす
 ・ 衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する
- ④ 情報を分析・評価し、論述する**
 (例) ・ 学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
 ・ 文章や資料を眺んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)以内の条件の中で表現する
 ・ 自然現象や社会的現象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取り、これらを用いて分かりやすく表現したりする
 ・ 自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する**
 (例) ・ 理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
 ・ 芸術表現のつくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる**
 (例) ・ 予題や仮説の検証方法を考察する場面や、予想や仮説と検証方法を前倒ししながら考えを深める場面
 ・ 将来の学習に関する問題などにおいて、聞き手やペアの形成を用いて議論を深め、より高度な解決策に至る経験させる

小学校の標準授業時数

学年	改訂前						現行 (2011~)					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
国語	272	280	235	235	180	175	317	317	317	317	317	317
社会	—	—	—	70	85	90	100	345	—	—	—	—
算数	114	155	150	150	150	150	889	136	175	175	175	1011
理科	—	—	70	90	95	95	350	—	90	105	105	435
生活	102	105	—	—	—	—	207	102	105	—	—	—
音楽	68	70	60	60	50	50	358	68	70	60	60	50
図画	68	70	60	60	50	50	358	68	70	60	60	50
工作	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家庭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
体育	90	90	90	90	90	90	540	102	105	105	90	90
道徳	34	35	35	35	35	35	209	34	35	35	35	209
特別活動	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	782	840	910	945	945	5387	850	910	945	980	980	5065

注：()内は過当たりのコマ数。

中学校の標準授業時数

現 行					改訂後 (2012~)				
学年	1	2	3	計	学年	1	2	3	計
教科書					教科書				
国 語	140 (4)	105 (3)	105 (3)	350	国 語	140 (4)	140 (4)	105 (3)	385
社 会	105 (3)	105 (3)	85 (2.4)	295	社 会	105 (3)	105 (3)	140 (4)	350
数 学	105 (3)	105 (3)	105 (2.3)	315	数 学	140 (4)	105 (3)	140 (4)	385
理 科	105 (3)	105 (3)	80 (2.3)	290	理 科	105 (3)	140 (4)	140 (4)	385
音 楽	45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	115	音 楽	45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	115
美 術	45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	115	美 術	45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	115
保健体育	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	270	保健体育	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315
技術・家庭	70 (2)	70 (2)	35 (1)	175	技術・家庭	70 (2)	70 (2)	35 (1)	175
外国語	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315	外国語	140 (4)	140 (4)	140 (4)	420
道 徳	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105	道 徳	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
特別活動	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105	特別活動	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
総合的な 学習の時間	0~30 (0~0.9)	50~65 (1.4~2.4)	105~105 (2.9~3)	200~205	総合的な 学習の時間	50 (1.4)	70 (2)	70 (2)	190
合 計	980 (28)	980 (28)	980 (28)	2940	合 計	1015 (29)	1015 (29)	1015 (29)	3045

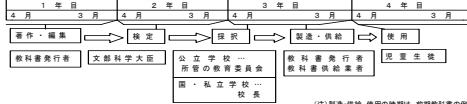
注：()内は当たりのコマ数。

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔改訂〕		〔現行〕		〔改訂〕		〔現行〕	
国語	140	140	105	140	140	105	385
社会	105	105	140	105	105	140	350
数学	140	105	140	140	105	140	385
理科	105	140	140	105	140	140	385
音楽	45	35	35	45	35	35	115
美術	45	35	35	45	35	35	115
保健体育	90	90	90	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	70	70	35	175
外国語	140	140	140	140	140	140	420
道徳	35	35	35	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	35	35	35	105
総合的な 学習の時間	0~30	50~65	105~105	50	70	70	190
合 計	980	980	980	1015	1015	1015	3045

教科書制度の概要

教科書が使用されるまでの基本的な流れ



〇著作・編集

現在の教科書制度は、民間の教科書発行者による教科書の著作・編集が基本となる。各発行者は、学習指導要領、教科用図書決定基準等をもとに、創意工夫を加えた図書を作成し採定申請を行う。

〇採定

現在の教科書制度は、民間の教科書発行者による教科書の著作・編集が基本となる。各発行者は、学習指導要領、教科用図書決定基準等をもとに、創意工夫を加えた図書を作成し採定申請を行う。

〇採納

現在の教科書制度は、民間の教科書発行者による教科書の著作・編集が基本となる。各発行者は、学習指導要領、教科用図書決定基準等をもとに、創意工夫を加えた図書を作成し採定申請を行う。

〇採納

現在採定済教科書は、通常、1種目について数種類存在するため、この中から学校で使用する1種類の教科書が採定（採納）される。採定の権限は、公立学校については、所管の教育委員会に、国・私立学校については、校長にあり、採定された教科書の必要数は、文部科学大臣に報告される。

〇発行（編集・供給）及び利用

文部科学大臣は、報告の集計結果に基づき、各発行者に発行すべき教科書の種別及び部数を指示。この指示を承認した発行者は、教科書を製造し、供給業者に依頼して各学校に供給し、供給された教科書は、児童生徒の手に渡り、使用される。

〇教科書の無償給付

国・公立の義務教育諸学校（小・中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の小・中学期）で使用される教科書については、全児童生徒に対し、国の負担によって無償で給与されている。

教員養成・免許制度の概要

免許主義と開放制の原則

免許主義

教員は、教員免許法により採定される各相当の免許状を有する者でなければならない。

開放制の原則

わが国の教員養成は、一般大学と教員養成系大学とがそれぞれの特色を發揮しつつ行っている。

教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上

養成

採用

研修

適切な人事管理

養成

採用

研修

適切な人事管理

特別支援教育

特別支援教育の対象者

- ① 特別支援学校 0.60% (約6万4千人)
- ② 小・中学校の特別支援学級 1.37% (約14万5千人)
- ③ 通級による指導 0.57% (約6万1千人)
- ④ 通常学級にLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症等の児童生徒が約6.3%在籍の可能性(H14文部科学省調査)

<学校教育法の一部改正(2007年4月施行)>

- ・盲学校、聾学校、養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化。
- ・小・中学校等においては、発達障害を含む障害のある児童生徒等に対して適切な教育を行うことを規定。
- ・特別支援学校においては、在籍児童生徒等の教育を行うほか、小・中学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について助言援助に努める旨を規定。

<課題> 特別支援教育の対象児童生徒等の増大

・2011年度から2010年度にかけて、特別支援学校在籍者は、約32%増、小・中学校の特別支援学級在籍者は約88%増、通級指導対象者は約105%増。

障害者基本法の一部改正(2011年8月)

- ・可能な限り障害者である児童生徒が障害者でない児童生徒と共に教育を受けられるよう配慮
- ・その際、障害者である児童生徒及びその保護者に対し十分な情報提供を行うとともに、可能な限りその意向を尊重。

公立高等学校の授業料無償化制度の概要

〇公立高校の授業料無償化

〇私立高等学校等に通う生徒に対する就学支援金制度

(2010年4月施行)

趣 旨

家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、公立高校の授業料を無償化するとともに私立高等学校に通う生徒に対して高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育負担を軽減する。

制度概要

- 〇 公立の高等学校については授業料を不徴収とし、地方公共団体に対して授業料収入相当額を国費により負担。
 - 〇 私立の高等学校生徒については、高等学校等就学支援金として授業料について一定額(年額118,800円)を助成することにより、教育負担の軽減を図る。
 - 〇 私立の高等学校に通う低所得世帯の生徒については、所得に応じて、助成金額を1.5~2倍した額を上限として助成する。
- | | |
|-----------------|----------------|
| 年収250万円未満程度 | 237,600円(2倍) |
| 年収250~350万円未満程度 | 178,200円(1.5倍) |

日本のESDの現状について

韓国教員招へいプログラム
2012年1月12日

文部科学省国際統括官補佐 井村 隆 (日本ユネスコ国内委員会事務局)



持続発展教育 (ESD)について(1/2)

Sustainable Development (持続可能な発展)とは…

「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」
報告書『我ら共通の未来(Our Common Future)』(1987年)における定義

持続発展教育(ESD)とは…

「持続可能な社会の担い手を育む教育」

⇒ 持続可能な社会を構築するための人づくり

2

持続発展教育 (ESD)について(2/2)

国連持続可能な発展のための教育の10年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - 2005～2014年の10年
 - ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
 - 全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ボン宣言の採択
- 2014年 DESD最終年会合
 - 日本で開催予定

3

ESDIに関する我が国の取組

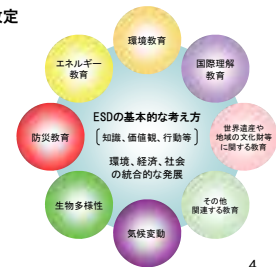
- 2005年 内閣官房に関係省庁連絡会を設置
- 2006年 DESD国内実施計画を策定
- 2011年 DESD国内実施計画を改定

基本的考え方(国内実施計画)

ESDIは、持続可能な社会づくりの担い手となるよう個人を育成する教育。

特に、

- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
- 個人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。



4

ESDIに関する文部科学省の取組 (1/4)

日本ユネスコ国内委員会

- 2003年 「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関してユネスコが策定する国際実施計画への提言
- 2007年 「持続可能な開発のための教育の10年」の更なる推進に向けたユネスコへの提言
 - 同年第34回ユネスコ総会でESD推進のための決議へ
- 2008年 持続発展教育(ESD)の普及促進のためのユネスコスクール活用について(提言)

※ 2008年までESDは「持続可能な開発のための教育」と訳してきたが、より一層の普及のため、「持続可能な発展のための教育」と訳し、「**持続発展教育**」と略称することとした。

5

ESDIに関する文部科学省の取組 (2/4)

「持続発展教育(ESD)の普及促進のためのユネスコスクール活用について(提言)」

- ◆ ユネスコスクール参加のメリット
 - ユネスコスクールへの支援の充実
 - 事務局機能の強化による支援体制の充実
- ◆ わかりやすい登録システム
- ◆ 活動資金等の充実

6

ESDに関する文部科学省の取組(3/4)
学習指導要領の改訂(2008年3月公示)

- 中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善について」(2008年1月)
 「持続可能な発展」、「持続可能な社会の構築」が求められている状況に鑑みた改善の実施
 - 一 教科等を横断して改善(環境教育、ものづくり教育)
 - 一 各教科・科目等の内容の改善(社会、地理歴史、公民、理科、技術・家庭)等
- 新学習指導要領(2008年3月、2009年3月)
 小学校学習指導要領の総則や理科、社会、中学校学習指導要領の理科、公民、地理、高校学習指導要領の地理歴史、公民などに持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれている※
 ※ユネスコスクールHP参照(http://www.unesco-school.jp/?page_id=637)

ESDに関する文部科学省の取組(4/4)

教育振興基本計画の策定(2008年7月)

- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策
 いつでもどこでも学べる環境をつくる
持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進
 - 一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について、広く啓発活動を行う・・・。
 - 特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコスクール加盟校の増加を目指し、支援する。

国立教育政策研究所
学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究

【ESDの視点に立った学習指導の目標】

教科等の学習活動を進める中で、「**持続可能な社会づくりにかかわる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力・態度を身に付ける**」ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。

- 【持続可能な社会づくりの要素】**
- ① 相互性
 - ② 多様性
 - ③ 有限性
 - ④ 公平性
 - ⑤ 責任性
 - ⑥ 協調性

- 【ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度】**
- ① 批判的に思考・判断する力
 - ② 未来像を予測して計画を立てる力
 - ③ 多面的、総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他者と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 責任を重んじる態度

ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

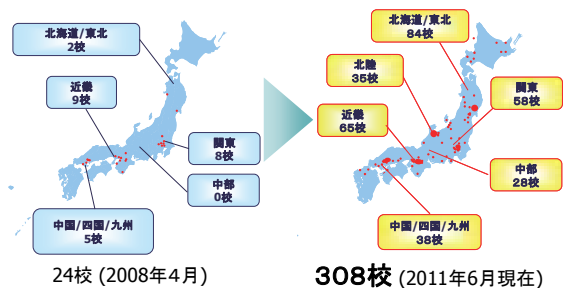
◆参加資格

- 就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成学校、特別支援学校等(国公立を問わず)
- ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要

ユネスコスクールとESD



ユネスコスクール加盟校数の現況



ユネスコスクールへの支援

ユネスコスクール ウェブサイトの設置

ユネスコスクール加盟校増加やネットワーク強化、ESDの理解増進を図ることを目的に、ウェブサイトを設置（平成21年3月～）



コンテンツ

- ▶ ESDやユネスコスクールに関する基本情報の発信
- ▶ ユネスコスクール間の情報交換等の場の提供
- ▶ 優良事例や教材等の紹介
- ▶ ユネスコスクール全国大会などのイベント紹介（資料ダウンロード、動画配信）等

ユネスコスクールウェブサイト
<http://www.unesco-school.jp/>

13

企業におけるユネスコスクールへの支援

▶ ユネスコスクールへのプレートの寄贈



ユネスコスクール加盟校に対してプレートを贈呈

（「ユネスコスクール」の表記変更に伴い、プレートの表記も今後変更予定）

▶ ESD関連の教材提供

環境教育用教材や国際理解教育用教材など様々な教材が企業により作成され学校に配布されている。



小学生向けに編集した環境教育教材「Kids X change」(キッズ・エクスチェンジ)

▶ ユネスコスクールへの支援事業

ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金
 助成の対象：国内全てのユネスコスクール加盟校
 助成金額：1校あたり10万円を上限

<http://www.unesco.jp/contents/help/esd.html>

▶ ESDロゴマークのホームページなどへの掲載



私たちはESDを応援しています。
 ESDは持続可能な社会づくりを目指す活動です
 (ESD: Educator for Sustainable Development)

ESDロゴマーク (ESDにご賛同いただける企業が広告、冊子、パンフレット及びホームページへの掲載をおこなっている。)

14

各教育機関・地域に期待される役割



- ・ユネスコスクールの拡充を通じて、現場レベルでの持続発展教育(ESD)の取組を促進し、優良事例を蓄積
- ・持続発展教育(ESD)の世界的取組を促進



ESDをコンテンツとした一體的な推進



世界
 ・世界的なパートナーシップの構築促進
 ・持続発展教育(ESD)の世界的取組の促進

日本から世界のネットワークへの発信

国内
 ・教材・カリキュラムの集積
 ・優良事例の蓄積
 ・パートナーシップの構築促進

御静聴ありがとうございました。

17

◆付録 6. ACCU 事業紹介資料

 <p>ACCU Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター</p>	 <p>ACCUのESD教材 ESD Materials by ACCU ACCU의ESD교재</p> <p>공익재단법인 유네스코·아시아문화센터(ACCU) 사업부차장 시바오 도모코 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 事業部次長 柴尾智子</p> <p>Shibao Tomoko Deputy Director, Programme Department Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)</p> <p>2011-2012年ACCU 国際教育交流事業 韓国教職員招へいプログラム</p> <p>平成24年(2012年)1月12日 ホテル・メトロポリタンエドモント「悠久」(東京)</p>
<p>発表の概要</p> <p>(1) 『ESD教材活用ガイドー持続可能な未来への希望』 『ひろがりつながるESD実践事例48』</p> <p>(2) 識字アニメ『ミナの笑顔』 環境・ESDアニメ『PLANET』</p>	
 <p>文化</p> <p>環境</p> <p>持続可能性</p> <p>経済 社会</p> <p>持続可能性の3要素</p>	<p>(1) 『ESD教材活用ガイドー持続可能な未来への希望』 『ひろがりつながるESD実践事例48』</p>



日本の小学校・中学校のESD
好事例をそこで使われている
教材を切り口に収集・分析

教材例：
地域の伝統産業（縞模様の木綿
布）
地域の歴史上の人物
地域の川
学校図書館
おなかをすかせる体験
ペットボトルのキャップ
回転寿司



全国のユネスコスクール48校
小学校、中学校、高校

平和
国際理解
人権
環境
福祉
郷土愛



ユネスコ・スクール公式ウェブサイト(英語版)



ユネスコ・スクール公式ウェブサイト





(2) 識字アニメ『ミナ笑顔』

環境・ESDアニメ『PLANET』



持続可能な開発

将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発

development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs

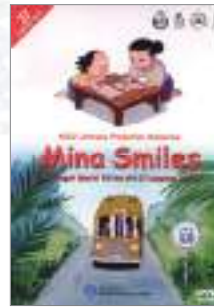
Our Common Future, 1987
国連「環境と開発に関する世界委員会」報告書



持続可能な開発

Enough for Everyone, Forever

インドの少女のSD定義
Charles Hopkins発表より



識字アニメーション
ミナ笑顔
Mina Smiles

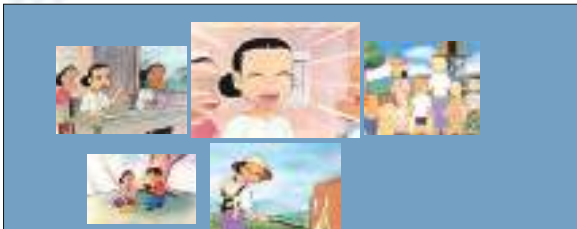
1993年 制作
その後、世界30か国で、
のべ39言語のローカル版が制作された
37言語収録DVD制作



ミナ笑顔・PLANET

ミナ笑顔・PLANET: 環境・ESD教材

東南アジアの架空の農村が舞台
主人公Minaと5人の子ども、家族・村人が主人公
マレーシアの国民的漫画家LATと日本のほこるアニメの大御所鈴木伸一
(杉並アニメミュージアム館長)のコラボ



PLANET

- ✓ アニメ短編(DVD)
- ✓ 小冊子
- ✓ ポスター
- ✓ 使用の手引き

PLANET 1 Water 水

PLANET 2 Forest 森

PLANET 3 Waste Management ゴミ

PLANET 4 Disaster Preparedness 防災



PLANET 1 “水”
各国言語版: 例



PLANET

- 自然と人間のつながりについて楽しく学ぶことができる教材
- 英語を含む多言語で利用可能
- アジアの多くの国で実践が展開されている



アジア太平洋地域のESD好事例



平和で持続可能な未来



ビジョンの共有と協働



◆付録 7. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
2001年2月5日～24日	東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県	50名
2002年1月24日～2月5日	東京都、三重県、兵庫県、京都府、奈良県	50名
2003年1月15日～28日	東京都、山口県、鳥取県、香川県、宮崎県、大阪府、京都府、奈良県	99名
2004年1月29日～2月10日	東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、京都府、奈良県	99名
2005年1月19日～2月1日	東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、大阪府、京都府、奈良県	99名
2006年1月11日～24日	東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府	98名
2007年1月23日～2月5日	東京都、北海道、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、奈良県、鹿児島県、大阪府、奈良県	159名
2008年1月22日～2月4日	東京都、群馬県、宮城県気仙沼市、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、秋田県、大阪府、京都府	158名
2009年2月3日～16日	東京都、福島県西郷村、埼玉県さいたま市、奈良県奈良市、高知県、熊本県、大阪府、京都府	150名
2010年1月12日～25日	東京都、宮城県気仙沼市、石川県金沢市、和歌山県、大阪府、大阪府豊中市、京都府	149名
2011年1月11日～24日	東京都、千葉県八千代市、京都府与謝野町、埼玉県さいたま市、千葉県、奈良県奈良市、大阪府	149名
2012年1月11日～22日	東京都、埼玉県さいたま市、京都府与謝野町、宮城県気仙沼市、岡山県岡山市、福岡県、大阪府	148名

●国際連合大学 2011-2012 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

2012 年 3 月

編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

Email general@accu.or.jp

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by Hokuetsu Printing Inc. [200]

©2012 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)